名張市における

令和8年度全国学力・学習状況調査

結果・分析と今後の取組

令和８年９月

名張市教育委員会

調査開始後１８回目（２０年目）を迎え、本年４月２３日を中心に、市内の小学校第６学年及び中学校第３学年の児童生徒を対象に行われた「全国学力・学習状況調査（以下「全国学調」）」の結果について、本市の児童生徒の学力の定着状況、学習状況、生活習慣等調査の分析結果や今後の取組を以下のとおりまとめました。

本調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる目的で実施するものです。なお、調査により測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面です。これらのことを十分考慮し、今後の名張市の学校教育の一層の充実を図ってまいります。

○実施年月日　　令和８年４月２３日（木）　他
※小学校：児童質問調査４月２４日～５月８日のうち、あらかじめ決定した実施日
中学校：生徒質問調査、英語３技能４月２０日～２３日のうち、あらかじめ指定された１日
英語（話すこと）４月２４日～５月２９日のうち、あらかじめ指定された１日

○市内調査児童数（全６年生１４小学校）：542名（当日実施数）
○市内調査生徒数（全３年生　５中学校）：565名（当日実施数）

１　各調査項目の平均正答率の状況
○名張市欄の平均正答率については、下記の基準で色分けしています。

名張市 ≧全国・三重県　　全国＞ 名張市 ≧三重県　　三重県＞ 名張市 ≧全国　　全国・三重県＞ 名張市

単位（%）

		前回年度 令和５年度	令和６年度		令和７年度			令和８年度		
小学校	調査項目		国語	算数	国語	算数	理科	国語	算数	
	名張市		68	63	65	55	54	62	53	
	全国比(全国を100)		100.4%	99.4%	97.3%	94.8%	94.6%	101.8%	94.0%	
	前回との比較		-2.2%	-1.4%	-3.1%	-4.6%	-4.9%	4.5%	-0.8%	
	三重県		67	62	66	57	56	61	55	
	全国		67.7	63.4	66.8	58.0	57.1	60.9	56.4	
中学校	調査項目	英語	国語	数学	国語	数学	理科	国語	数学	英語
	名張市	44	55	48	53	46	IRTスコア 495	65	56	IRTスコア 494
	全国比(全国を100)	96.5%	94.7%	91.4%	97.6%	95.2%	98.4%	101.7%	98.2%	99.0%
	前回との比較		-5.6%	-10.5%	2.9%	3.8%	5.1%	4.1%	3.0%	2.5%
	三重県	45	57	53	53	47	498	62	56	492
	全国	45.6	58.1	52.5	54.3	48.3	503.0	63.9	57.0	499.0

※IRTに基づく調査では、各問題の難易度等を用いて、IRTの数式により受検者の能力値を推定する。能力値は、難易度の高い問題に正答していると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出される。IRTスコアは、推定された能力値を分かりやすく示すものである。平均スコアを500としたIRTスコアで表示
※前回との比較については、100分の1以下まで算出（見かけの値と差があります。）
※英語の前回調査は令和５年度

＜小学校＞
　本年度、国語は全国平均、三重県平均を上回りました。算数は全国平均、三重県平均を下回りました。
＜中学校＞
　本年度、国語は全国平均、三重県平均を上回りました。数学は三重県平均と同程度でしたが全国平均は下回りました。英語は三重県平均を上回りましたが、全国平均は下回りました。全国平均に対する得点率は三教科全てで昨年度より上昇しました。

＜無解答率の状況＞（経年変化）

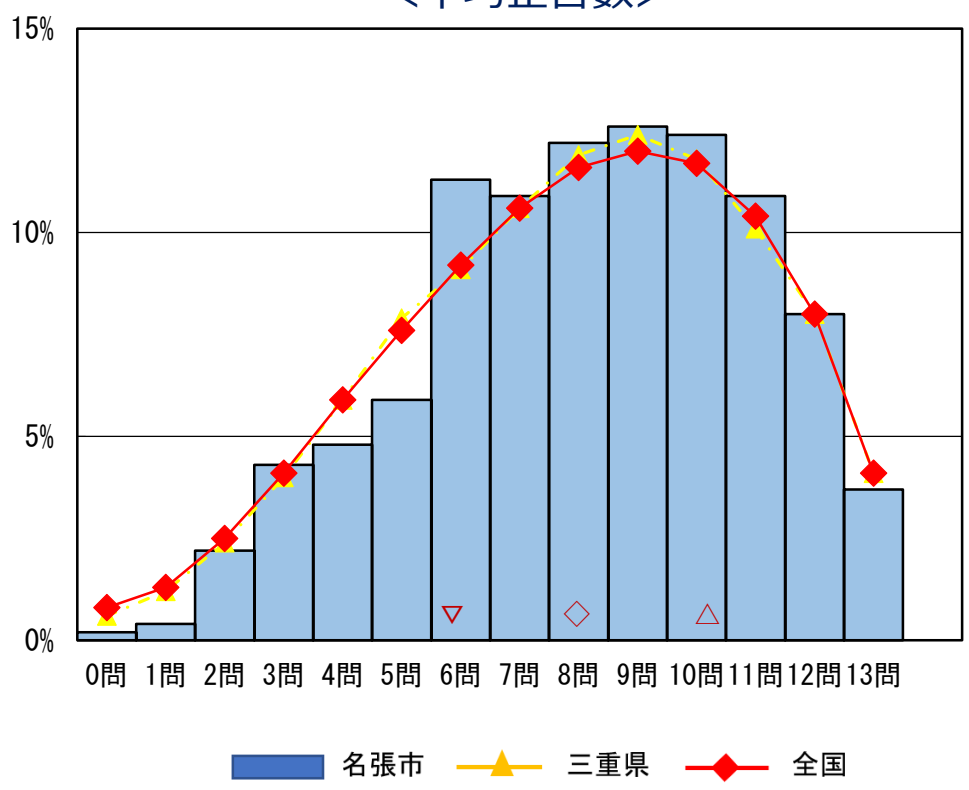
本年度も、小学校、中学校ともすべての教科の無解答率が全国平均より低く、よい傾向が見られ、諦めずに粘り強く取り組む様子がうかがえます。昨年度の課題であった無回答率の割合が高い教科（中学国語、数学）についても改善が見られました。

	調査項目	平成29年度		平成30年度		平成31年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和８年度		調査項目
		名張市	全国	名張市	全国	名張市	全国	名張市	全国	名張市	全国	名張市	全国	名張市	全国	名張市	全国	名張市	全国	
小学校	国語	4.36	4.31	4.21	3.76	5.99	6.21	3.5	4.34	5.5	5.7	3.43	4.84	2.86	4.18	2.84	3.32	2.16	3.41	国語
	算数	7.02	6.42	9.48	7.93	5.47	2.66	2.39	2.64	3.12	3.49	2.66	3.43	2.42	3.37	2.74	3.61	2.07	3.21	算数
	理科	－	－	1.46	1.21	－	－	－	－	3.62	3.58	－	－	－	－	2.76	2.83	－	－	理科
中学校	国語	2.17	3.8	1.96	3.01	1.86	2.64	3.52	4.36	4.31	4.26	4.08	4.59	3.4	3.92	6.10	6.69	2.73	4.86	国語
	数学	8.88	11.71	8.33	12.61	5.79	7.31	8.39	11.15	11.14	10.75	8.34	9.62	9.76	11.25	9.22	10.64	5.48	10.40	数学
	英語					4.27	5.99	－	－	－	－	5.53	5.69	－	－	－	－	1.98	3.43	英語
	理科	－	－	3.36	5.04	－	－	－	－	4.03	3.44	－	－	－	－	1.73	1.83	－	－	理科

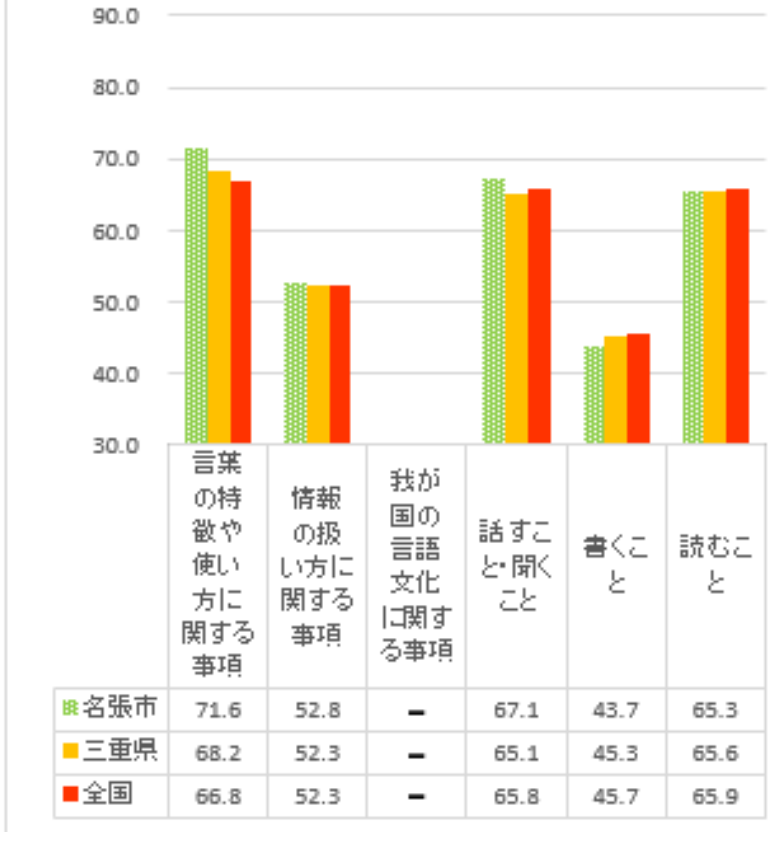
２　各調査項目の結果概要

小学校	国語		
	名張市	全国	差
平均正答率	62	60.9	＋1.1
無解答率	2.16	3.41	＋1.25

＜平均正答数＞



＜領域別／平均正答率＞



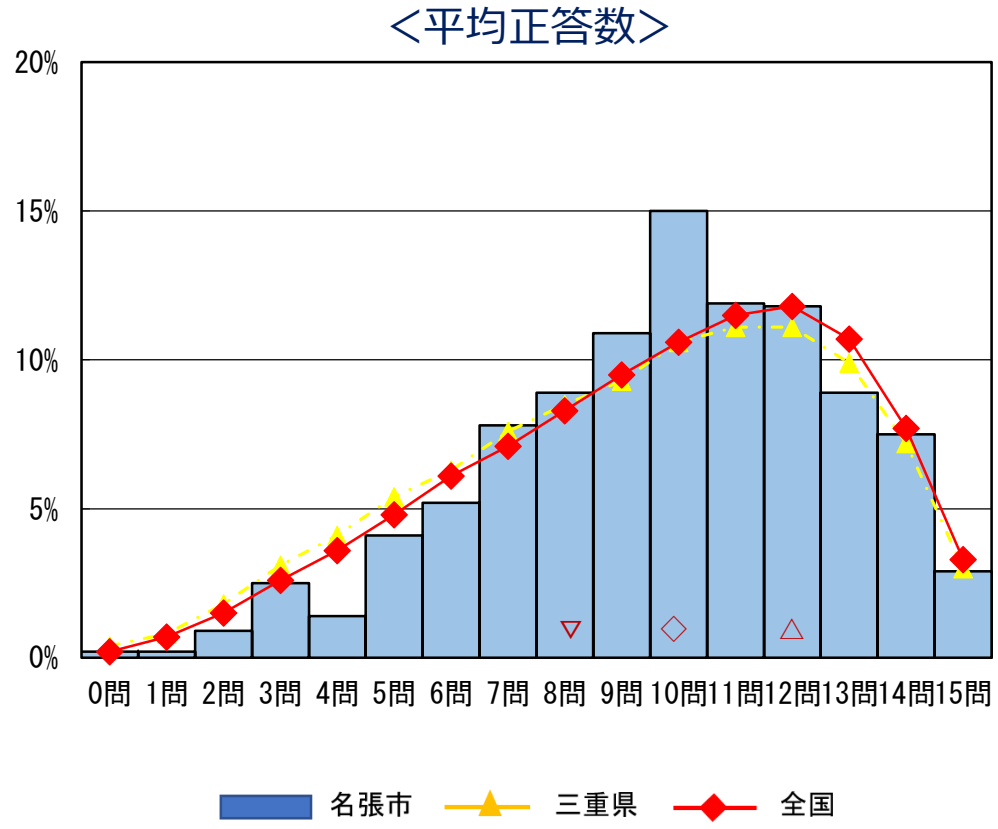
	言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
名張市	71.6	52.8	－	67.1	43.7	65.3
三重県	68.2	52.3	－	65.1	45.3	65.6
全国	66.8	52.3	－	65.8	45.7	65.9

★５つの項目のうち、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」の領域で全国平均を上回っている。「書くこと」「読むこと」の領域ついては、全国、県の平均より低くなっており、課題がみられる。

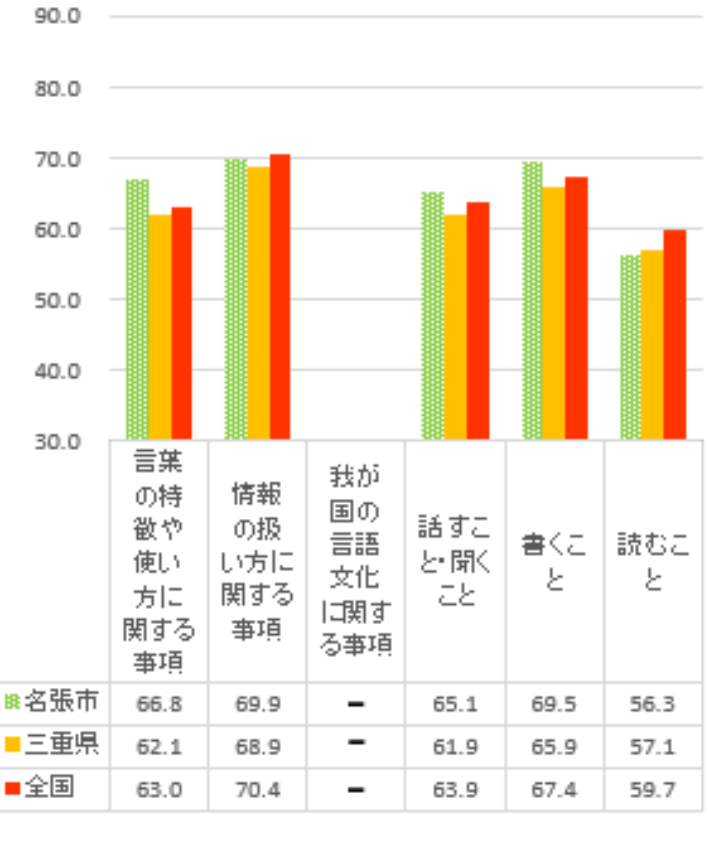
○課題の見られた領域の出題の趣旨　例
・筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができるかどうか。
・文章から引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうか。

中学校	国語		
	名張市	全国	差
平均正答率	65	63.9	＋1.1
無解答率	2.73	4.86	+2.13

＜平均正答数＞



＜領域別／平均正答率＞

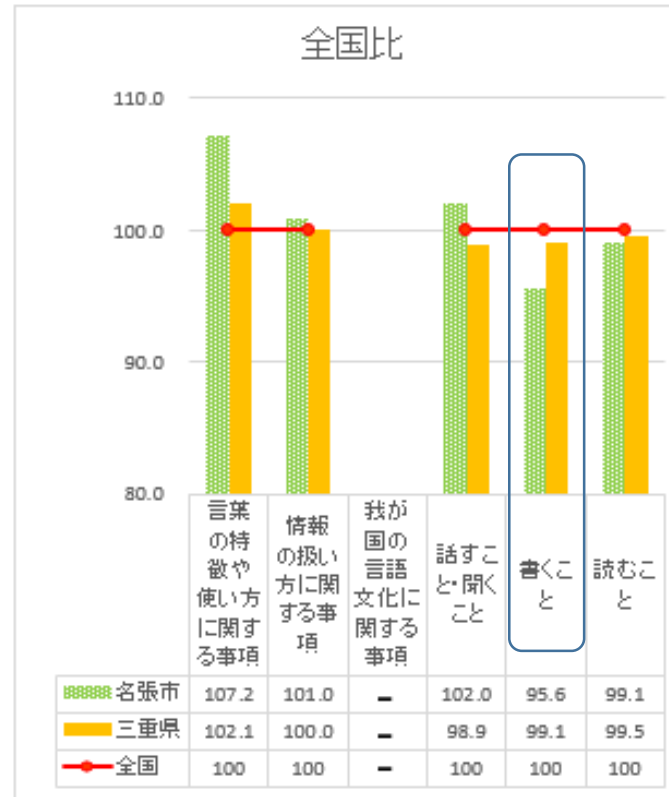


	言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
名張市	66.8	69.9	－	65.1	69.5	56.3
三重県	62.1	68.9	－	61.9	65.9	57.1
全国	63.0	70.4	－	63.9	67.4	59.7

★５つの項目のうち、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域で全国平均を上回っている。「情報の扱いに関する事項」は県平均より高く、「読むこと」の領域ついては、全国、県の平均より低くなっており、課題がみられる。
○課題の見られた領域の出題の趣旨　例
・目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができるかどうか

小学校	国語		
	名張市	全国	差
平均正答率	62	60.9	＋1.1
無解答率	2.16	3.41	＋1.25

文章を引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題が見られた。 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることに課題が見られた。
→自分の考えを伝える際に、考えと根拠を区別して表現することを意識させることが重要。



令和８年度全国学力・学習状況調査「報告書」より

【花山さんの文章の続き】の空欄に入る内容を、【集めた情報】から抜き出して考えが伝わるように書く問題

出題の趣旨
引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することが できるかどうかをみる

【花山さんの文章の続き】

4　すずしく過ごせる衣服の色は何色か

「色の効果」という本には、「青は海や水を連想させ、すずしそうに見える。」と書かれている。青や水色などひんやりとしたイメージのある色の服を着ることで、長そででもすずしく過ごすことができそうだ。

また、［　　］

【集めた情報】

本の題名	本文の一部
色の効果	青は海や水を連想させ、すずしそうに見える。白は雪の色であり、冷たい印象がある。赤があたたかく感じられるのは、太陽や火を連想させるからだ。
生活と太陽	白は熱や光を反しゃする色のため、熱くなりにくい。一方、黒は熱や光をきゅうしゅうし、熱くなりやすい。
夏のくらし方	白やうすい青はさわやかに見え、すずしく感じます。さらに、着ている人だけでなく、周りの人にもすずしさを感じさせます。

条件①【集めた情報】の中から、本の題名と本文の一部の内容を選んで、抜き出して書いている。

条件②抜き出した本の題名と本文の一部の内容はかぎかっこ（「　」）でくくっている。

条件③抜き出した内容をもとに、すずしく過ごせる衣服の色について考えたことを書いている。

条件④ 140字以内にまとめて書いている。

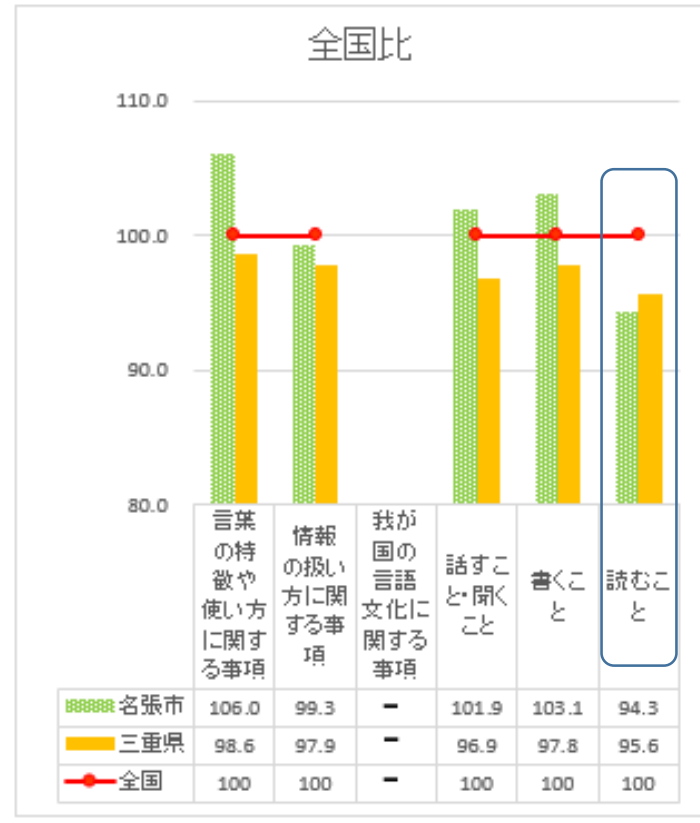
正答例（正答率 33.6%）	○「生活と太陽」という本には、「白は熱や光を反しゃする色のため、熱くなりにくい。一方、黒は熱や光をきゅうしゅうし、熱くなりやすい。」と書かれている。特に強い日差しが照りつけるえん天下では、黒い服より白い服を着る方が、すずしく過ごすことができそうだ。
誤答例	条件③は満たしているが、①②を満たしていないもの　…29.1% ●白は雪の色であり、冷たい印象がある。また、白色や青色の衣服は着ている人だけでなく、周りの人にもすずしさを感じさせることができる。

本文の一部を引用して書けたが、引用した部分と自分の考えとの関係を明確にし、区別して書くことができなかった児童がいた。

〈学習指導に当たって〉
　引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫するためには、引用する目的を明確にした上で、本や文章などから必要な語句や文を抜き出して書くことが重要である。原文に正確に引用することや、引用した部分と自分の考えとの関係などを明確にし、区別して書くことが大切である。
　本設問では、花山さんは、涼しく過ごせる衣服の色の工夫について考えたことを、本や文章から根拠や事例となる語句や文を引用しながら書いている。ここでは、涼しく過ごせる衣服の色について考えたことを書くために、【集めた情報】の中から、本の題名と本文の一部の内容を選んで、抜き出して書くことが求められる。その際に、抜き出した部分はかぎ（「　」）でくくり、自分の考えと区別して書くことが求められる。
　児童によっては、引用して書く必要があると考えず、本などに書いてあることを自分の考えのように書いたり、自分が考えたことだけを書いたりする場合があると考えられる。こうした児童に対しては、引用することの意義を確かめる必要がある。また、引用することはできるが、自分の考えを書くことができない児童もいると考えられる。こうした児童に対しては、「なぜ、その部分を引用しようと考えたのか。」や「自分が何を伝えるために引用する部分を選んだのか。」など、自分が書こうとしていることを友達と伝え合い、自分の考えを明確にしたり振り返ったりする場を設けることなどが考えられる。

中学校	国語		
	名張市	全国	差
平均正答率	65	63.9	＋1.1
無解答率	2.73	4.86	+2.13

文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることに課題が見られた。



令和８年度全国学力・学習状況調査「報告書」より

二つの例文を比べながら、擬態語「きっぱり」が表している具体的な様子と擬態語の効果を書く

出題の趣旨

文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができるかどうかをみる

〈例文１〉（擬態語を使っていない例文）

「いいえ。たくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒は言った。

〈例文２〉（擬態語を使った例文）

「いいえ。たくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒はきっぱりと言った。

〈具体的な場面〉



条件①〈例文２〉の擬態語「きっぱり」がどのような様子を表しているかを具体的に書いている。

条件②「きっぱり」について考えたことを踏まえて、擬態語の効果について、本文中の言葉を使って書いている。

正答例（正答率 39.3%）	○「きっぱり」は、生徒が先生に向かって、自信を持って力強く言い切っている様子を表している。このように、擬態語は話している様子の包括的なイメージを表現することができる。
誤答例	条件①は満たしているが、②を満たしていないもの　…35.1% ●「きっぱり」という擬態語をつかうことによって生徒がたくさん練習をしてきて、発表に自信があるように感じさせる効果がある。

擬態語の効果について自分の考えを述べようとしているものの、本文やそこから得た理解に基づく記述が不十分な生徒がいた。

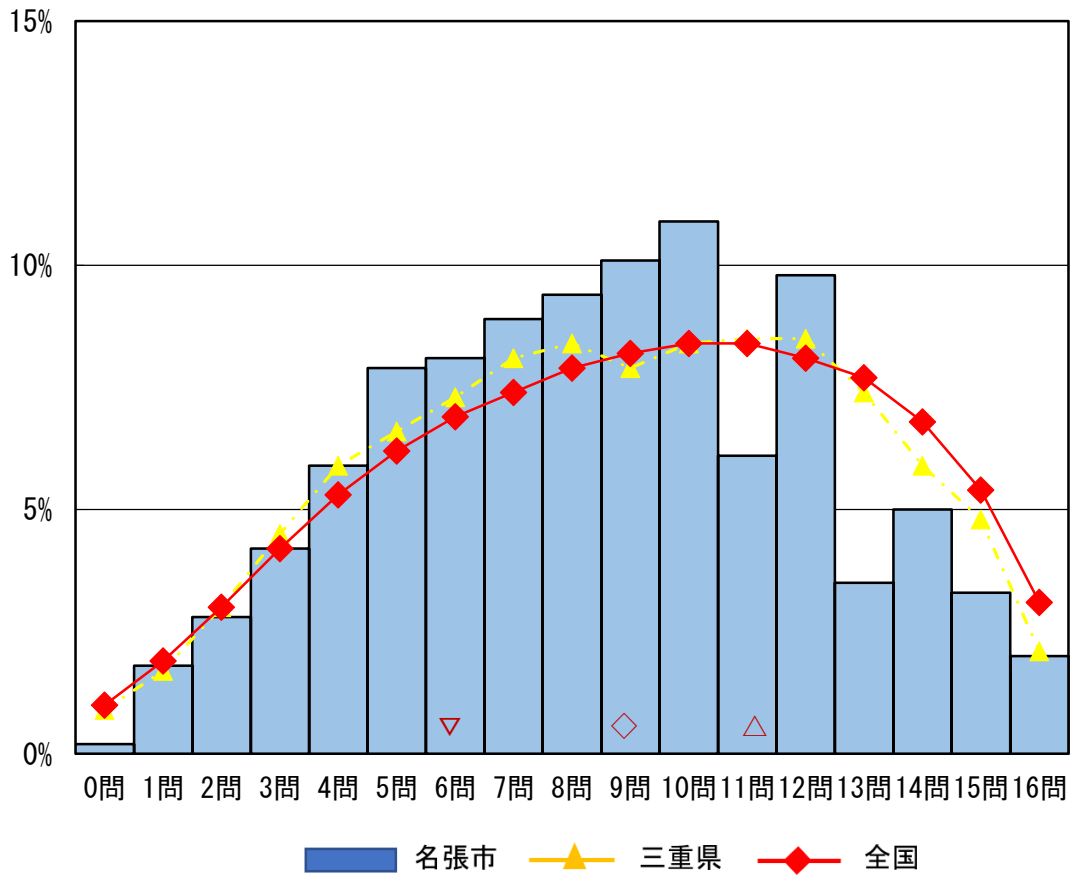
〈学習指導に当たって〉

文章を読んで自分の考えを確かなものにするためには、具体的な場面を思い浮かべ、「構造と内容の把握」や「精査・解釈」の学習過程を通して理解したことと結び付けるなどして、改めて自分が文章をどのように捉えて精査・解釈したのかを振り返ることなどが考えられる。その際、文章に書かれている大まかな内容について自分の考えを述べることにとどまるのではなく、自分がその文章の内容についてどのように把握したり解釈したりしたかを十分に踏まえ、それを常に確かめながら考えを形成していくことが大切である。

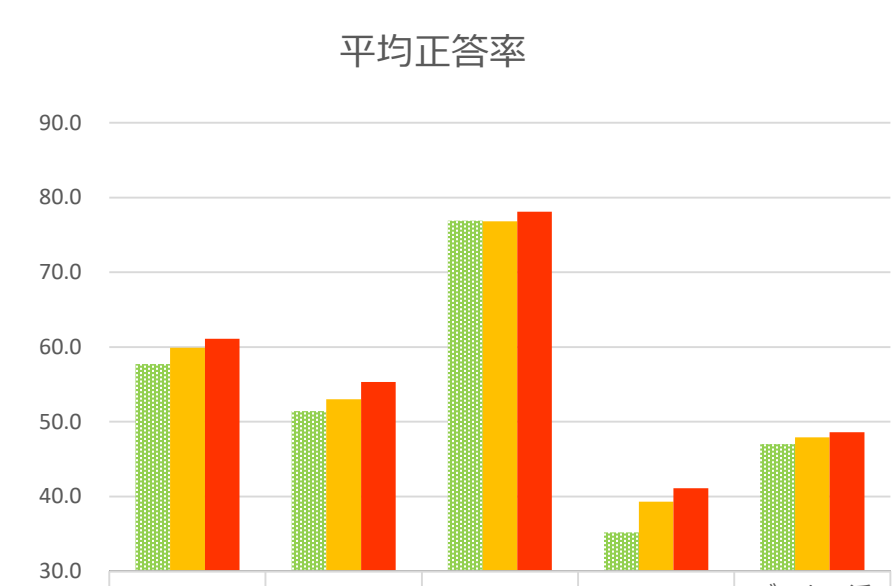
小学校　算数

	名張市	全国	差
平均正答率	53	56.4	-3.4
無解答率	2.07	3.21	+1.14

＜平均正答数＞



＜領域別／平均正答率＞



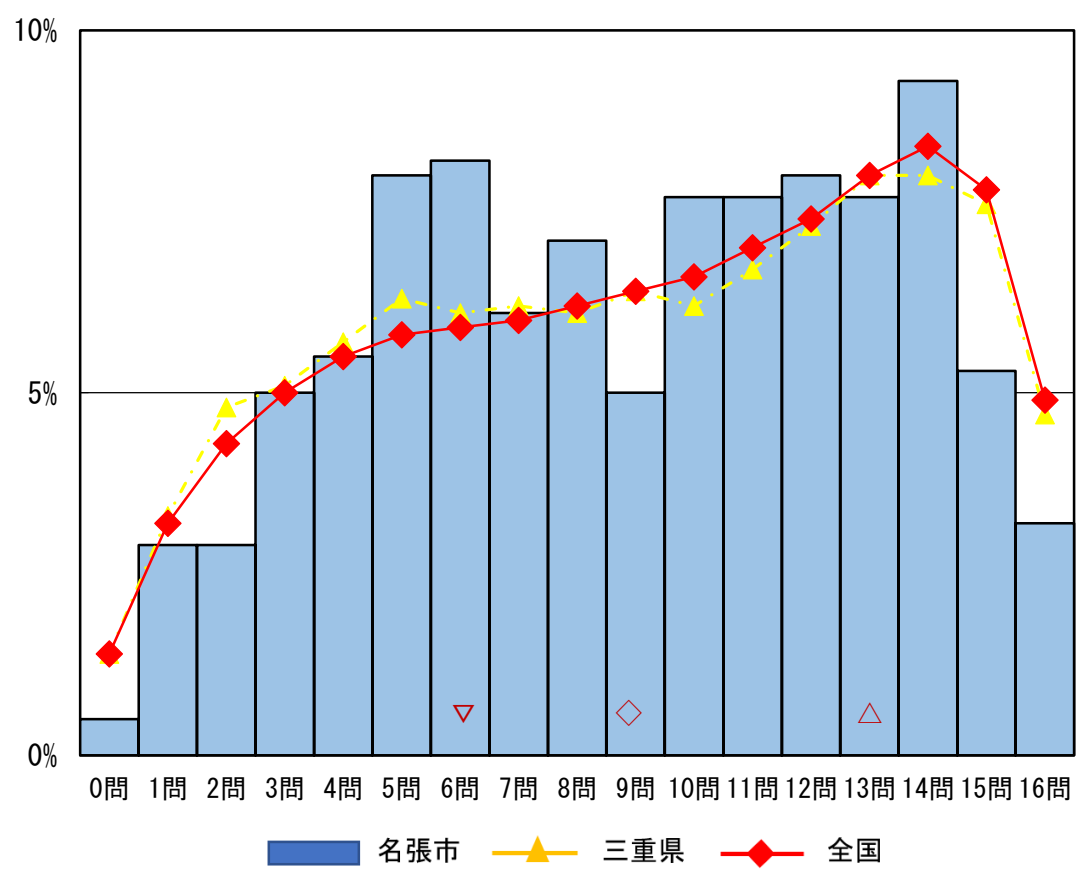
	数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用
名張市	57.7	51.4	76.9	35.2	47.0
三重県	59.9	53.0	76.8	39.3	47.9
全国	61.1	55.3	78.1	41.1	48.6

★「測定」の領域は県の平均より高い正答率であった。他の領域は、全国、県の平均より、低い結果だった。特に「変化と関係」「図形」の領域の正答率に課題がみられる。
○課題の見られた領域の出題の趣旨　例
・基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうか
・直方体の箱の形を構成する面について理解しているかどうか

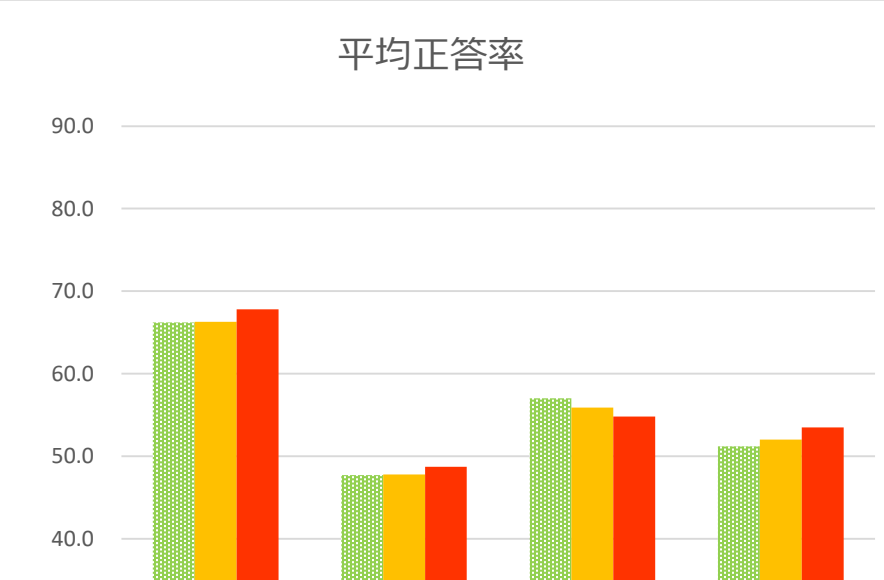
中学校　数学

	名張市	全国	差
平均正答率	56	57.0	-1.0
無解答率	5.48	10.40	+4.92

＜平均正答数＞



＜領域別／平均正答率＞



	数と式	図形	関数	データの活用
名張市	66.2	47.7	57.0	51.2
三重県	66.3	47.8	55.9	52.0
全国	67.8	48.7	54.8	53.5

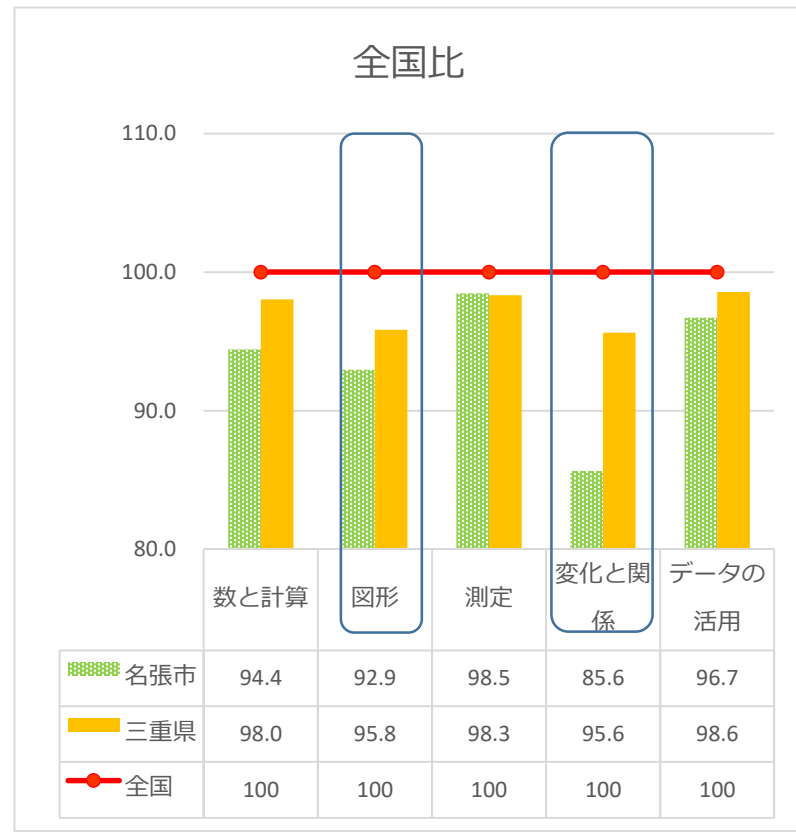
★「関数」の領域では全国平均を上回っている。「図形」「数と式」の順に低くなっている。他の３つの領域は県と同等か、県よりも低い結果になっている。「データの活用」の領域に課題がみられる。
○課題の見られた領域の出題の趣旨　例
・データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができるかどうか

小学校	算数		
	名張市	全国	差
平均正答率	53	56.4	-3.4
無解答率	2.07	3.21	+1.14

立方体の体積の求め方の理解や、基準量、比較量、割合の関係を正しく捉えることに課題が見られた。

令和８年度全国学力・学習状況調査「報告書」より

①一辺が８ｃｍの立方体の体積を求める式を書く
②赤いテープの長さが、白いテープの長さの１．５倍になっている図を二つ選ぶ

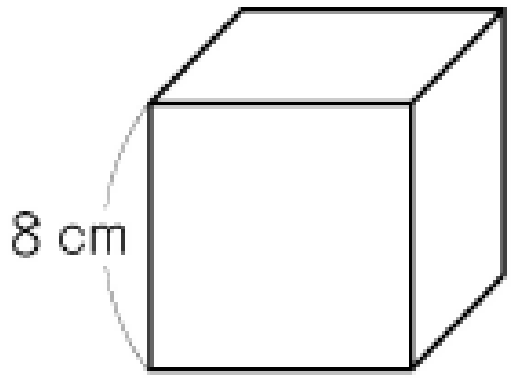


出題の趣旨
①立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる
②基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうかをみる

小学校算数 大問１(１)

立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる問題

１辺が８cmの立方体の体積を求める式を書く。

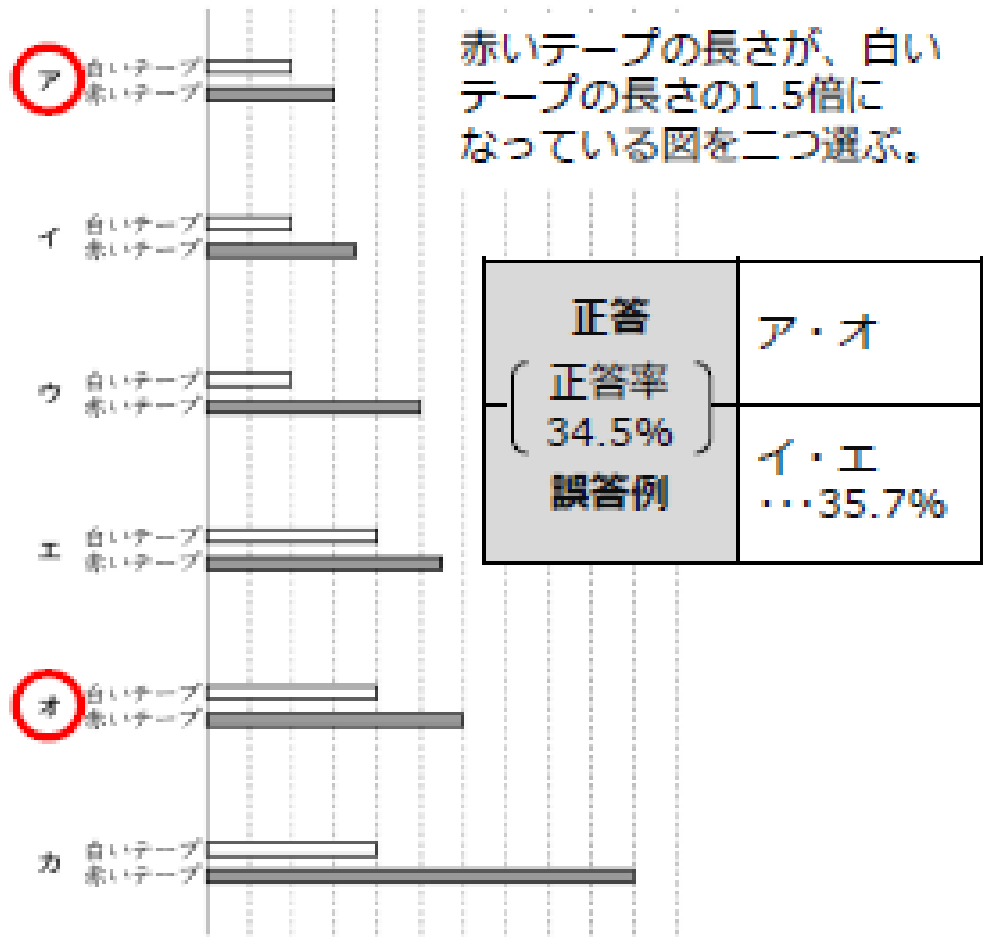


正答（正答率 72.9%）	8×8×8
誤答例	8×8 ･･･10.2% 8×6、8×3 ･･･5.5%

立方体の全ての辺が等しいことは理解しているが、誤って正方形の面積の公式を用いている児童や、立方体の特徴を体積の求め方に結び付けることができていない児童がいた。

小学校算数 大問２(４)

基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうかをみる問題



赤いテープの長さが、白いテープの長さの1.5倍になっている図を二つ選ぶ。

正答（正答率 34.5%）	ア・オ
誤答例	イ・エ ･･･35.7%

基準量の1.5倍に当たる量を、基準量より1.5目盛り分多い量であると誤って捉えていると考えられる児童がいた。

〈学習指導に当たって〉

例えば、長方形や正方形の面積の求め方を基にして、直方体や立方体の体積の求め方を類推的に考え、体積の計算による求め方を考察する活動が考えられる。その際、立方体や直方体は一辺が１cmや１mなどの単位体積の立方体を積み重ねてつくることができることから、単位体積の立方体をきちんと敷き詰めた１段分の個数と、その段の個数をかけあわせることで、直方体や立方体の体積を求められることを理解できるようにすることが大切である。

例えば、示された基準量に対して、様々な比較量がどれだけに当たるかを、図を通して考える活動が考えられる。その際、基準量とその２倍や３倍に当たる量を比較することを通して、基準量の１倍や1.5倍、2.5倍の意味を理解できるようにすることが大切である。そのうえで、基準量の大きさを変えて同様の活動を行い、基準量の1.5倍に当たる量は、基準量を１と見たときに1.5に当たる量であることを捉え、割合についての理解を深めることができるようにすることが大切である。

中学校	数学		
	名張市	全国	差
平均正答率	56	57.0	-1.0
無解答率	5.48	10.40	+4.92

２直線が平行になる条件の理解や起こりうる場合を整理し確率を求めることに課題が見られた。



令和８年度全国学力・学習状況調査「報告書」より

①四角形ＰＱＲＳにおいて、ＰＳ平行ＱＲを示すための根拠となる二つの角を書く
②大小二つのさいころを同時に投げるとき、大きいさいころの目が６で小さいさいころの目が１である確率を求める

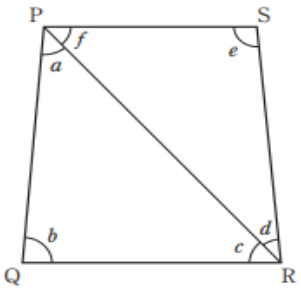
出題の趣旨
①２直線が平行になるための条件を理解しているかどうかをみる
②起こり得る場合を樹形図や二次元の表を利用するなどして整理し、確率を求めることができるかどうかをみる

中学校数学 大問３

２直線が平行になるための条件を理解しているかどうかをみる問題

四角形PQRSにおいて、PS//QRを示すための根拠となる二つの角を書く。

3 下の図は、四角形ＰＱＲＳに対角線ＰＲをひいたものです。



上の図において、∠ａから∠ｆまでの６つの角のうち、ある２つの角の大きさが等しければ、ＰＳ // ＱＲであるといえます。その２つの角を書きなさい。

正答 （正答率 49.6%） 誤答例	∠c と∠f を解答しているもの
	❶∠b と ∠e を解答しているもの … 24.2% ❷∠a と ∠d、∠b と ∠e などの対応関係にはない二つの角を解答しているもの … 20.3%

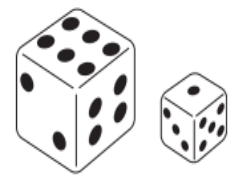
２直線が平行になるための条件を理解し、２直線が平行であるかどうかを判断する際に着目すべき二つの角を見いだすことに課題がある生徒がいた。

中学校数学 大問５

起こり得る場合を樹形図等を利用するなどして整理し、確率を求めることができるかどうかをみる問題

大小二つのさいころを同時に投げるとき、大きいさいころの目が６で小さいさいころの目が１である確率を求める。

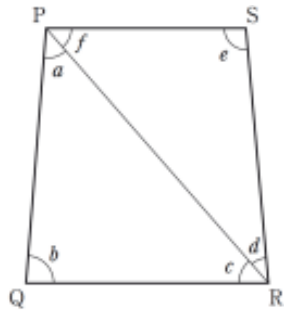
5 大小２つのさいころがあります。この２つのさいころを同時に投げるとき、大きいさいころの目が６であり、小さいさいころの目が１である確率を求めなさい。ただし、どちらのさいころも１から６までの目の出方は、同様に確からしいものとします。



正答 （正答率 60.2%） 誤答例	$\frac{1}{36}$と解答しているもの
	❶ $\frac{1}{6}$と解答しているもの …11.1%

目の出方が全部で３６通りと考えられていない。または大きいさいころの目が６、小さいさいころの目が１となる場合を２通りと考えている生徒がいた。

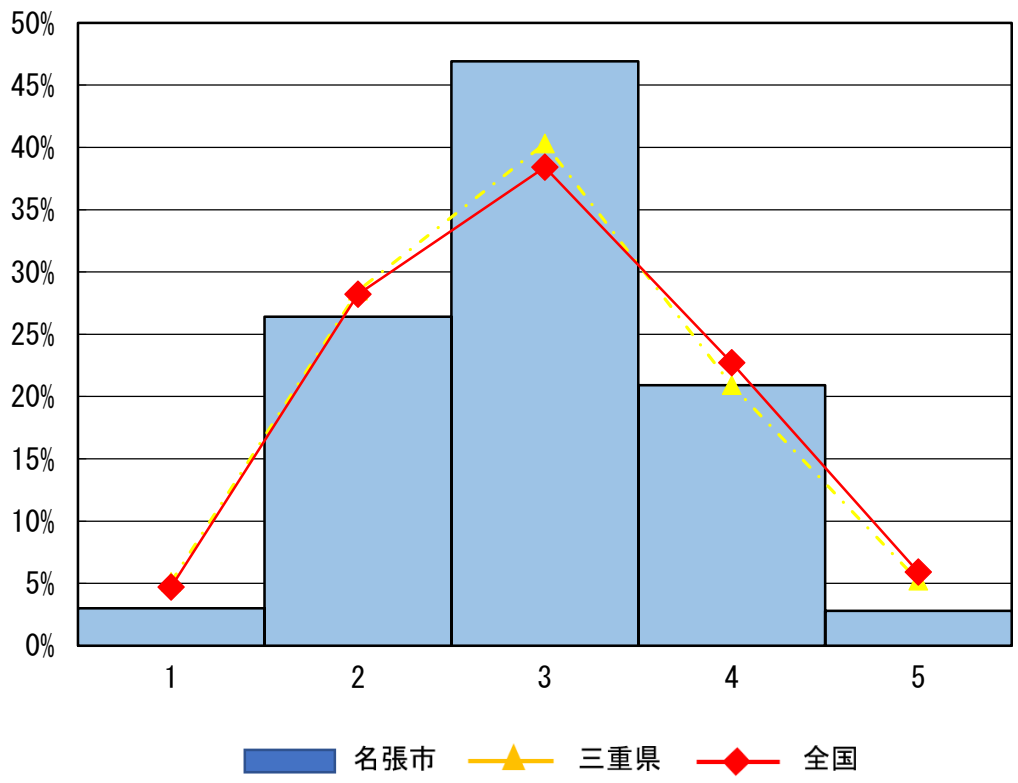
〈学習指導に当たって〉
平行線になるために条件と平行四辺形になるための条件を混同するなど、それぞれの理解が不十分であることから、向かい合う角である∠bと∠eが等しいとき、ＰＳ//ＱＲとなると捉える生徒もいることが考えられる。そのため、平行四辺形について学習した後に、四角形ＰＱＲＳにおいて、 ∠b＝∠e ならばＰＳ//ＱＲとなることが常に成り立つかどうか考察する活動を取り入れることも考えられる。



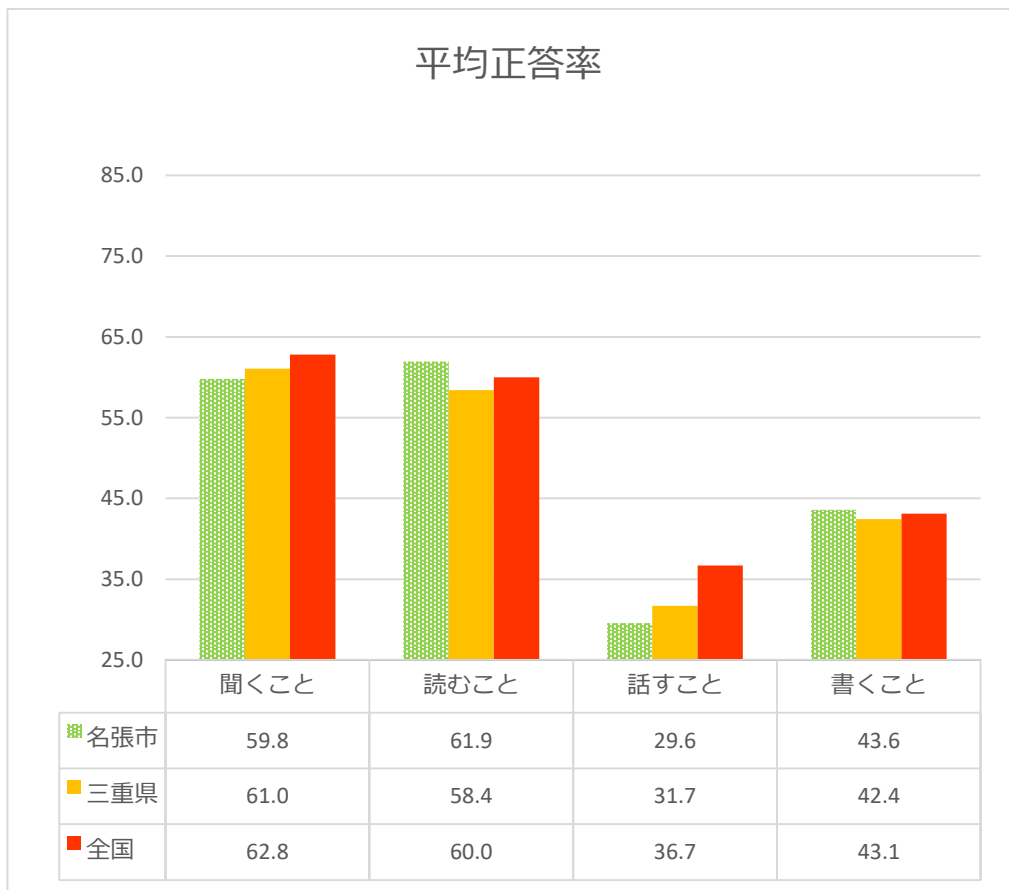
大小２つのさいころを投げた時の目の出方について授系図等を利用して起こりうるすべての場合を落ちや重なりがないように数える場面を設定することが考えられる。また、この問題設定の場合、大きいさいころの目が６で、小さいさいころの目が１である場合が１通りであるが、（１，６）、（６，１）の2通りと数えてしまわないよう、起こりうる場合をきちんと区別して考えられる場面を設定することが考えられる。

中学校	英語		
	名張市	全国	差
平均正答率	495	499.0	-4.0
無解答率	1.98	3.43	＋1.45

＜IRTバンド分布＞



＜領域別／平均正答率＞



	聞くこと	読むこと	話すこと	書くこと
名張市	59.8	61.9	29.6	43.6
三重県	61.0	58.4	31.7	42.4
全国	62.8	60.0	36.7	43.1

★「読むこと」「書くこと」の領域は全国平均を上回っている。「聞くこと」の領域については全国、県の平均より低くなっており、課題がみられる。
○課題の見られた領域の出題の趣旨　例
・日常的な話題について、話を聞き、概要を捉えることができるかどうか
・社会的な話題について、話を聞き、要点を捉えることができるかどうか

中学校	英語		
	名張市	全国	差
平均正答率	495	499.0	-4.0
無解答率	1.98	3.43	+1.45

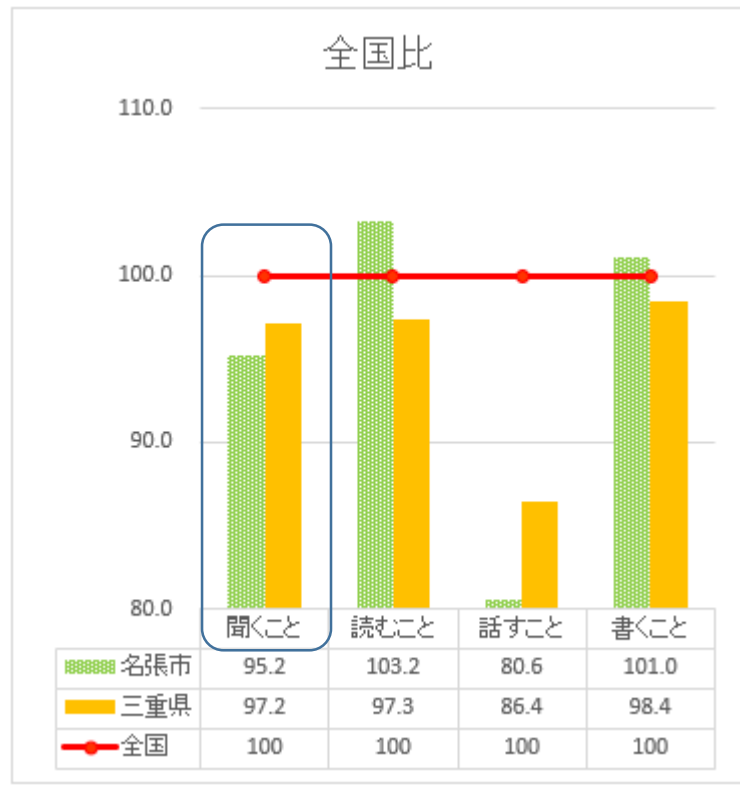
話を聞き、概要を捉えることに課題がみられた

令和８年度全国学力・学習状況調査「報告書」より

職場体験についての発表を聞き、その後に示される３枚の絵を体験した順になるように 選択する問題

出題の趣旨

日常的な話題について、話を聞き、概要を捉えることができるかどうかをみる。



中学校英語 問 4

日常的な話題について、話を聞き、概要を捉えることができるかどうかをみる問題

<問題文>

しおりが、先週、いちご農園で体験したことについて英語で発表します。しおりの発表を聞いたあと、ア、イ、ウの３枚の絵が示されます。しおりが体験した順に、①②③の中に入る絵を、１つずつ選びなさい。必要に応じてメモを取ってもかまいません。





正答	ウ → ア → イと解答しているもの	
正答率 43.8%	ア → ウ → イ	21.6%
	イ → ア → ウ	19.9%
誤答例		

〈学習指導に当たって〉

（１）話される順番に着目して英語の音声を聞く活動を行う

話を聞いて、概要を捉えるためには、時間的な場面の移り変わりを順番通りに捉えることが大切である。例えば、ある人物が夏休みに行った２つの体験（「１日目に親戚の家を訪れたこと」と「２日目にキャンプに行ったこと」など）について話される英語の音声を聞き、その人物が体験した順番を確認させたり、時系列を整理するワークシートにメモを取らせたりすることが考えられる。はじめは、英語の音声を聞いて、２つの出来事の順番を捉える活動を繰り返し、徐々に３つ以上の体験を話された順番通りに捉えさせることが考えられる。

（２）聞き取った情報から場面の移り変わりを整理させる

話を聞いて、概要を捉えるためには、話題を把握した上で、特定の部分にのみとらわれることなく、話の最初から最後まで通して聞かせることが重要である。その際、どのような内容が話されているのかを理解するために、文章全体の構成を意識して聞いたり、メモしながら聞いたりすることが考えられる。話を聞いた後、聞き取った情報や、情報と情報との関係、展開を表す表現などから場面の移り変わりを整理することが大切である。その後、ペアやグループで場面の移り変わりをどのように整理したのかを伝え合ったり、学級全体で確認したりすることが考えられる。

場面の移り変わりを整理する際には、時間的な場面の移り変わりを表す表現や、空間的な場面の移り変わりを表す表現、出来事に関連した表現に着目するなど、何に着目するかによって複数の整理の仕方があることを共有することも考えられる。その上で、場面の移り変わりを意識して再度聞き、はじめは聞き取れなかった箇所を聞き取ることができたかどうかを確認することが大切である。

例えば、この問題では、“In the morning” “After lunch” “Finally”という時間的な場面の移り変わりを表す表現に着目して聞くことで、場面の移り変わりを整理することが概要を捉えることにつながると考えられる。

３－①　児童生徒質問調査結果

「児童生徒質問調査」とは、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査です。
　ここでは、調査の中からいくつかの質問事項を取り上げ、名張市平均を前回調査の令和７年度と比較したときの増減を矢印で、全国平均と比較したときの差を数値で示しています。

小学校

※数字は、質問のあとに記載の（　　）内の選択肢で回答した割合を表しています。
↗（前回より上昇、全国より上）↗（前回より上昇、全国より下）
↘（前回より下降、全国より上）↘（前回より下降、全国より下）

	質問事項	年度	R７	増減	R８
学習習慣等	学校の授業以外に、普段（月～金曜日）、１日あたりどれくらいの時間、勉強しますか　※学習塾や家庭教師等含む（１時間以上勉強する）	名張市	51.1		35.2
		全国	54.0		49.9
		全国との差	-2.9	↘	-14.7
	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日あたりどれくらいの時間、勉強しますか　※学習塾や家庭教師等含む（１時間以上勉強する）	名張市	38.6		26.9
		全国	47.1		39.0
		全国との差	-8.5	↘	-12.1
	学校の授業時間以外に普段１日どれくらいの時間読書をしますか※漫画等を除く（３０分以上読書する）	名張市	28.8		20.6
		全国	31.1		26.1
		全国との差	-2.3	↘	-5.5
国語	国語の勉強は好きですか（当てはまる）	名張市	22.5		24.8
		全国	24.1		24.4
		全国との差	-1.6	↗	+0.4
	国語の授業の内容はよく分かりますか（当てはまる）	名張市	39.8		44.0
		全国	35.9		36.1
		全国との差	+3.9	↗	+7.9
算数	算数の勉強は好きですか（当てはまる）	名張市	35.8		34.0
		全国	33.7		33.9
		全国との差	+2.1	↘	+0.1
	算数の授業の内容はよく分かりますか（当てはまる）	名張市	49.7		49.4
		全国	41.7		41.9
		全国との差	+8.0	↘	+7.5
英語	英語の勉強は好きですか（当てはまる）【前回調査令和５年度】	名張市	35.6		39.9
		全国	38.6		37.8
		全国との差	-3.0	↗	+2.1
	将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか（当てはまる）【前回調査令和５年度】	名張市	25.4		25.8
		全国	28.9		21.1
		全国との差	-3.5	↗	+4.7

中学校　※数字は、質問のあとに記載の（　　）内の選択肢で回答した割合を表しています。

	質問事項	年度	R７	増減	R８
学習習慣等	学校の授業以外に、普段（月～金曜日）、１日あたりどれくらいの時間、勉強しますか　※学習塾や家庭教師含む（１時間以上勉強する）	名張市	54.9		58.2
		全国	61.6		61.6
		全国との差	-6.7	↗	-3.4
	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日あたりどれくらいの時間、勉強しますか　※学習塾や家庭教師含む（１時間以上勉強する）	名張市	51.1		47.4
		全国	57.9		52.5
		全国との差	-6.6	↘	-5.1
	学校の授業時間以外に普段１日どれくらいの時間読書をしますか※漫画等を除く（３０分以上読書する）	名張市	19.3		16.4
		全国	21.4		18.0
		全国との差	-2.1	↘	-1.6
国語	国語の勉強は好きですか（当てはまる）	名張市	30.9		22.5
		全国	21.6		22.3
		全国との差	+9.3	↘	+0.2
	国語の授業の内容はよく分かりますか（当てはまる）	名張市	41.2		38.0
		全国	25.4		27.1
		全国との差	+15.8	↘	+10.9
数学	数学の勉強は好きですか（当てはまる）	名張市	33.7		32.9
		全国	26.5		28.8
		全国との差	+7.2	↘	+4.1
	数学の授業の内容はよく分かりますか（当てはまる）	名張市	42.1		49.4
		全国	30.1		34.6
		全国との差	+12.0	↗	+14.8
英語	英語の勉強は好きですか（当てはまる）【前回調査令和５年度】	名張市	23.2		25.7
		全国	25.2		24.6
		全国との差	-2.0	↗	+1.1
	英語の授業の内容はよく分かりますか（当てはまる）【前回調査令和５年度】	名張市	30.2		35.7
		全国	28.0		27.6
		全国との差	+2.2	↗	+8.1

小学校

※数字は、質問のあとに記載の（　　）内の選択肢で回答した割合を表しています。

	質問事項	年度	R７	増減	R８
授業改善等	５年生までに受けた授業では，課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んでいましたか（当てはまる）	名張市	26.2		28.9
		全国	29.0		28.3
		全国との差	−2.8	↗	+0.6
	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていると思いますか。（当てはまる）	名張市	41.5		42.6
		全国	40.9		43.5
		全国との差	+0.6	↗	−0.9
	学習した内容について，分かった点や，よく分からなかった点を見直し，次の学習につなげることができていますか。（当てはまる）	名張市	31.3		32.6
		全国	31.2		31.4
		全国との差	+0.1	↗	+1.2
	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫 して発表していましたか（当てはまる）	名張市	20.3		22.6
		全国	26.8		25.8
		全国との差	−6.5	↗	−3.2
	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている（当てはまる）	名張市	30.1		33.5
		全国	36.5		35.2
		全国との差	−6.4	↗	−1.7
道徳	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか（当てはまる）	名張市	40.4		46.2
		全国	47.3		47.4
		全国との差	−6.9	↗	−0.8
ＩＣＴ	５年生までに受けた授業で、コンピュータなどのＩＣＴをどの程度使用しましたか（週１回以上）	名張市	87.8		91.3
		全国	89.7		87.9
		全国との差	−1.9	↗	+3.4
	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか（そう思う）	名張市	22.9		30.7
		全国	26.9		32.8
		全国との差	−4.0	↗	−2.1
	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか（そう思う）	名張市	24.4		26.4
		全国	38.6		44.9
		全国との差	−14.2	↗	−18.5
生活習慣	朝食を毎日食べていますか（当てはまる）	名張市	79.3		82.5
		全国	83.3		83.1
		全国との差	−4.0	↗	−0.6
	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか（当てはまる）	名張市	37.5		40.3
		全国	38.9		40.6
		全国との差	−1.4	↗	−0.3
	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか（当てはまる）	名張市	56.5		59.0
		全国	55.6		55.9
		全国との差	−0.9	↗	+3.1

中学校

※数字は、質問のあとに記載の（　　）内の選択肢で回答した割合を表しています。

	質問事項	年度	R７	増減	R８
授業改善等	１，２年生のときに受けた授業では，課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んでいましたか（当てはまる）	名張市	27.2		30.6
		全国	23.4		27.0
		全国との差	+3.8	↗	+3.6
	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていると思いますか（当てはまる）	名張市	39.6		50.8
		全国	35.1		39.6
		全国との差	+4.5	↗	+11.2
	学習した内容について，分かった点や，よく分からなかった点を見直し，次の学習につなげることができていますか（当てはまる）	名張市	25.0		30.8
		全国	23.0		29.3
		全国との差	+2.0	↗	+1.5
	授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫 して発表していましたか（当てはまる）	名張市	14.4		19.7
		全国	18.9		22.6
		全国との差	−4.5	↗	−2.9
	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている（当てはまる）	名張市	31.1		37.8
		全国	32.6		34.2
		全国との差	−1.5	↗	+3.6
道徳	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか（当てはまる）	名張市	51.7		61.2
		全国	48.7		50.7
		全国との差	+3.0	↗	+10.5
ＩＣＴ	１、２年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのＩＣＴをどの程度使用しましたか（週１回以上）	名張市	98.3		97.5
		全国	92.2		92.9
		全国との差	+6.1	↘	+4.6
	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか（そう思う）	名張市	24.3		34.6
		全国	21.1		32.0
		全国との差	+3.2	↗	+2.6
	あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると思いますか（そう思う）	名張市	23.6		38.3
		全国	31.8		46.4
		全国との差	−8.2	↗	−8.1
生活習慣	朝食を毎日食べていますか（当てはまる）	名張市	80.6		82.8
		全国	78.7		78.4
		全国との差	+1.9	↗	+4.4
	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか（当てはまる）	名張市	36.4		34.3
		全国	34.0		34.9
		全国との差	+2.4	↘	−0.6
	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか（当てはまる）	名張市	56.1		57.5
		全国	54.7		55.4
		全国との差	+1.4	↗	+2.1

小学校

※数字は、質問のあとに記載の（　　）内の選択肢で回答した割合を表しています。

	質問事項	年度	R７	増減	R８
自己有用感等	将来の夢や目標を持っていますか（当てはまる）	名張市	58.5		61.7
		全国	60.7		58.6
		全国との差	−2.2	↗	+3.1
	自分には、よいところがあると思いますか（当てはまる）	名張市	37.3		42.4
		全国	47.3		43.6
		全国との差	−10.0	↗	−1.2
	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う（当てはまる）	名張市	52.8		55.1
		全国	55.3		53.4
		全国との差	−2.5	↗	+1.7
	人が困っているときは、進んで助けていますか（当てはまる）	名張市	51.6		53.3
		全国	49.2		47.3
		全国との差	+2.4	↗	+6.0
	友だち関係に満足している（当てはまる）	名張市	64.9		59.0
		全国	64.2		62.7
		全国との差	+0.7	↘	−3.7
	学校に行くのは楽しいと思う（当てはまる）	名張市	41.3		45.5
		全国	49.9		48.0
		全国との差	−6.6	↗	−2.5
規範意識等	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか（当てはまる）	名張市	86.7		86.8
		全国	81.4		81.1
		全国との差	+5.3	↗	+5.7
	人の役に立つ人間になりたいと思いますか（当てはまる）	名張市	72.5		72.7
		全国	73.7		70.8
		全国との差	−1.2	↗	+1.9
	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる（当てはまる）	名張市	29.6		28.5
		全国	33.1		33.9
		全国との差	−3.5	↘	−5.4
地域貢献	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか（当てはまる）	名張市	32.7		38.3
		全国	33.8		31.9
		全国との差	−1.1	↗	+6.4
読書習慣	あなたの家には、およそどれくらい本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く）（０～２５冊）	名張市	38.0		38.8
		全国	36.8		33.8
		全国との差	−1.2	↗	−5.0
	学校の授業時間以外に普段、１日あたりどれくらい読書しますか（３０分以上）	名張市	28.8		20.6
		全国	31.1		26.1
		全国との差	−2.3	↘	−5.5

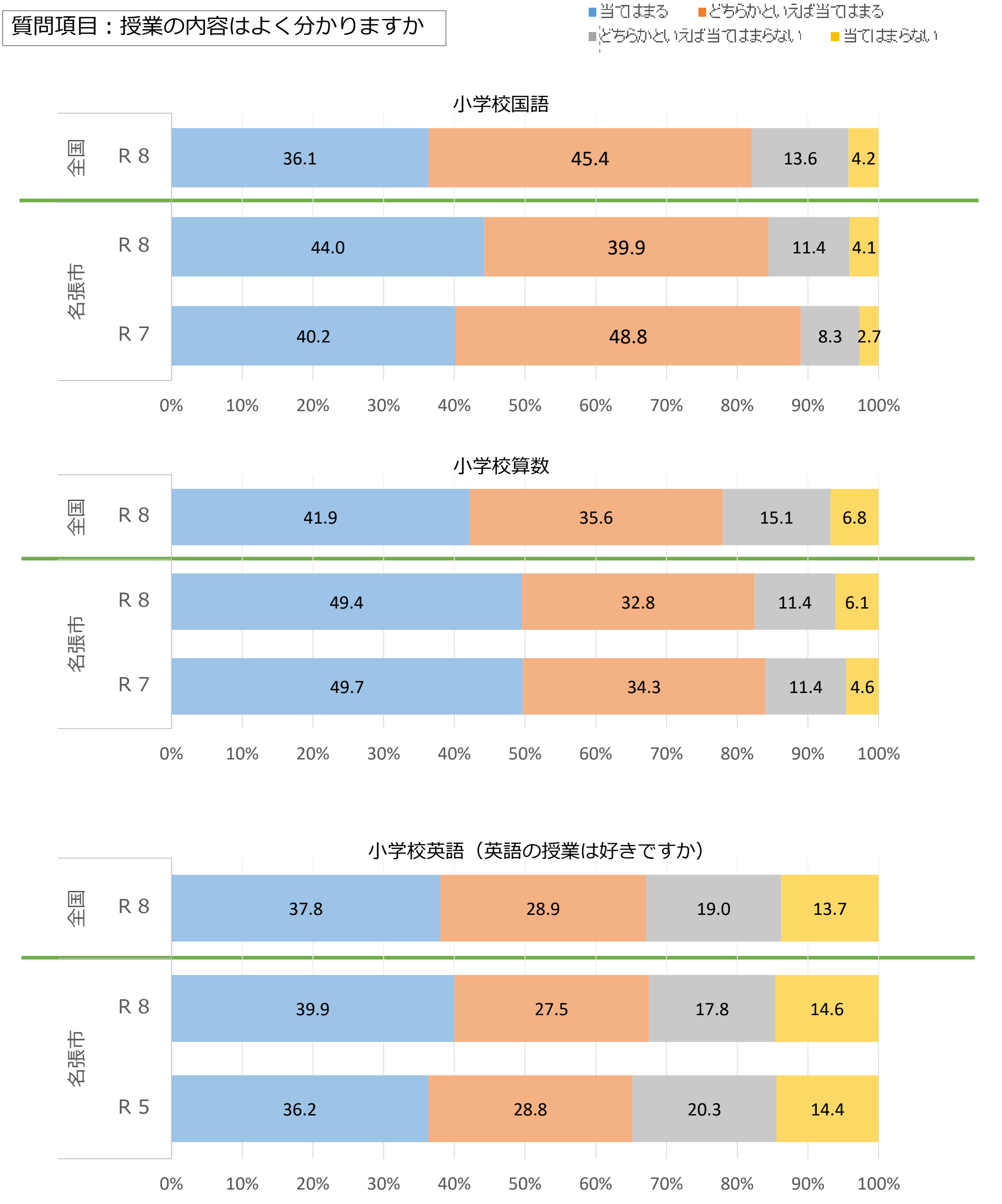
中学校

※数字は、質問のあとに記載の（　　）内の選択肢で回答した割合を表しています。

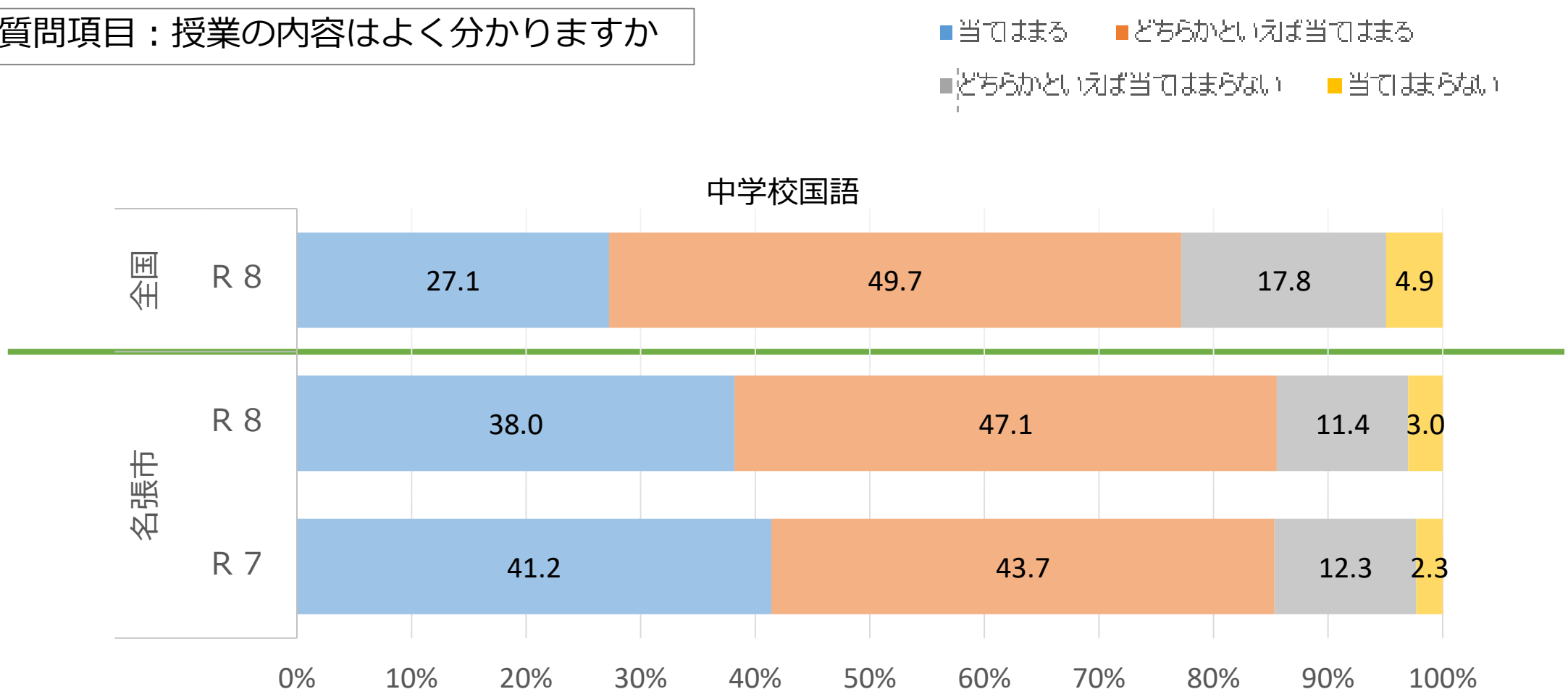
	質問事項	年度	R７	増減	R８
自己有用感等	将来の夢や目標を持っていますか（当てはまる）	名張市	33.9		40.2
		全国	35.5		37.4
		全国との差	−1.6	↗	+2.8
	自分には、よいところがあると思いますか（当てはまる）	名張市	43.9		45.3
		全国	40.7		41.0
		全国との差	+3.2	↗	+4.3
	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う（当てはまる）	名張市	50.8		45.3
		全国	46.6		41.0
		全国との差	+4.2	↘	+4.3
	人が困っているときは、進んで助けていますか（当てはまる）	名張市	35.9		38.3
		全国	37.9		40.8
		全国との差	−2.0	↗	−2.5
	友だち関係に満足している（当てはまる）	名張市	59.0		62.4
		全国	56.4		56.5
		全国との差	+2.6	↗	+5.9
	学校に行くのは楽しいと思う（当てはまる）	名張市	42.5		49.2
		全国	45.6		45.2
		全国との差	−3.1	↗	+4.0
規範意識等	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか（当てはまる）	名張市	80.5		83.1
		全国	77.1		76.3
		全国との差	+3.4	↗	+6.8
	人の役に立つ人間になりたいと思いますか（当てはまる）	名張市	71.6		73.1
		全国	71.3		69.8
		全国との差	+0.3	↗	+3.3
	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる（当てはまる）	名張市	30.7		30.9
		全国	31.9		33.4
		全国との差	−0.2	↗	−2.5
地域貢献	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか（当てはまる）	名張市	20.4		21.6
		全国	22.4		22.1
		全国との差	−2.0	↗	−0.5
読書習慣	あなたの家には、およそどれくらい本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く）（０～２５冊）	名張市	38.0		36.9
		全国	38.9		36.7
		全国との差	+0.9	↘	−0.2
	学校の授業時間以外に普段、１日あたりどれくらい読書しますか（３０分以上）	名張市	19.3		16.4
		全国	21.4		18.0
		全国との差	−2.1	↘	−1.6

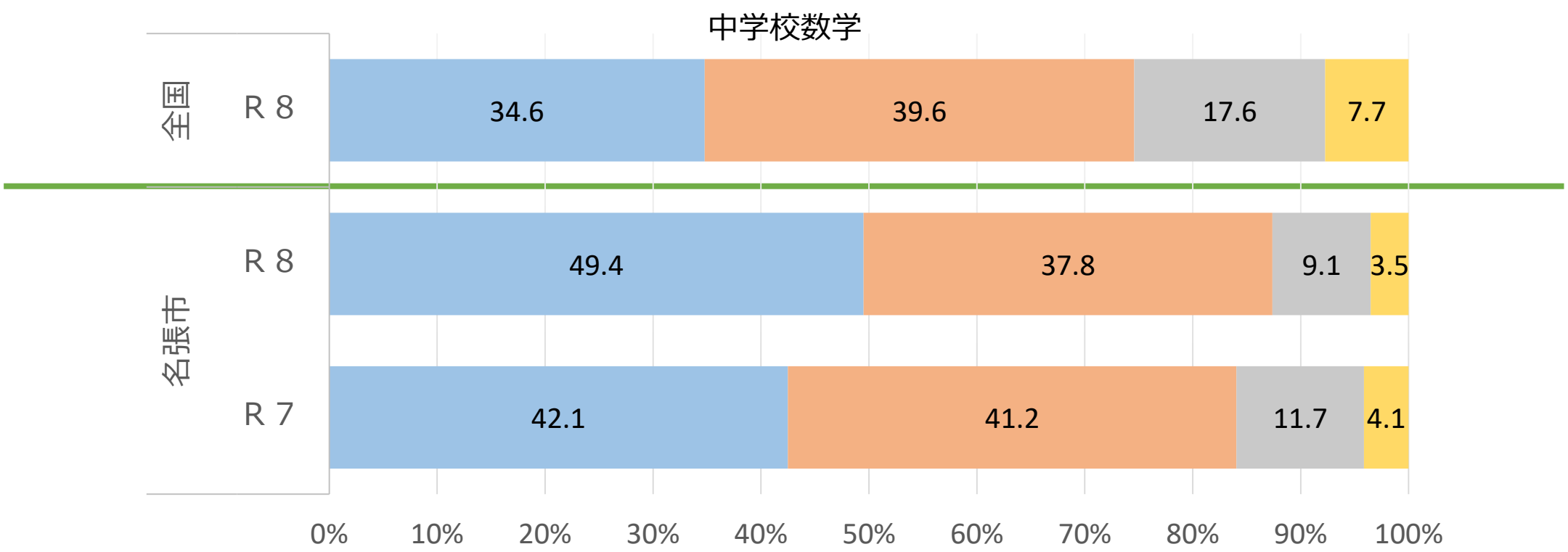
学校では　わかる授業のための授業改善に取り組んでいます。

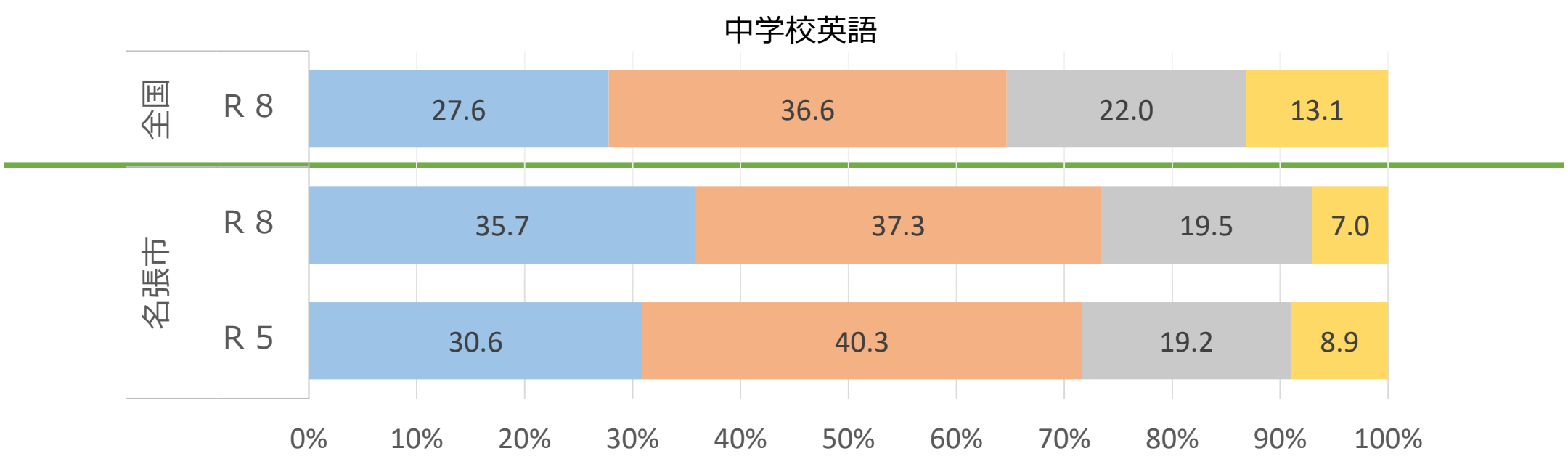
質問項目：授業の内容はよく分かりますか



質問項目：授業の内容はよく分かりますか





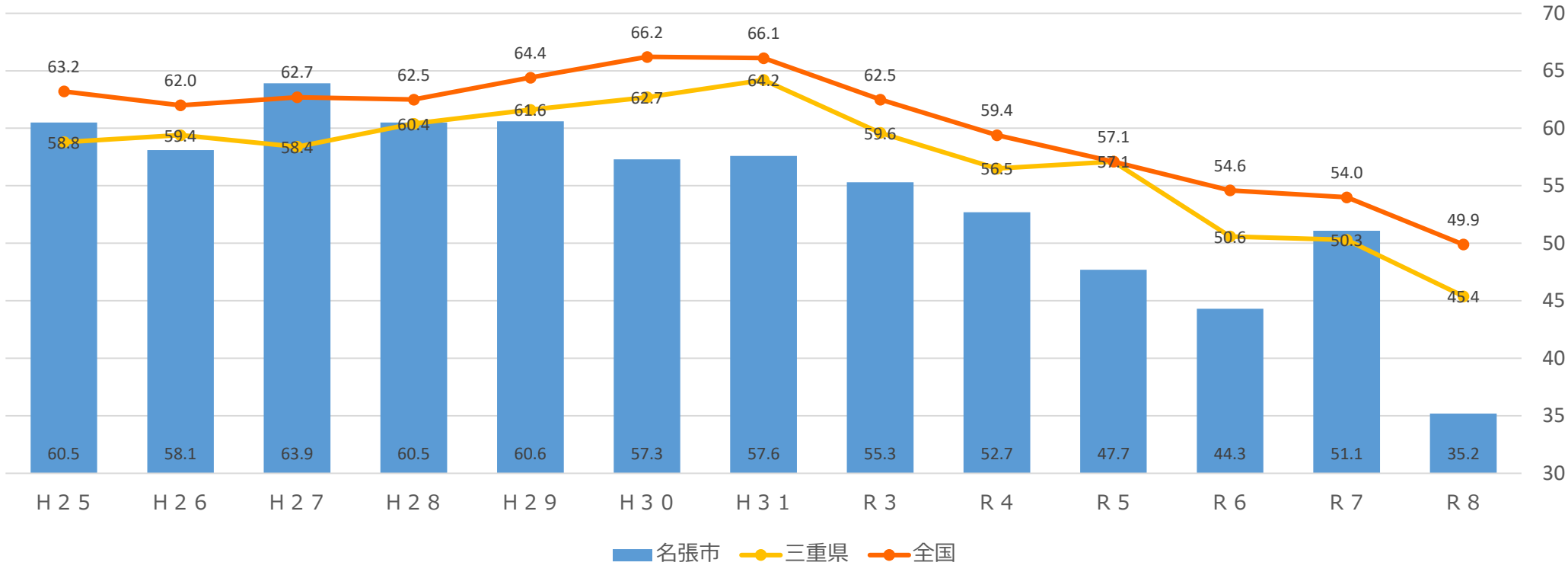


本市は授業がよくわかる、小学校英語の授業が好きであるという質問に対して、肯定的な回答（よくわかる、どちらかというとわかる、好き、どちらかというと好き）をしている児童生徒の割合は、全国との比較において高い結果がみられます。一方で、小学校の国語と算数においては前回の調査よりも肯定的回答の割合が低くなっています。また、よく分からないと回答している児童生徒もいることから、子どもたちが「分かる喜び」「学ぶ楽しさ」をより一層実感できる授業づくりに努め、主体的に学習に取り組めるよう授業改善を図り、学力向上につなげます。

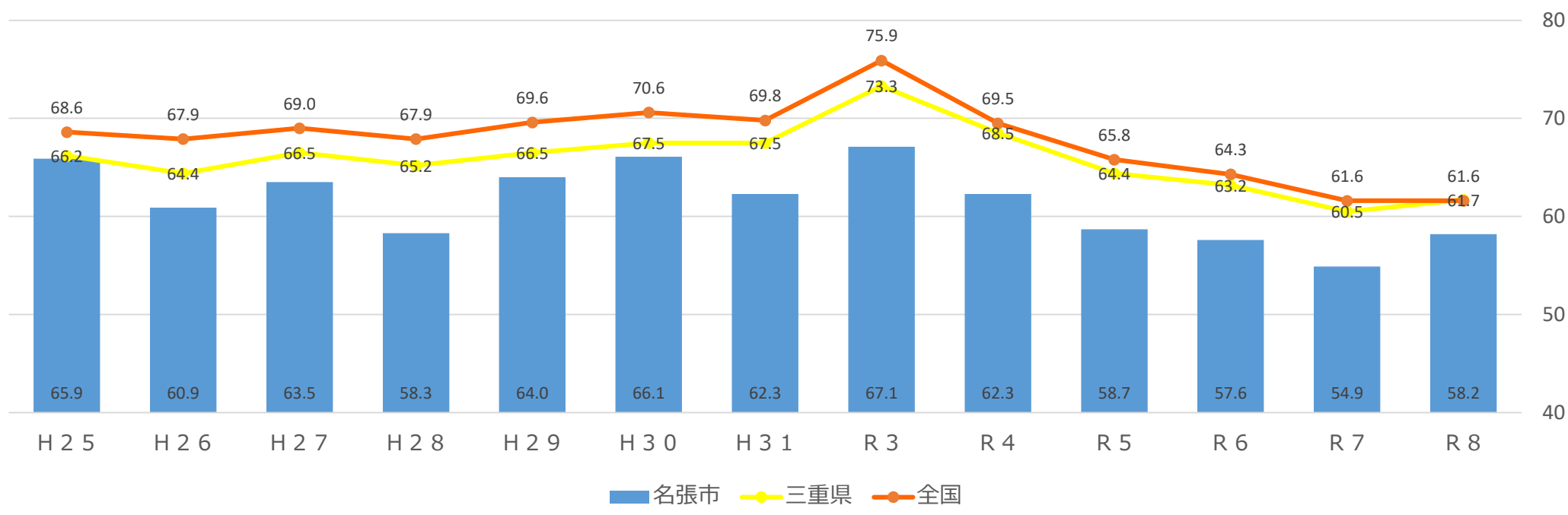
家庭では　家庭学習の習慣化に努める必要があります。

質問項目：１日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。（１時間以上）※学習塾、家庭教師含む

小学校　平日学習時間



中学校　平日学習時間



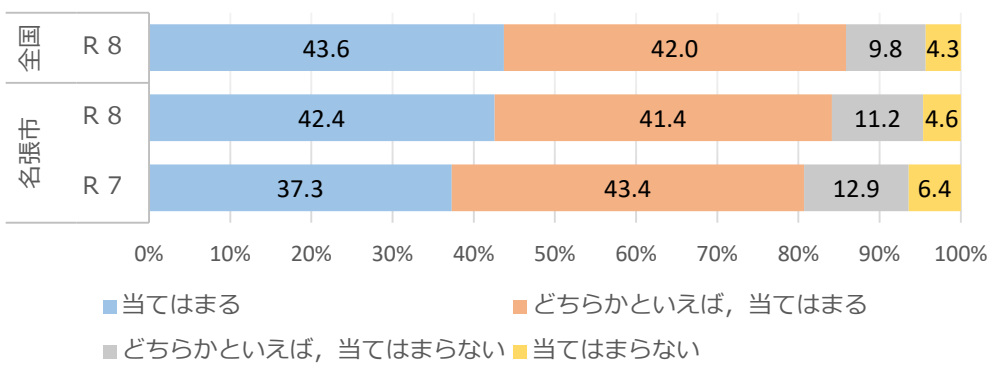
令和３年度から家庭学習が「１時間以上」と回答した児童生徒の割合が全国、三重県ともに減っている傾向がみられます。本市では全国平均より低い傾向が続いています。ただ、中学校では昨年度より割合が増えました。家庭の啓発だけでなく、児童生徒が　「自己マネジメント力」「生涯学習力」等をつけられるよう、個人や集団として自らの取組を振り返り、改善につなげる取組の展開を進めています。

家庭学習は、自ら学ぶ力の育成や学習内容の定着を図るために必要です。児童生徒が主体的に家庭学習に取り組めるよう、学校と家庭が共通理解し、協働した取組となるよう、さらに連携を深めていく必要があります。

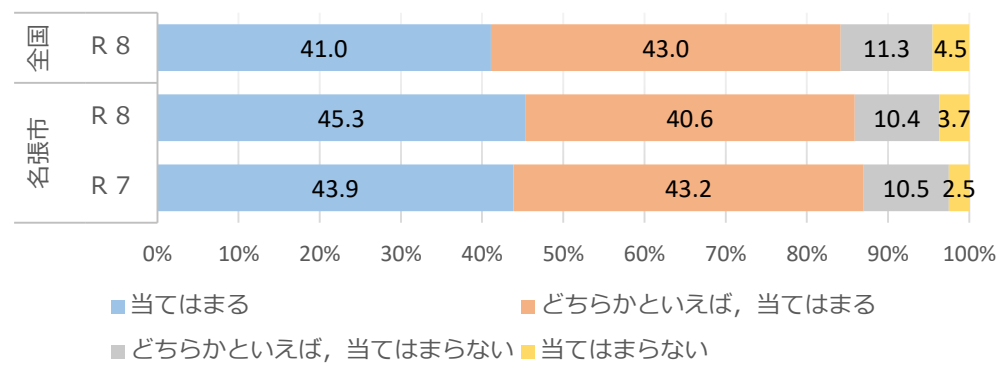
自尊感情・キャリア・地域貢献・社会貢献に関すること

①自分には、よいところがあると思いますか

小学校

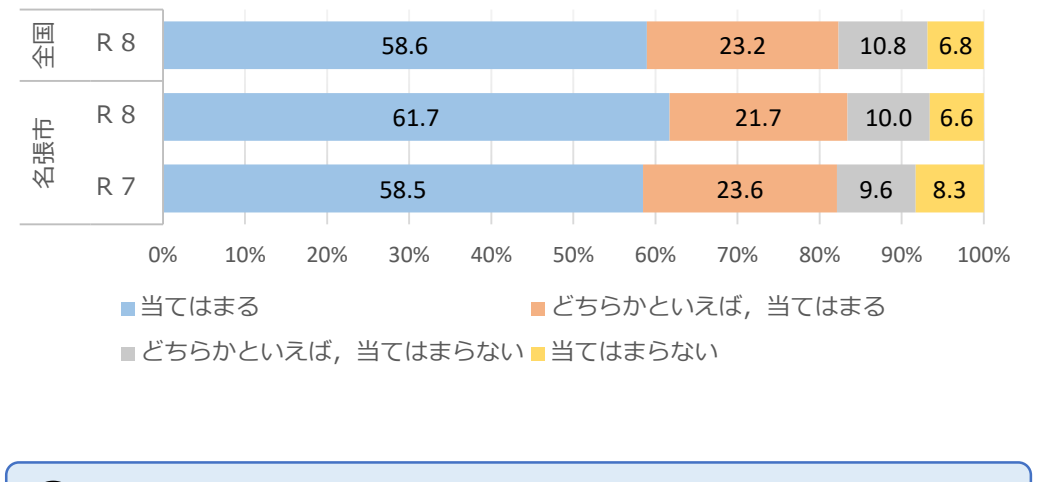


中学校

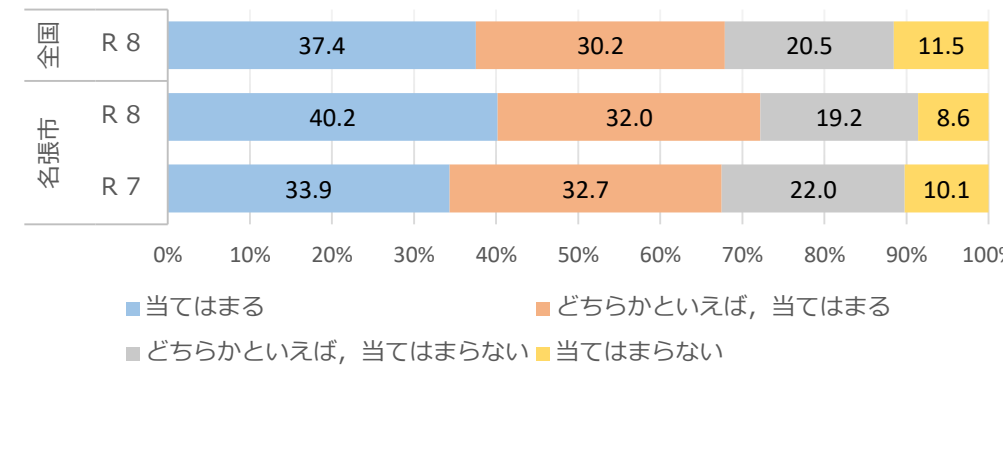


②将来の夢や目標を持っていますか

小学校

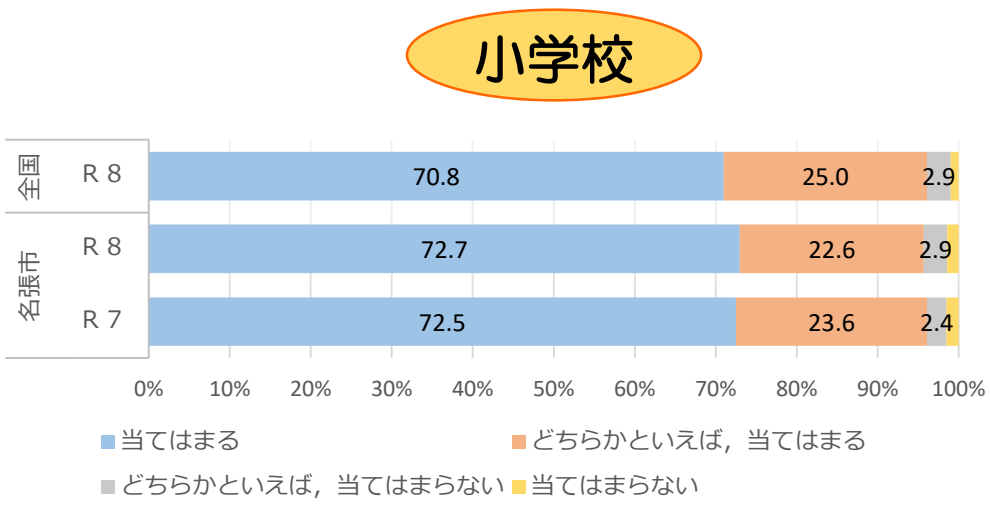


中学校

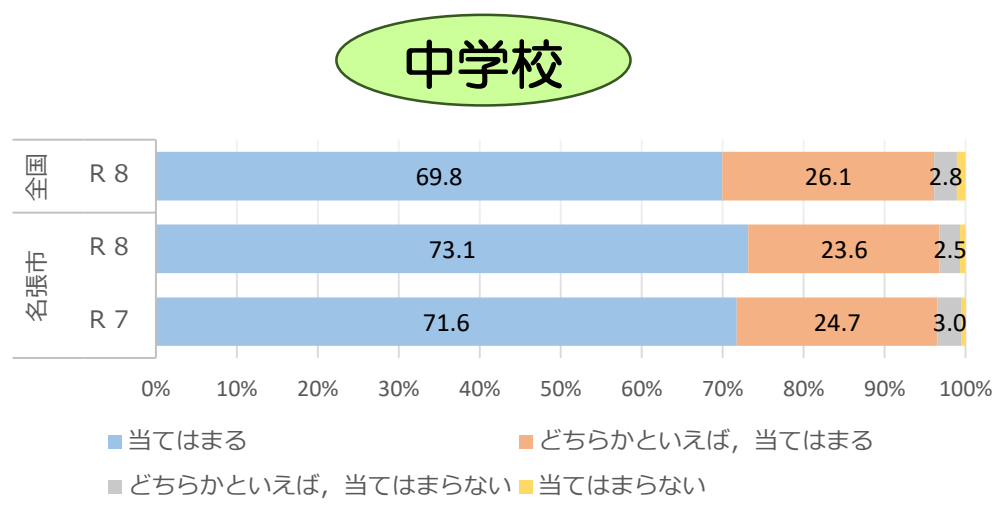


③人の役に立つ人間になりたいと思いますか

小学校

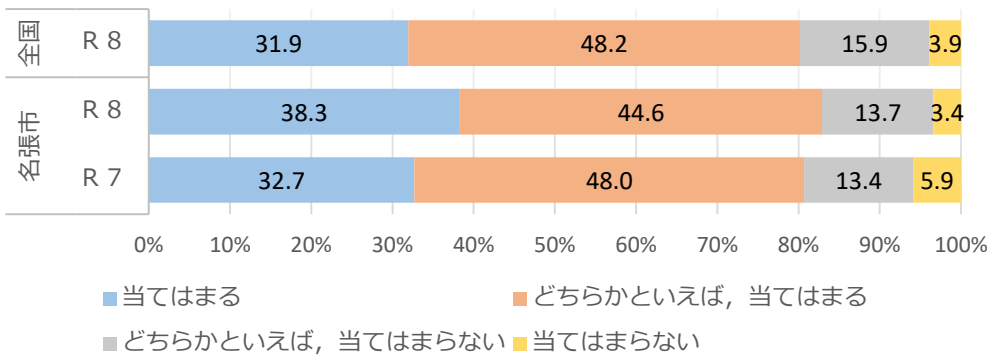


中学校

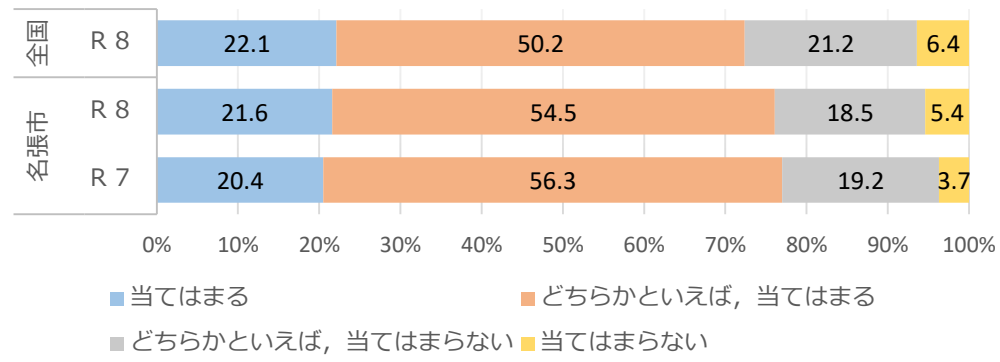


④地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

小学校

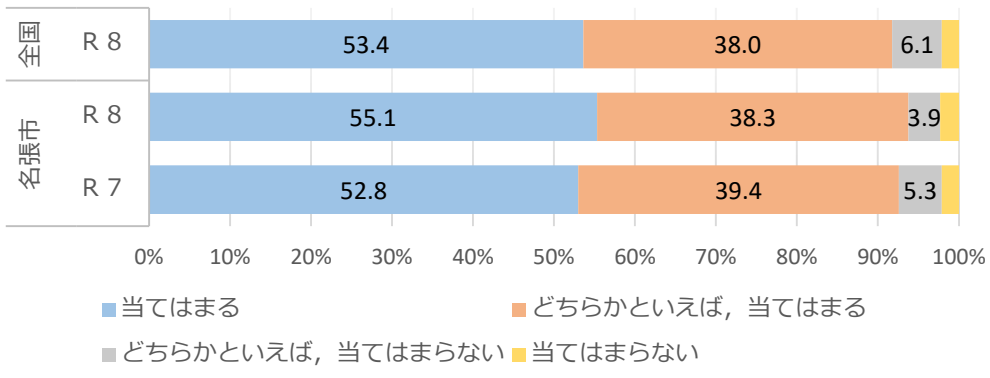


中学校

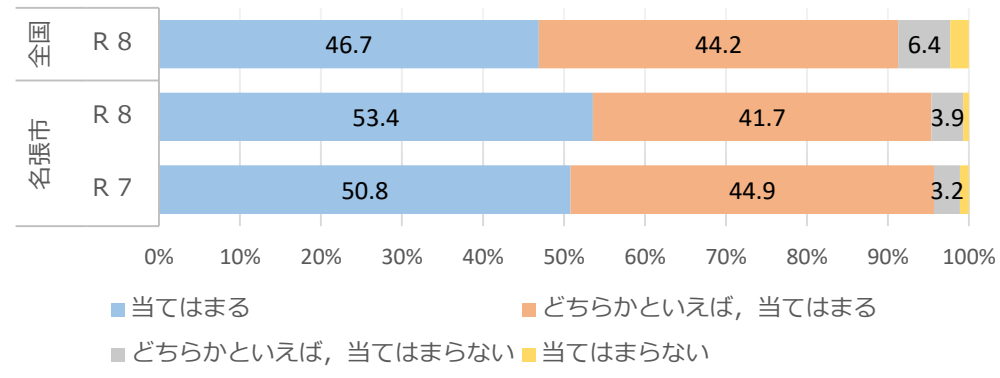


⑤先生はあなたのよいところをみとめてくれていると思いますか

小学校

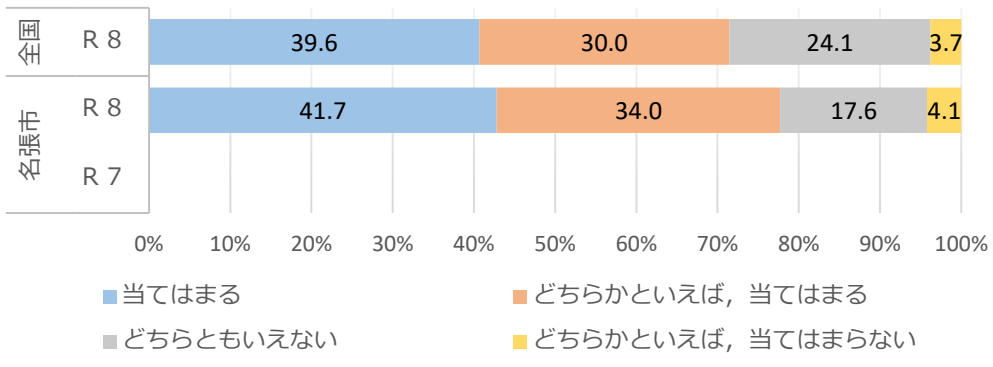


中学校

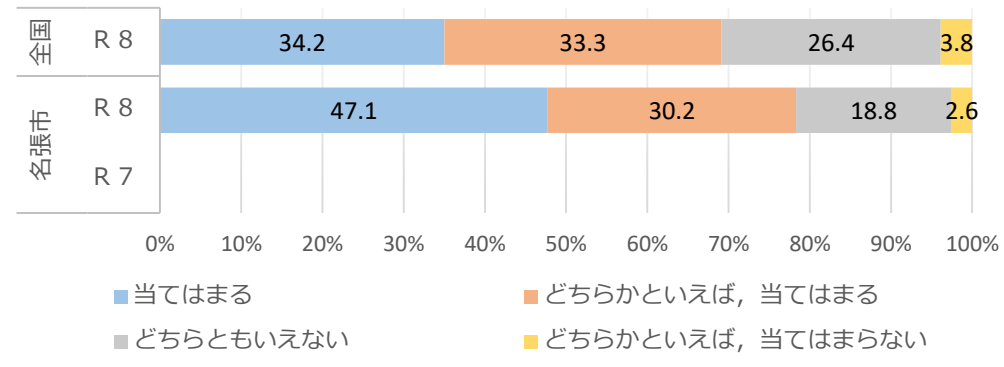


⑥あなたの学級では人と違う意見を言っても否定されないと思いますか（R7は同じ質問なし）

小学校



中学校



【自尊感情・キャリア・地域貢献・社会貢献に関すること】

- 「自分にはよいところがあると思いますか。」という質問に対する肯定的な回答割合は、小学校で83.8パーセント、中学校で85.9パーセントで、昨年度と比べると小学校は増加、中学校は少し減っている。
- 「将来の夢や目標をもっていますか。」という質問に対する肯定的な回答をしている児童生徒の割合は、全国と比べ、小学校、中学校ともに上回った。
- 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか。」という質問に対する肯定的な回答割合は、小学校で95.3パーセント、中学校で96.7パーセントと高い数値である。
- 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。」「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「あなたの学級では人と違う意見を言っても否定されないと思いますか」という質問に対する肯定的な回答は小学校、中学校ともに全国を上回った。

自尊感情は自分で達成して得られるものと他者との関わりの中で得られるものがあると捉えています。できたという達成感を得られる機会や他者との関わりの中で考えを広げたり、深めたり、自分の発言が認められたりする機会を得るよう意図的な授業づくり、場づくりが求められます。また、家庭、先生や学級、地域との関わりの中で安心して学ぶことができる環境づくりを引き続きしていく必要があります。教師と児童生徒、児童生徒同士、家庭、地域と関連性と一貫性をもった指導をしていくことが重要であると考えています。

３－②　児童生徒質問調査結果と教科の平均正答率との関係＜クロス集計＞

「児童生徒質問調査」とは、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査です。
ここでは、「児童生徒質問調査」のうち、正答率の相関関係がみられそうなものや特徴的な資料をいくつか示し、その傾向と分析を記載しています。

グ ラ フ の 見 方

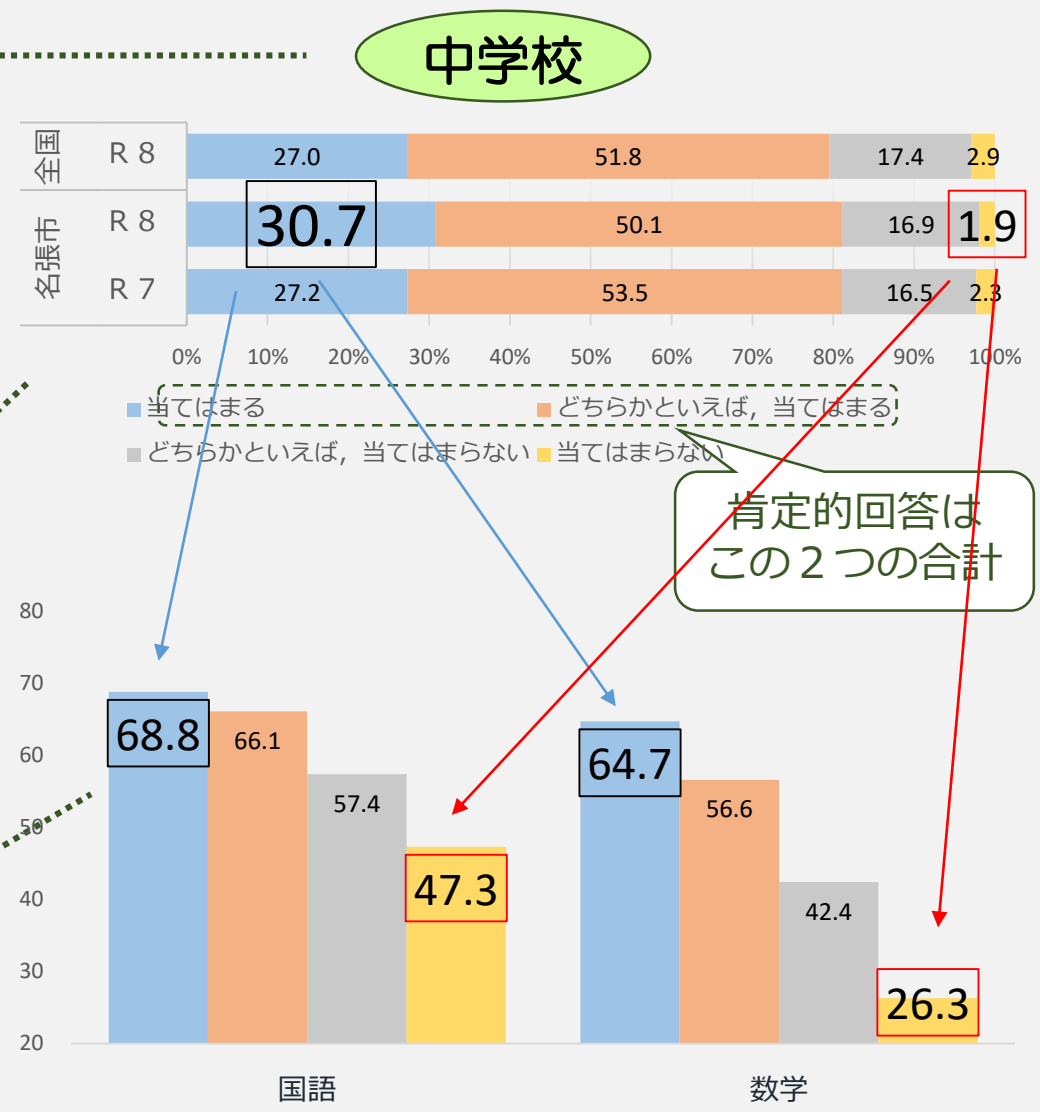
＜例示＞

質問事項

〇今までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

＜グラフ内の数値は（%）です＞

同じ質問に対し、
ページの左半分は小学校
右半分は中学校のグラフです。



このグラフでは、児童生徒が回答した選択肢別の割合を、そのまま表しています。
Ｒ８名張市平均（中段）を、全国平均（上段）、Ｒ７名張市平均（下段）とそれぞれ比較することができます。
「今までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」（当てはまる）と回答した生徒は、
全　国で　２７．０％
名張市で　３０．７％　です。

このグラフでは、児童生徒が回答した選択肢と、平均正答率との関係を、クロス集計しています。
右のグラフで、「当てはまる」と回答した生徒の、国語の平均正答率は、
名張市で　６８．８％です。

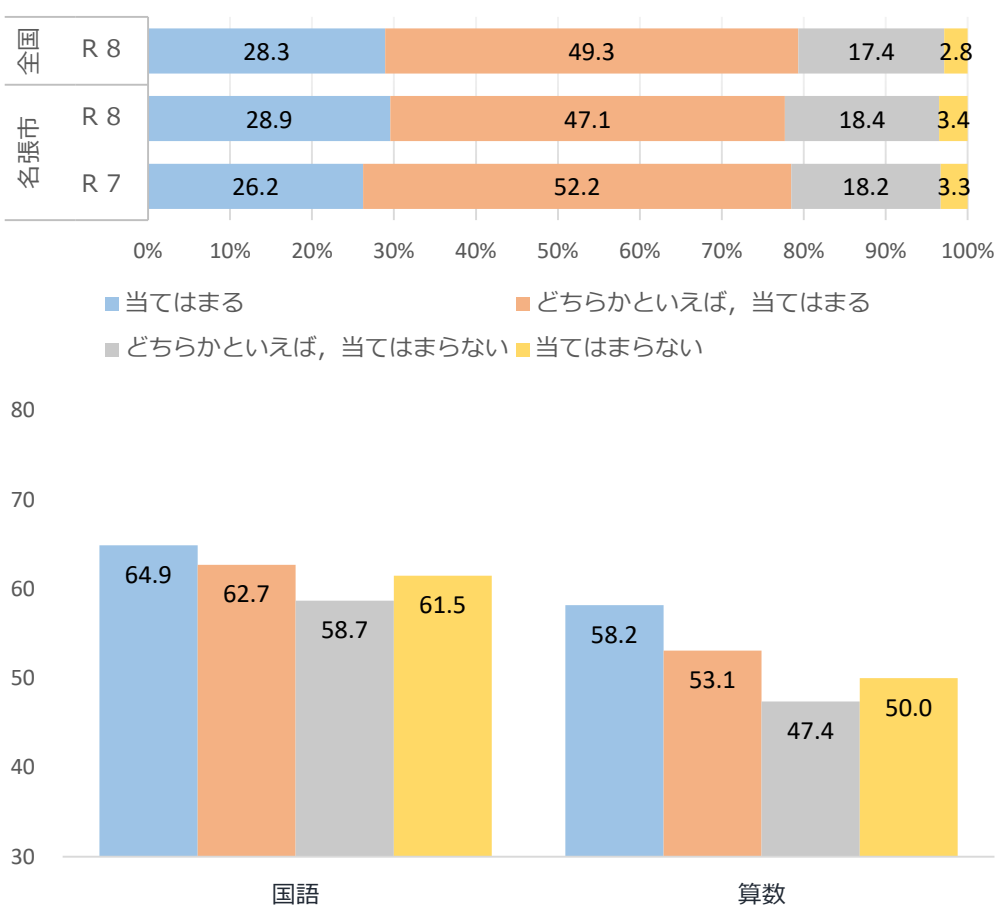
「今までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という質問に対して、「国語」で見てみると、
「当てはまる」　と回答した名張市の生徒の平均正答率は、６８．８％、
「当てはまらない」と回答した名張市の生徒の平均正答率は、４７．３％で
２１．５％の開きがあり、
「当てはまる」と回答している生徒ほど、
「国語」の調査問題の正答率も高いということがわかります。
「数学」でも、３８．４％、の開きがあり、
「肯定的な回答をしている生徒ほど、平均正答率が高い」という傾向が、顕著に表れています。

※いずれのグラフにも無回答率は掲載していません。
また、質問によっては、回答項目（時間帯等）が多いため、傾向がわかる回答項目（時間帯）に関してのみ、掲載しています。そのため、合計数値が１００％になっていない場合があります。
※中学校英語はIRTスコアのため、クロス集計をグラフであらわしていません。

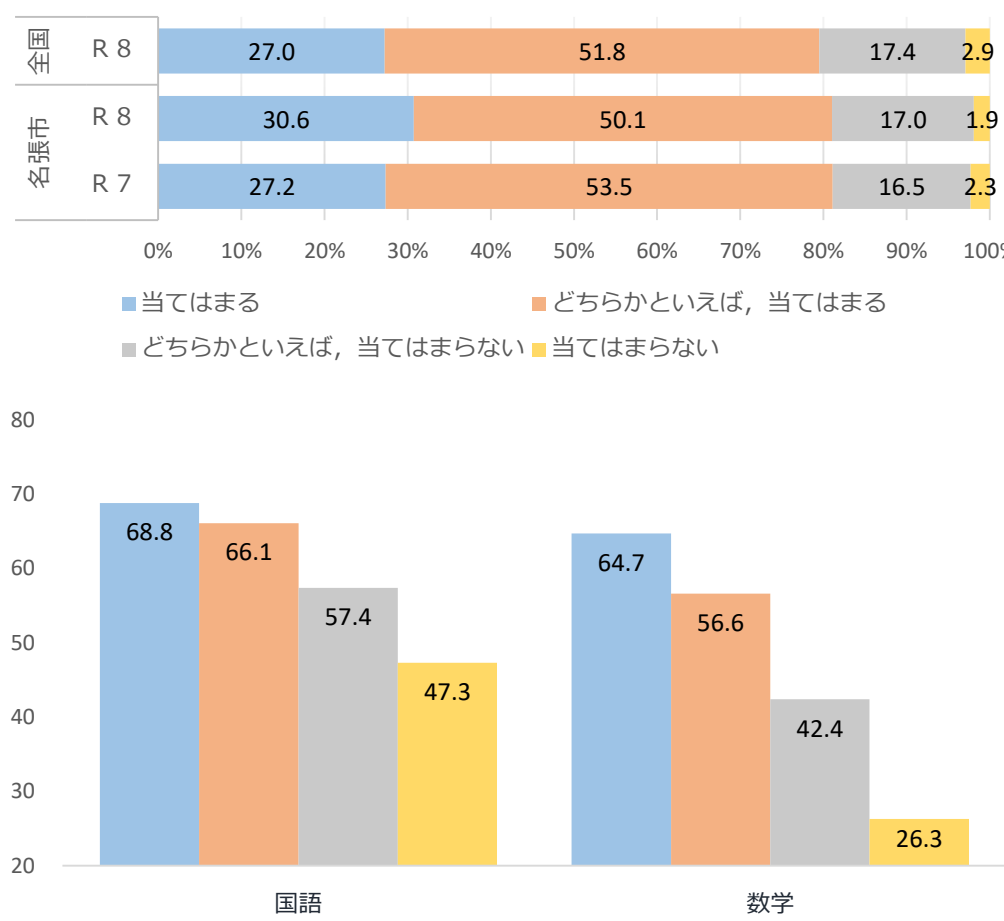
（１）学校教育に関すること

①今までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

小学校

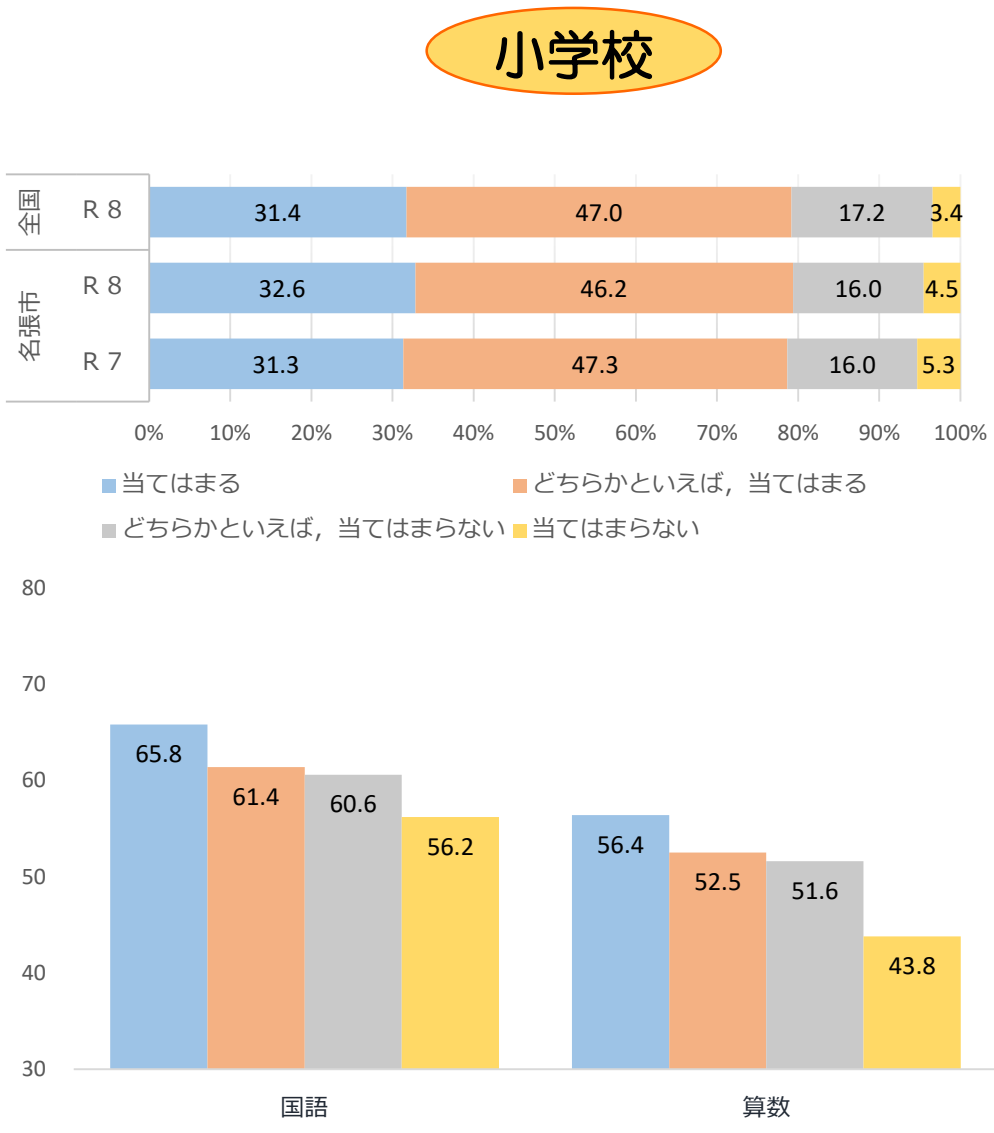


中学校

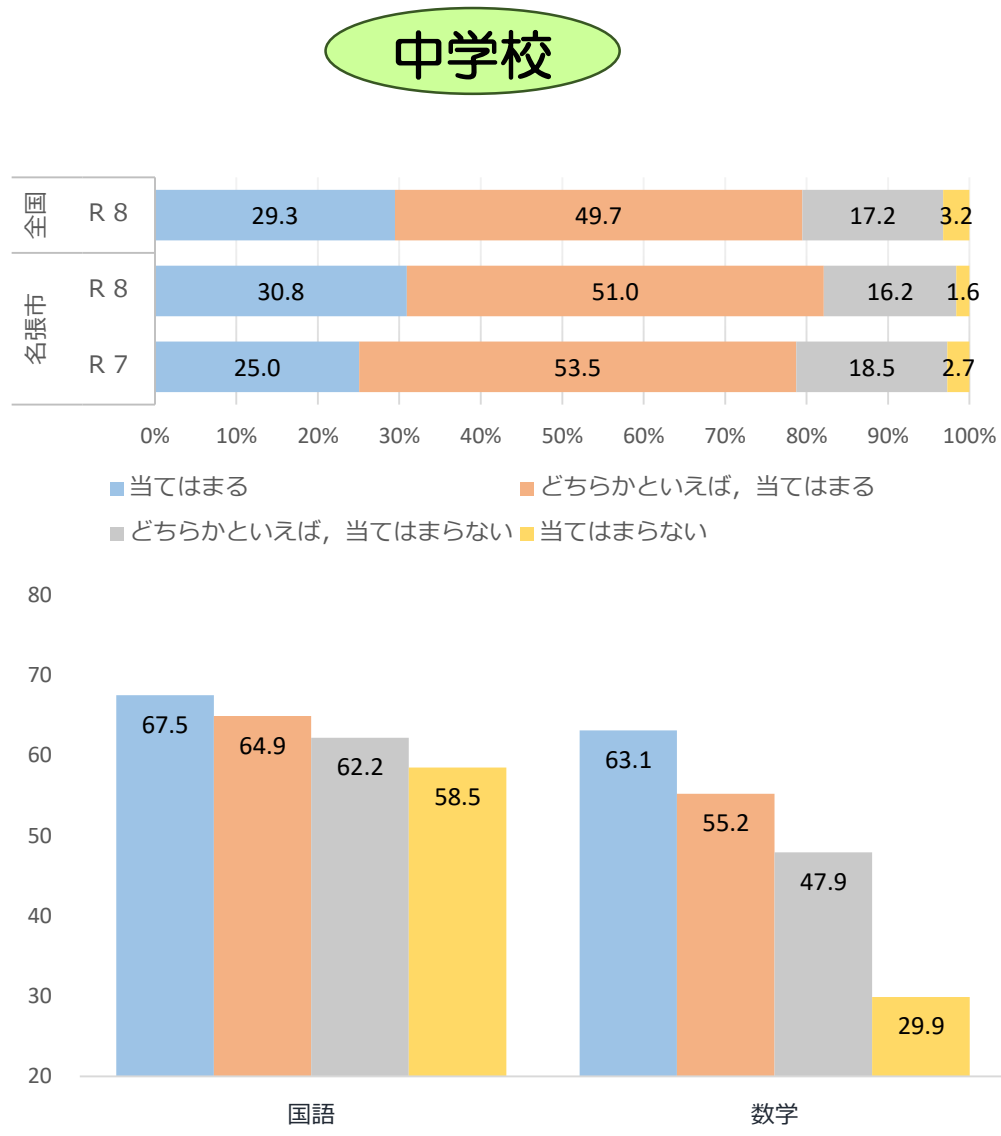


②学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

小学校



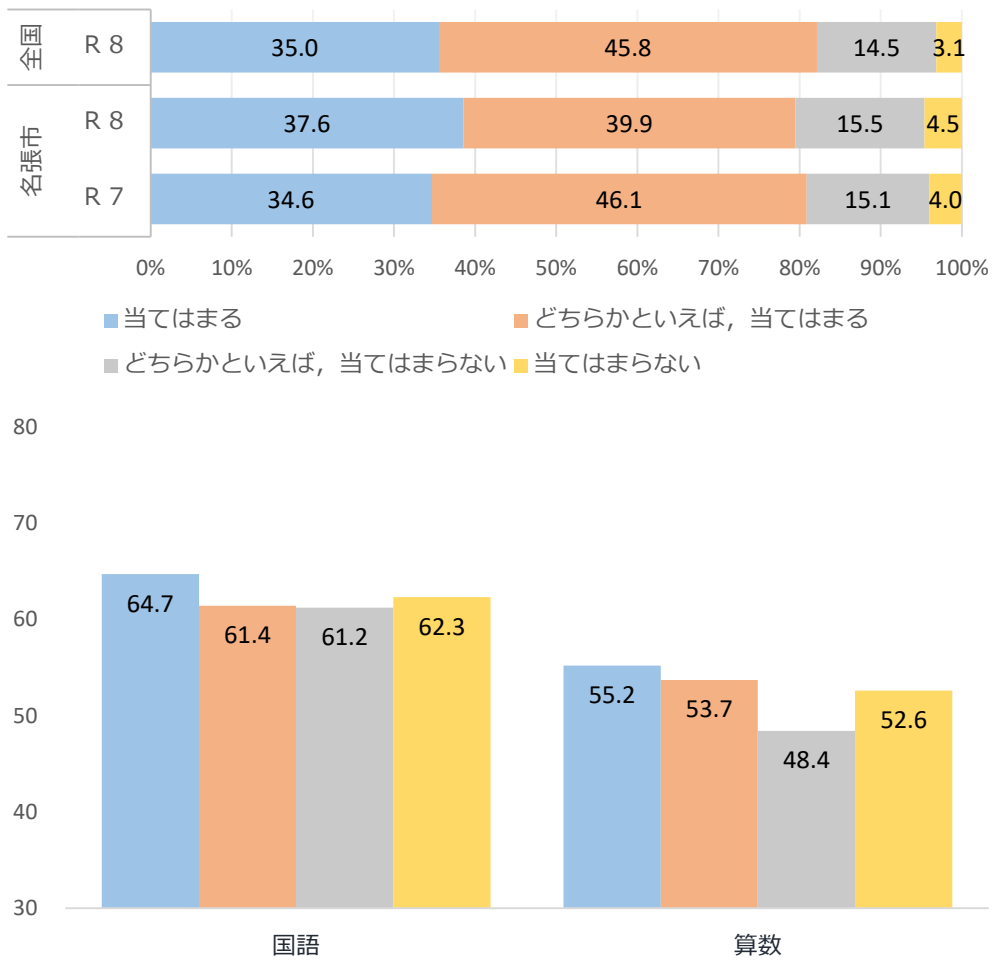
中学校



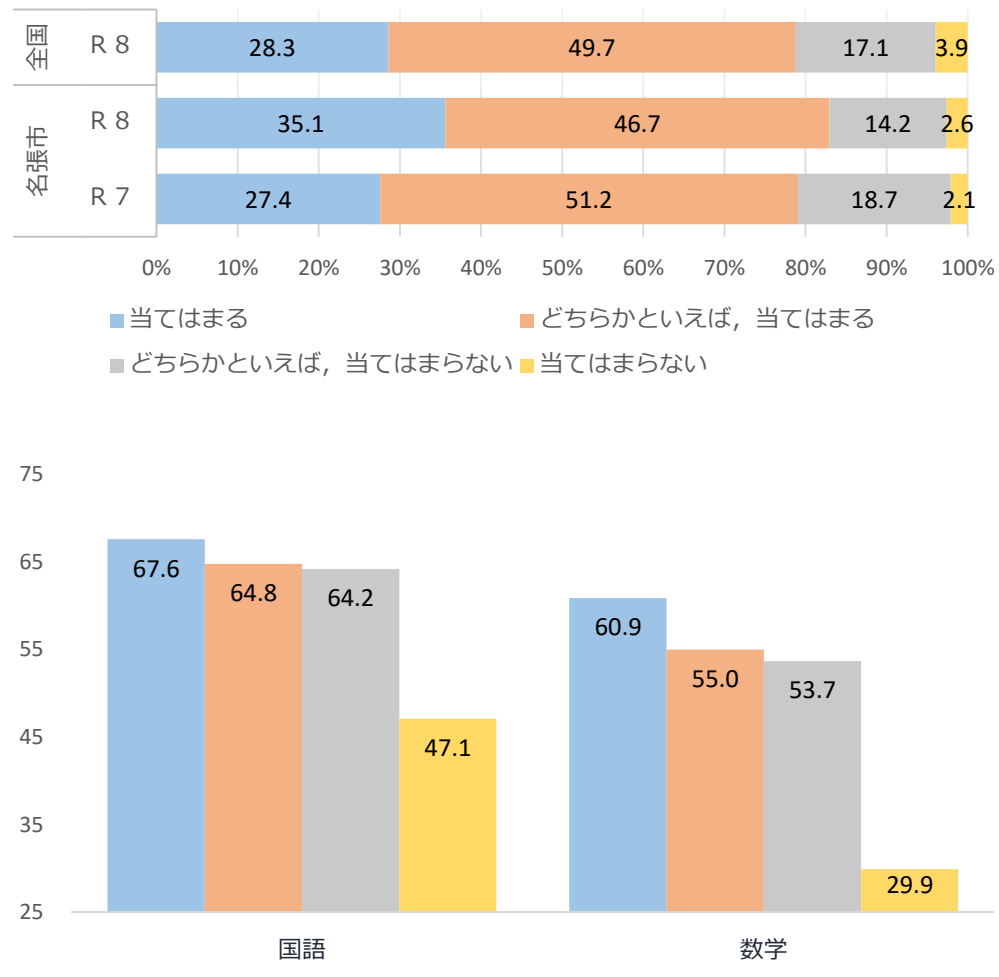
①②の質問はともに、自ら学ぶ、次につなげるといった主体的な姿勢が問われています。肯定的回答と正答率には相関関係があると捉えることができます。主体的に取り組むことができる場面設定や価値づけ等の工夫が必要です。

③授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか

小学校

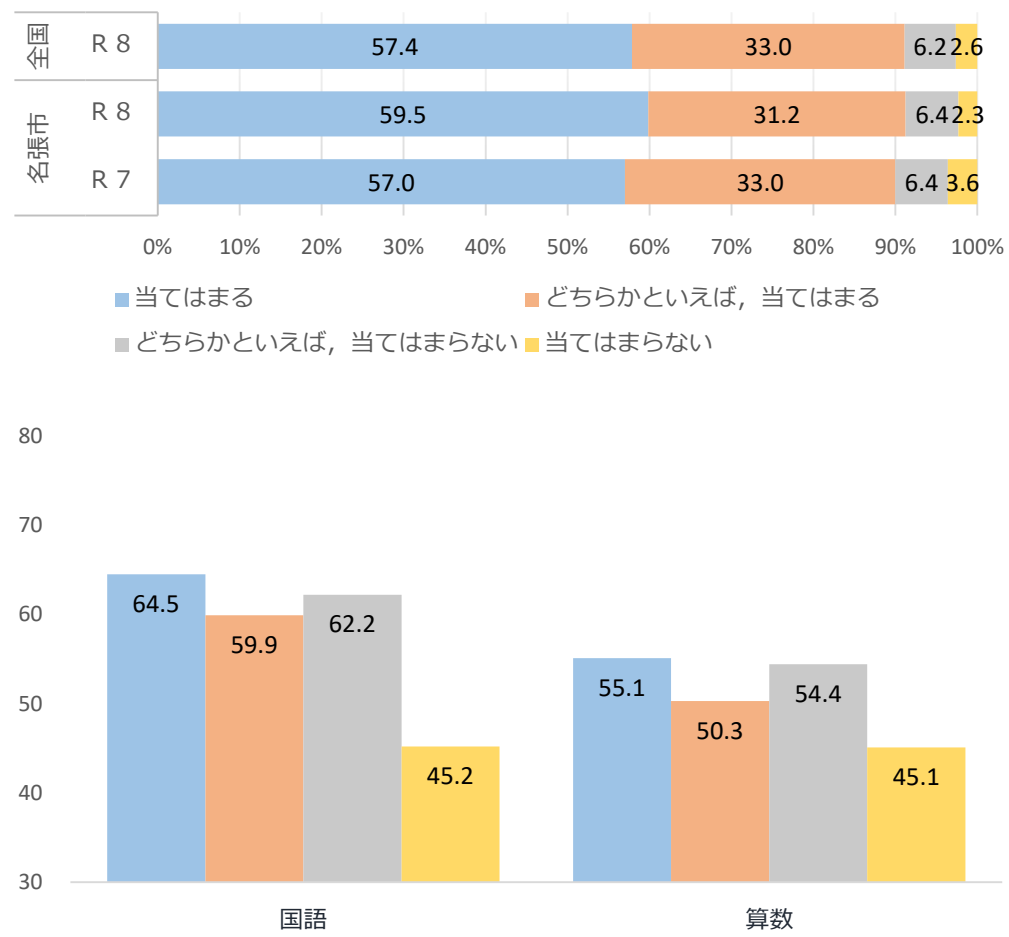


中学校

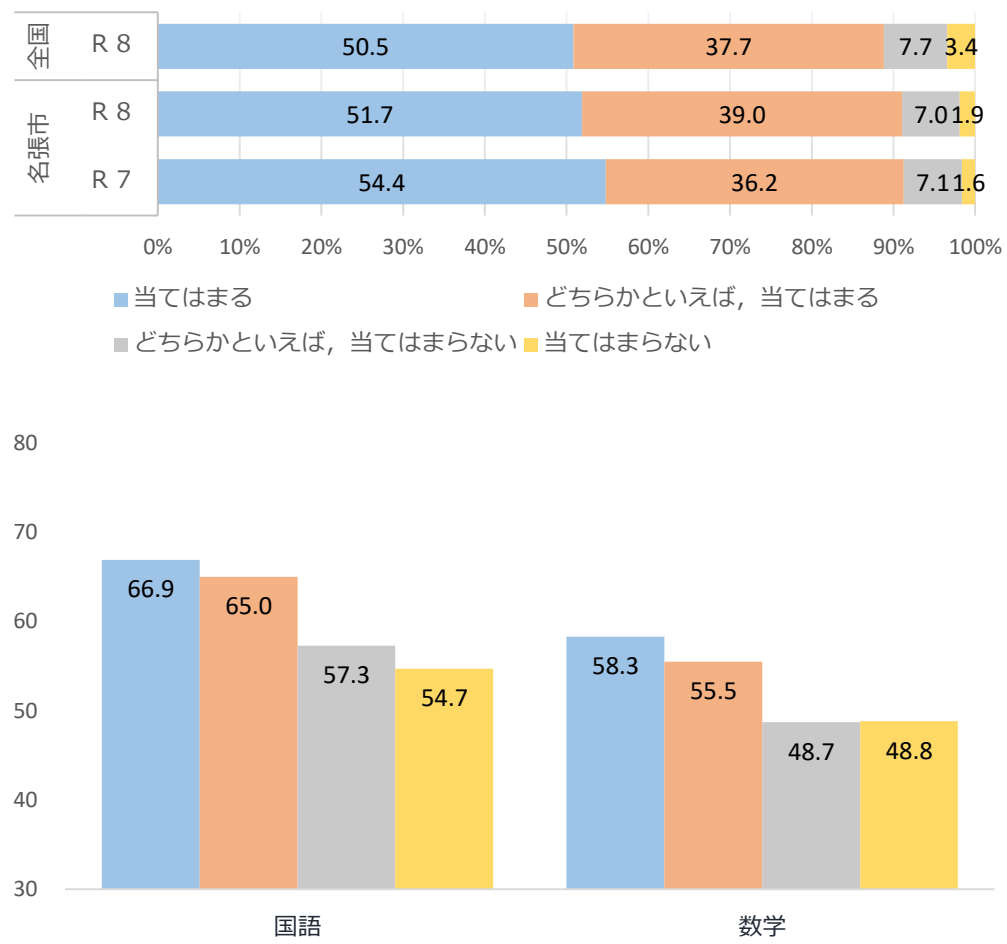


④国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

小学校

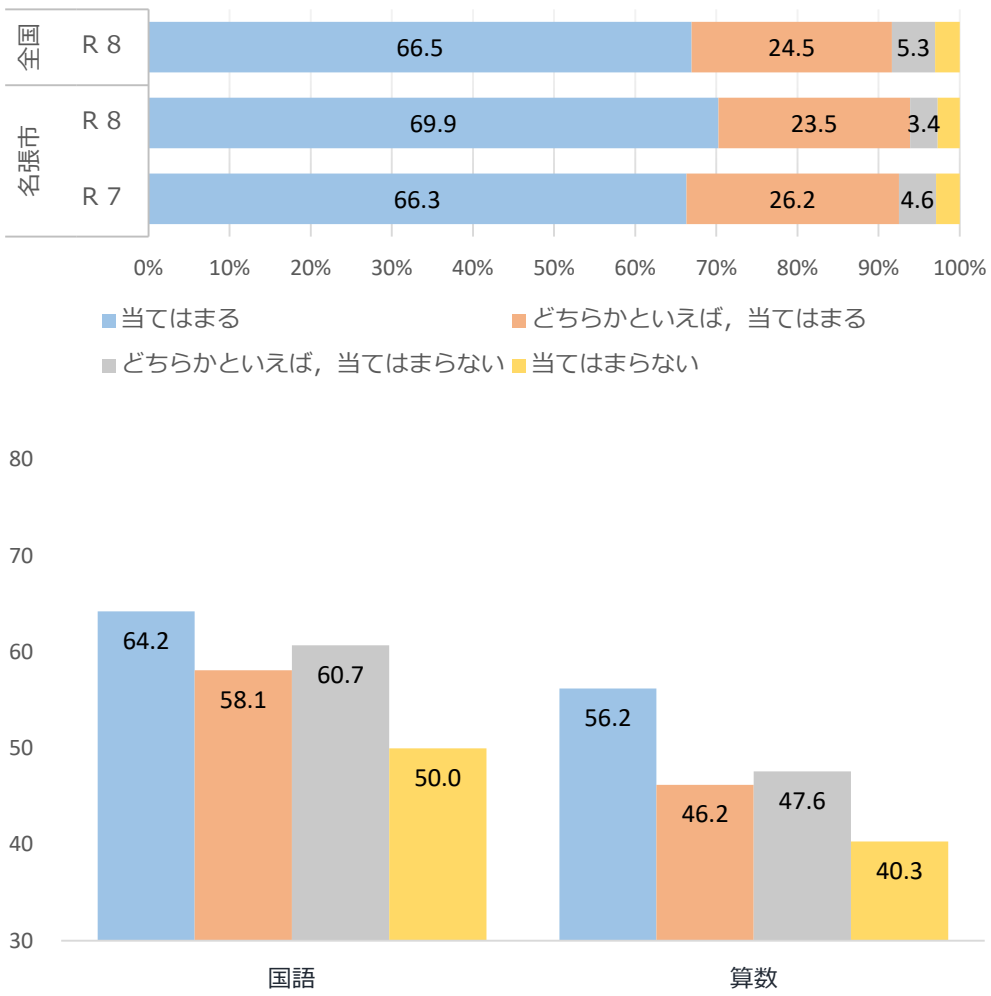


中学校

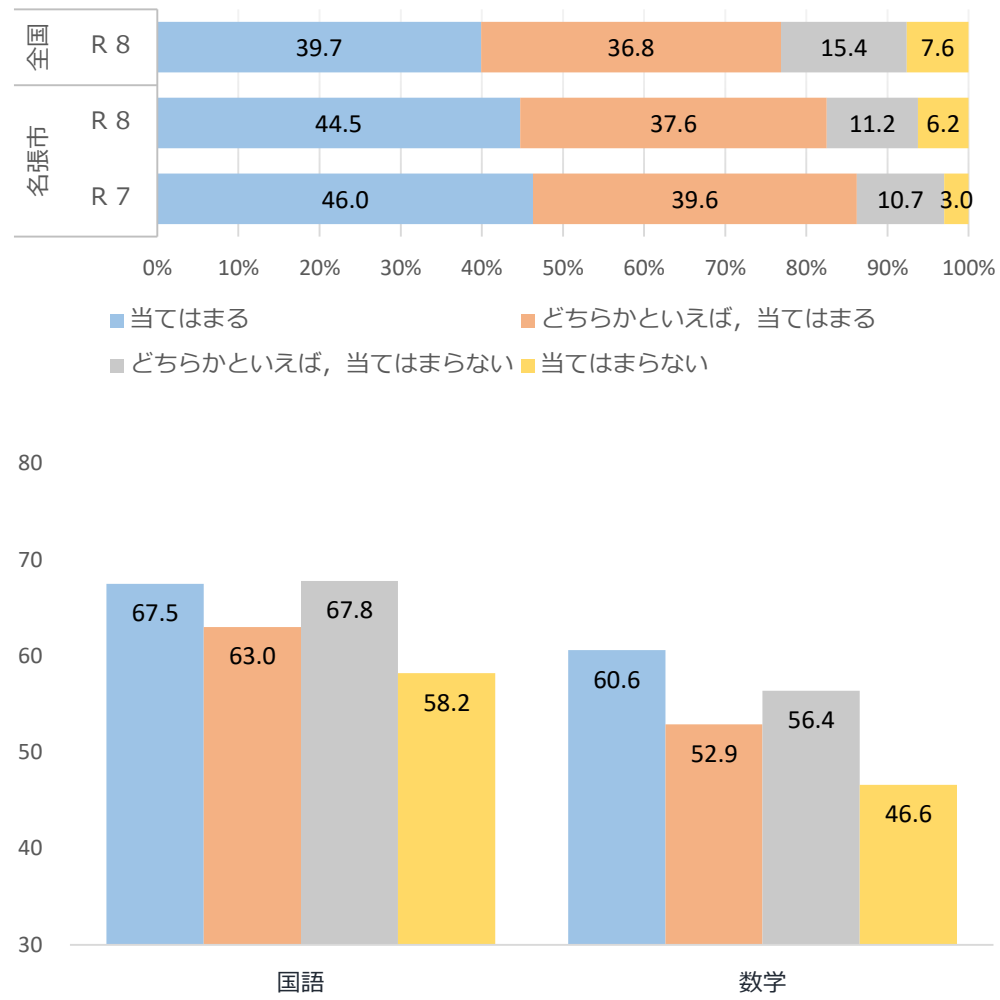


⑤算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

小学校

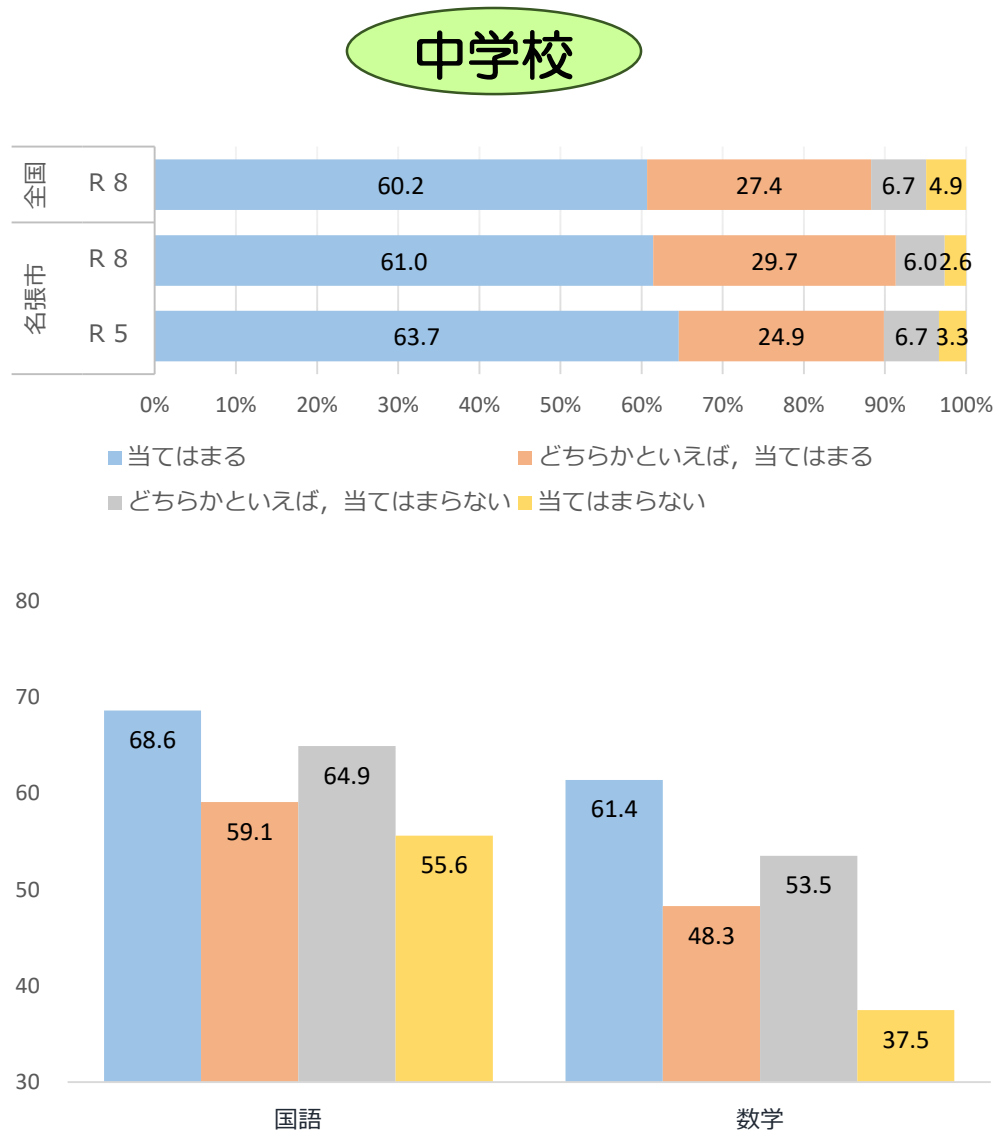


中学校



⑥英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

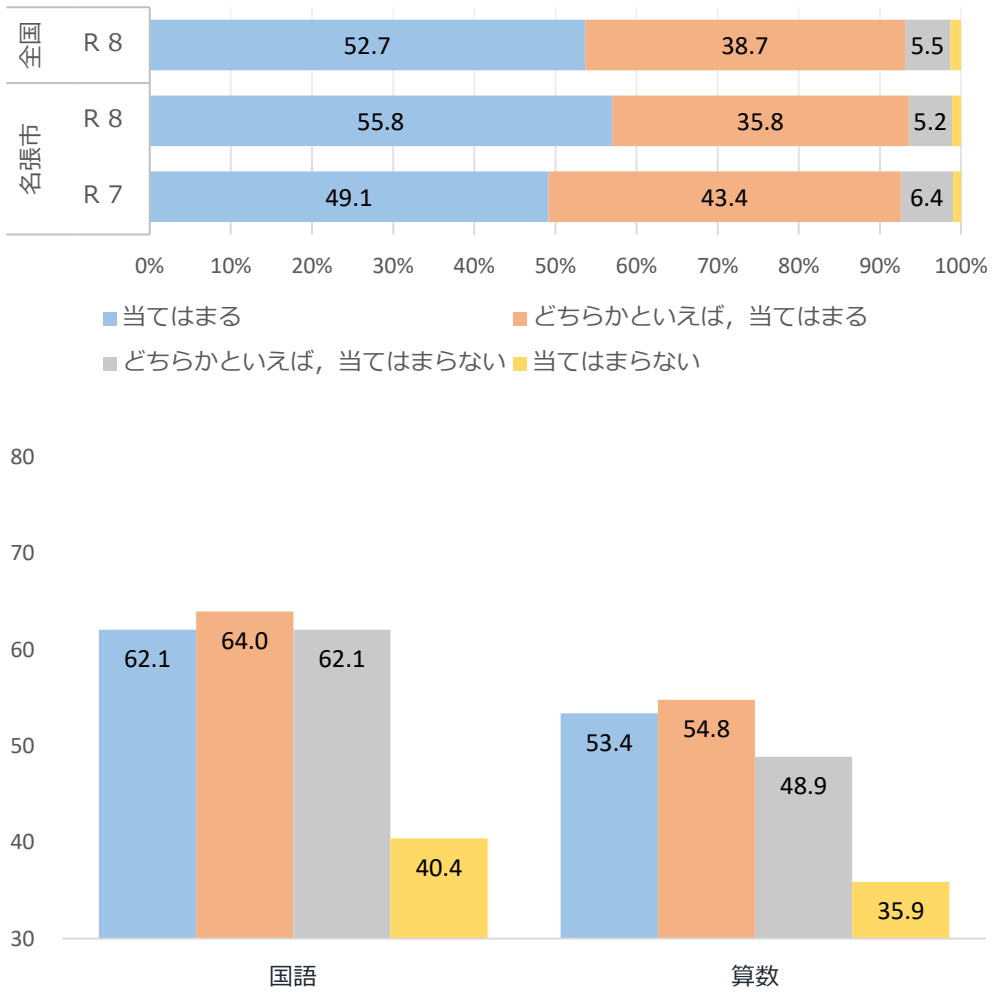
中学校



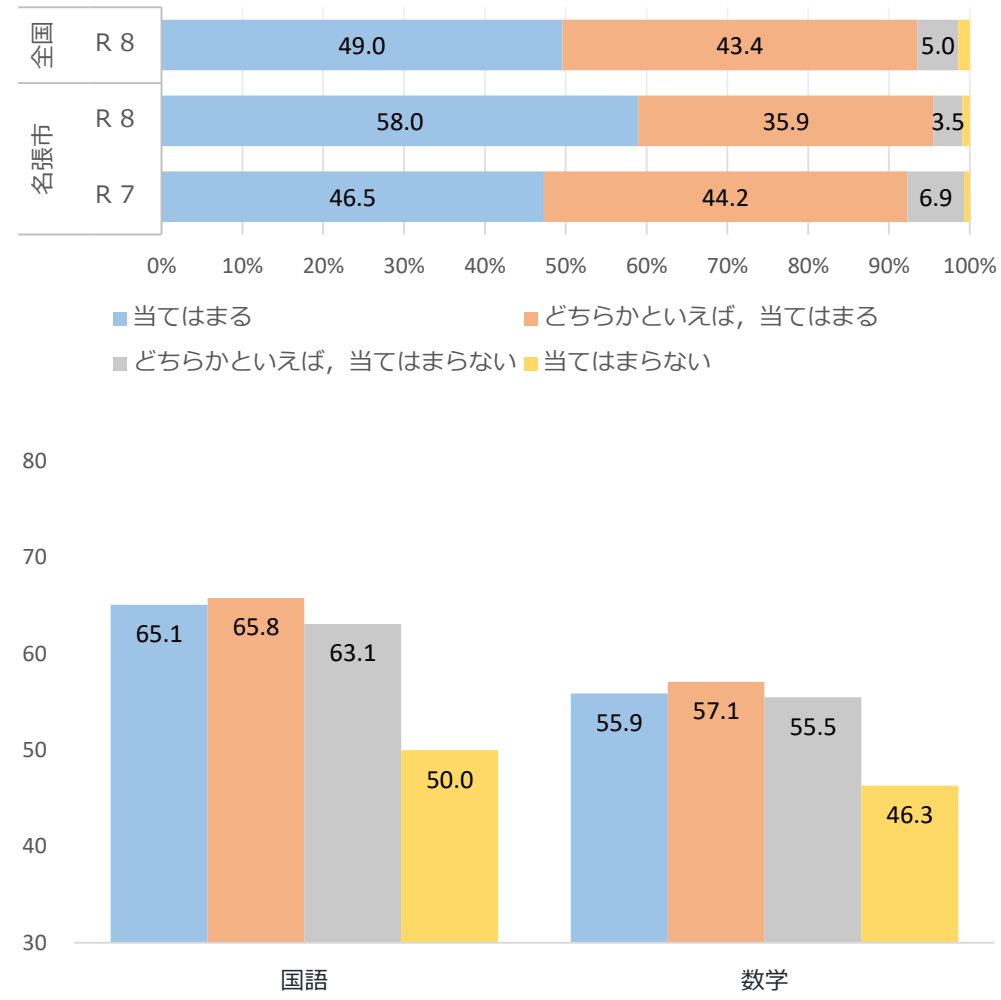
③～⑥の質問は学んだことが実生活に結び付く、いかせる、役に立つと考えているかを問われています。正答率との相関関係がみられます。学んだことが実生活とどうつながっているかの関連付け、各教科での学びや考え方、アプローチの仕方が今後にどうつながっていくのかなどを伝えていくことが学習に向かう動機につながっていくと捉えています。

⑦授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか

小学校

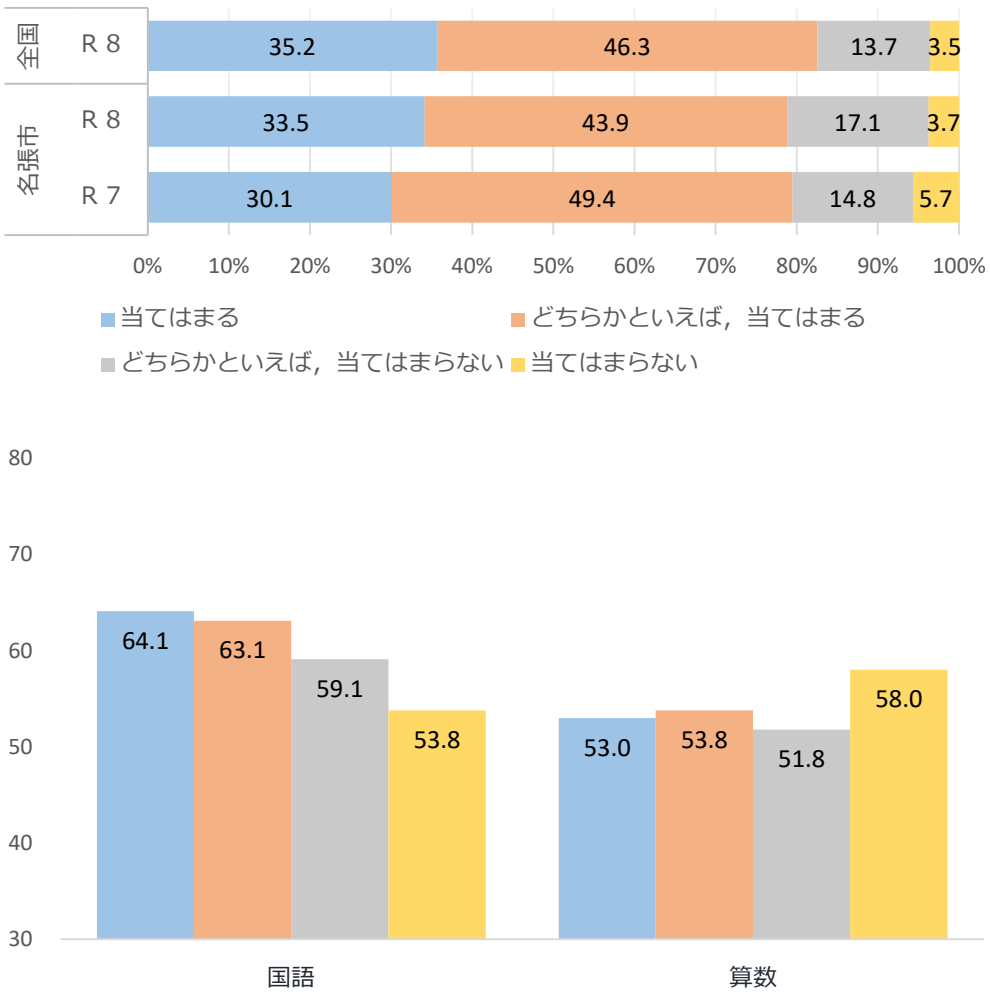


中学校

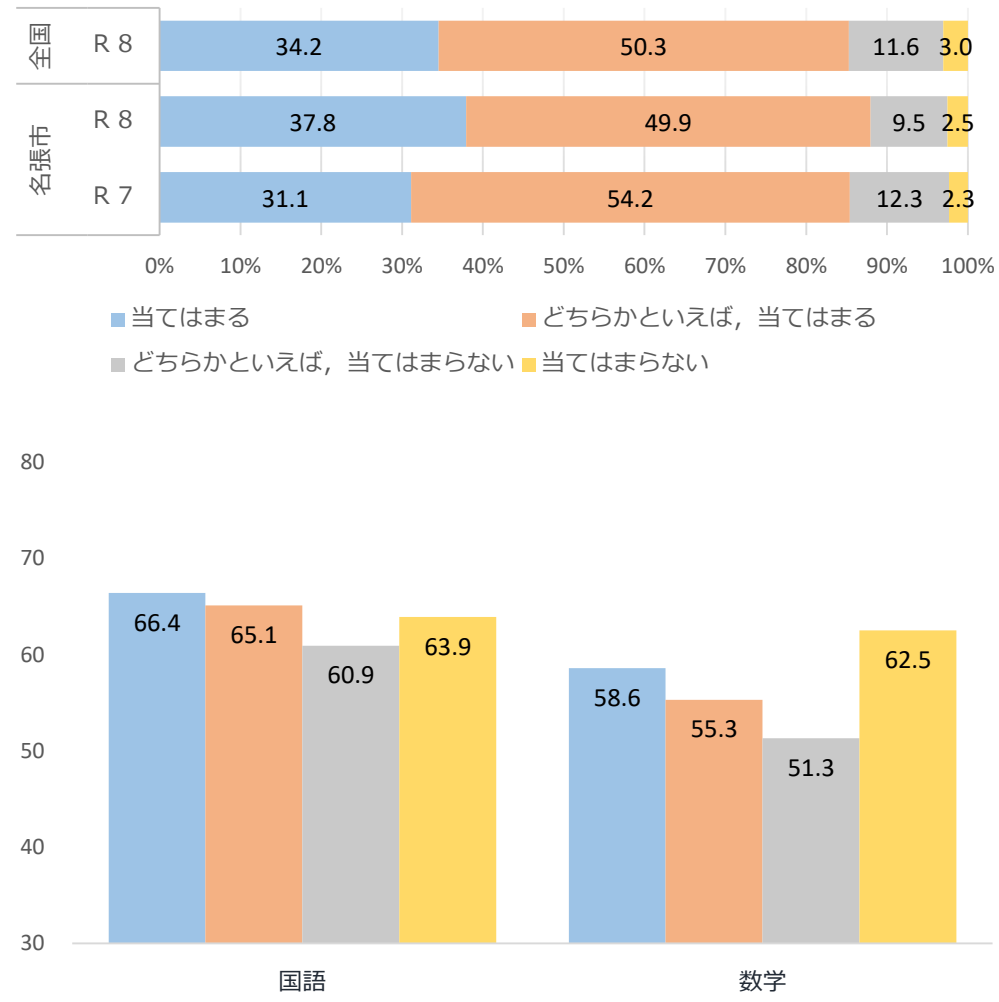


⑧あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか

小学校



中学校

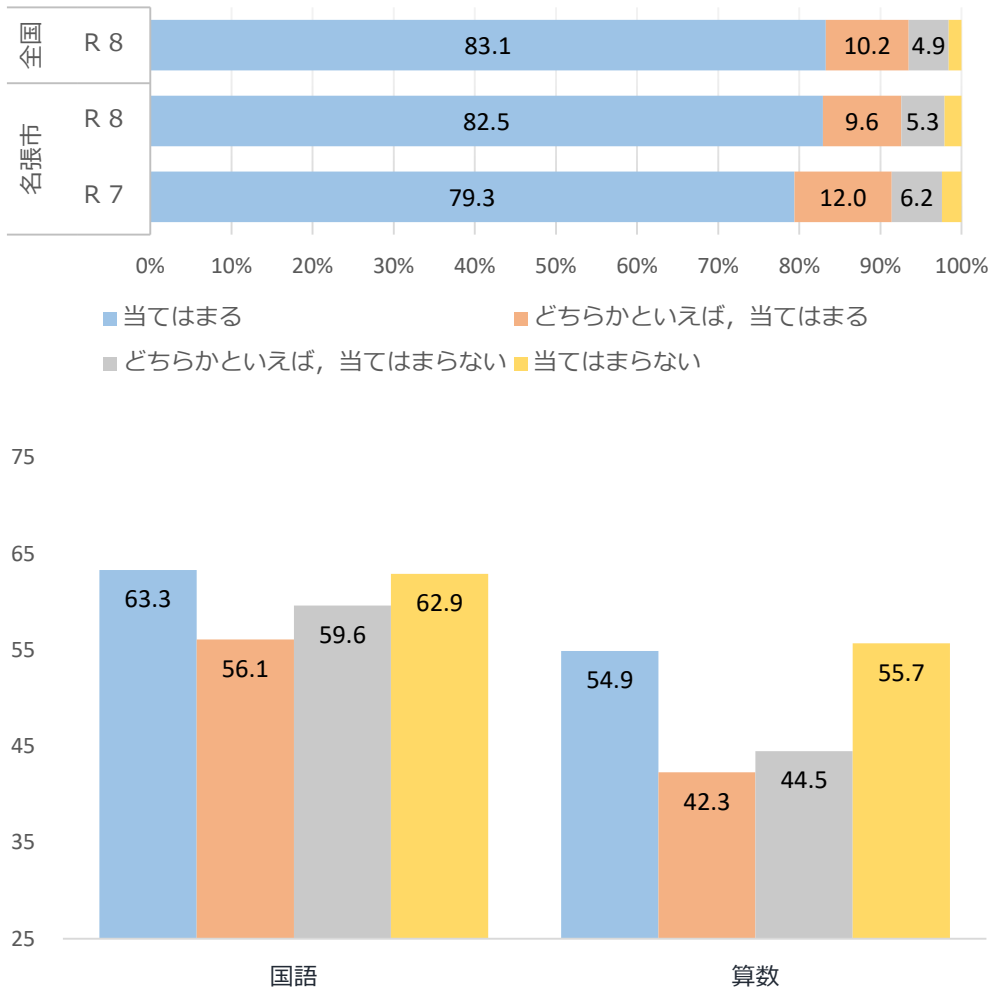


⑦⑧は友達や周りの人を大切にする、学級をよりよくしようとする等、周囲とのかかわりについてです。教科の授業の質の向上だけでなく、安心できる人間関係、学級づくりも学力の向上につながる取組です。

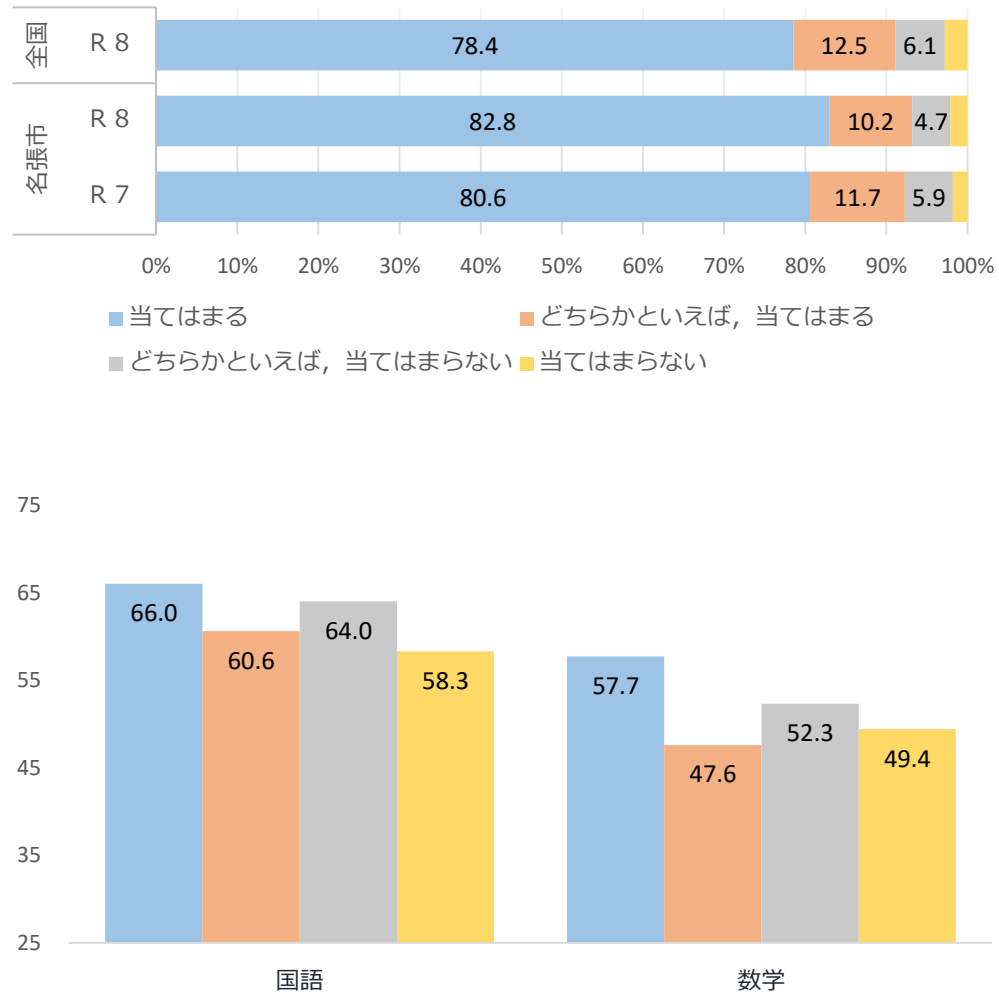
（２）生活習慣に関すること

①朝食を毎日食べていますか。

小学校

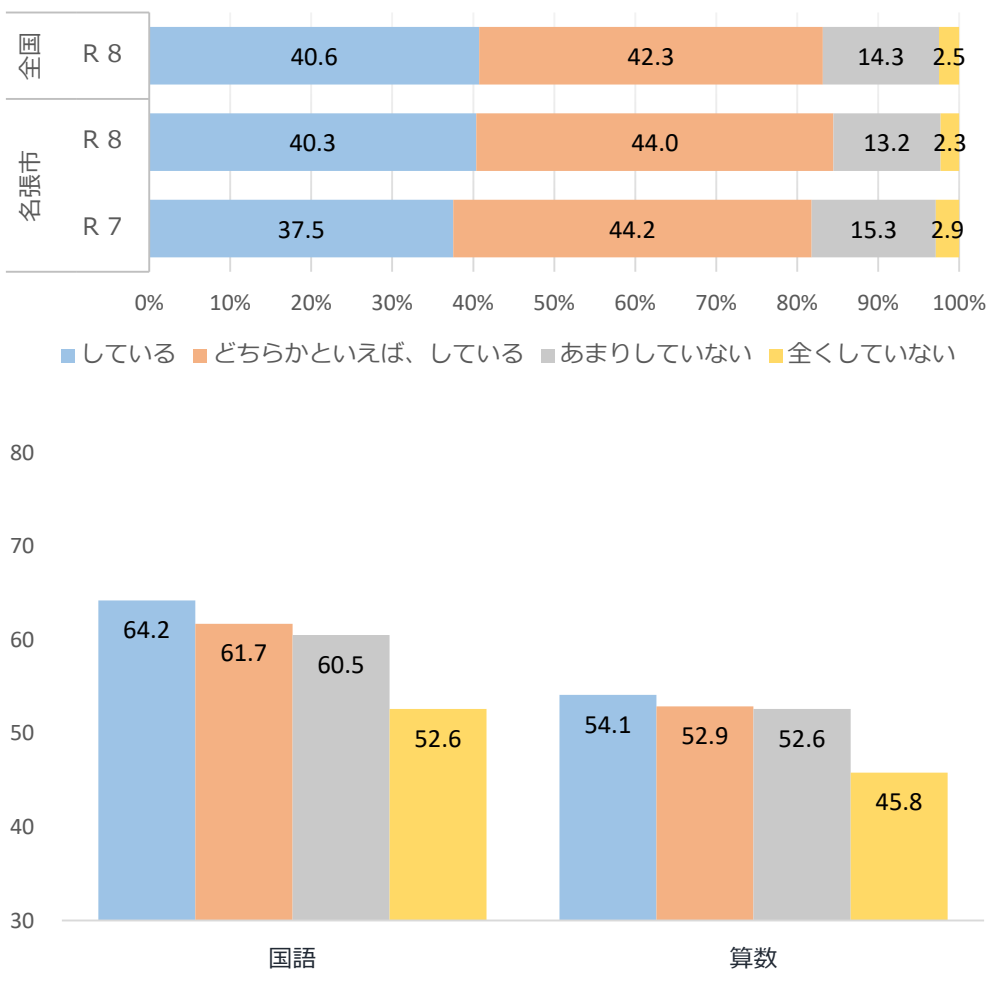


中学校

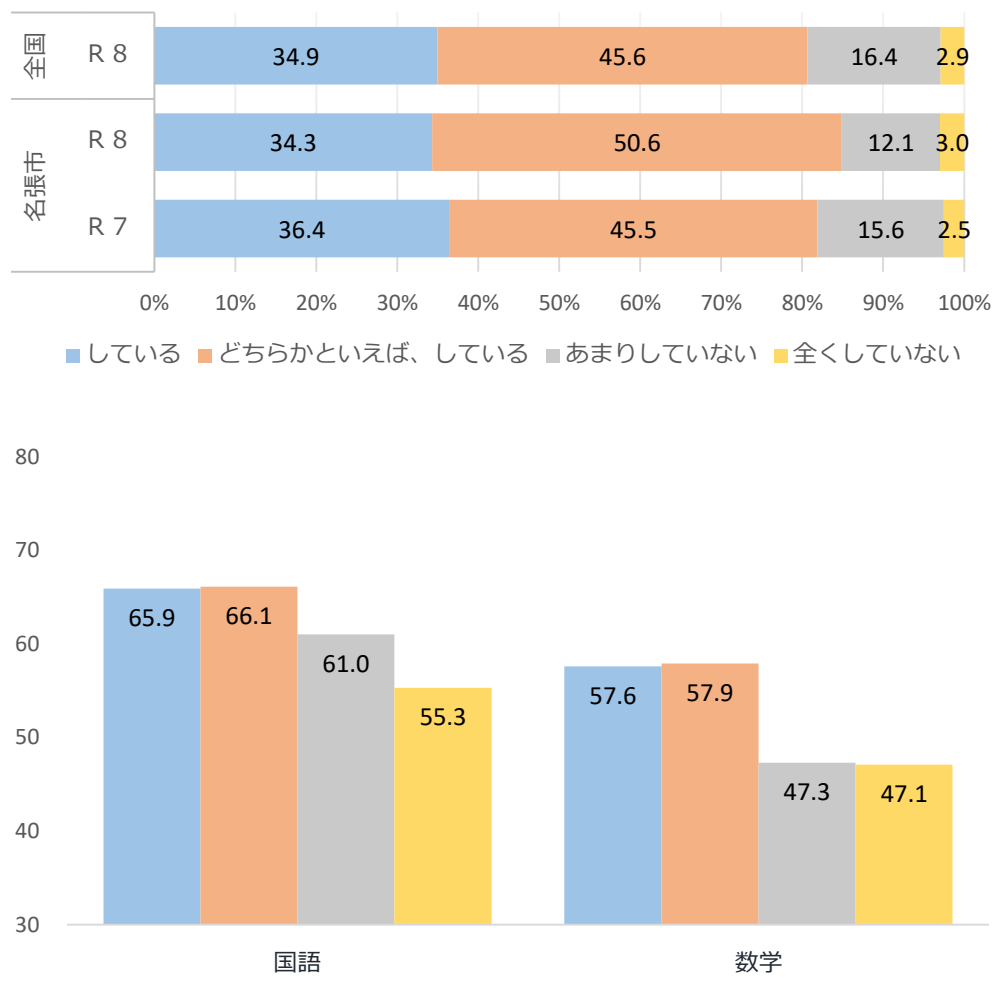


②毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。

小学校

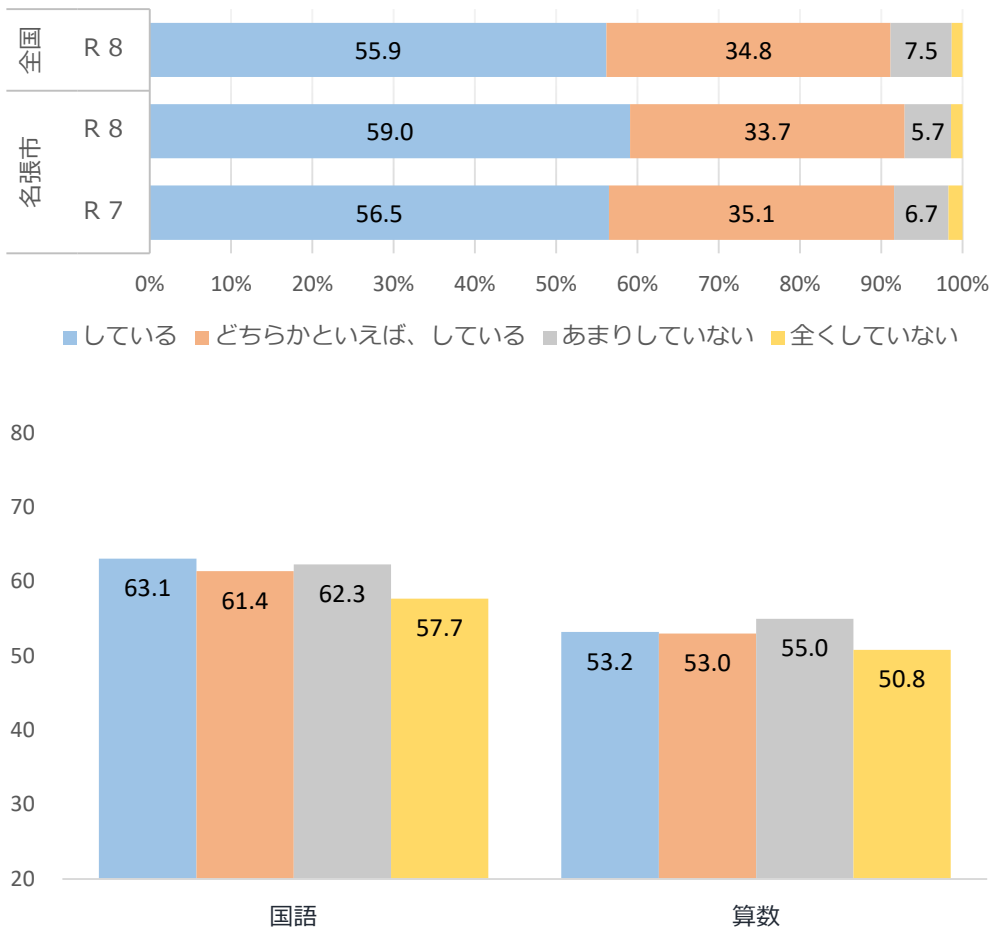


中学校

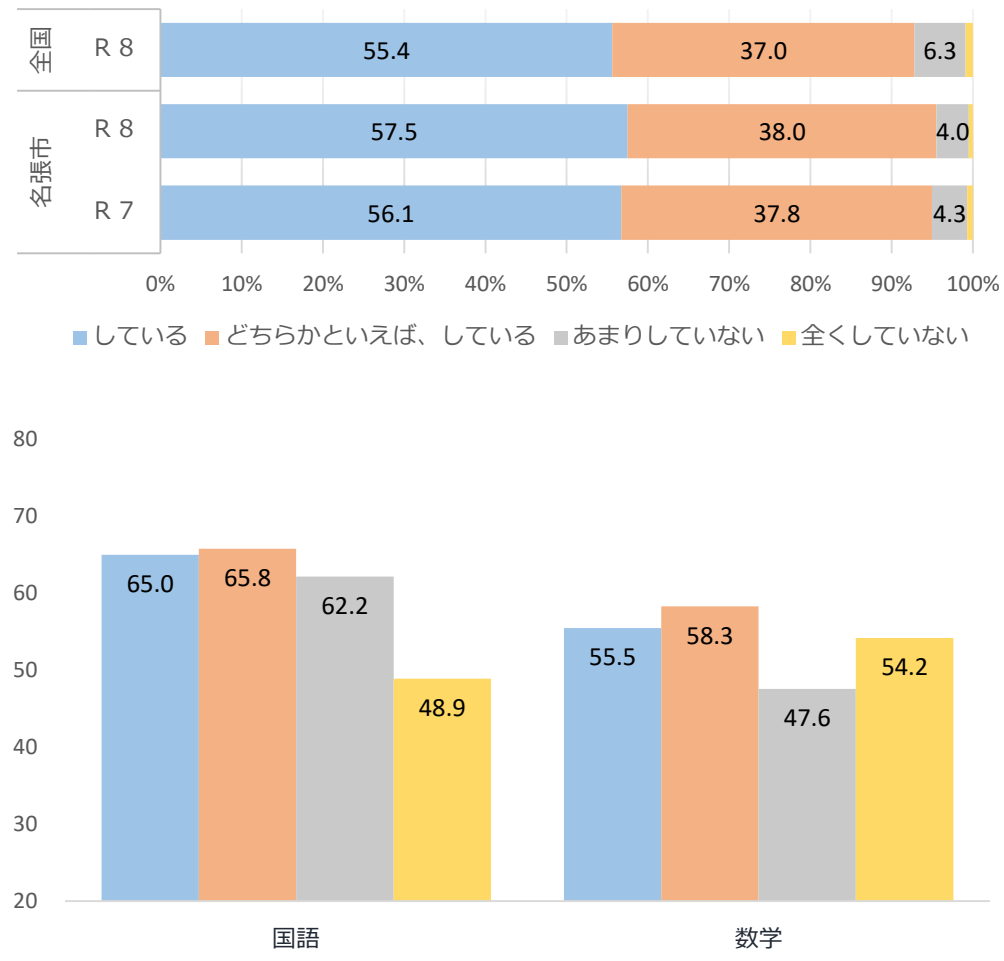


③毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。

小学校



中学校



【生活習慣で特徴的なこと】

・「朝食を毎日食べていますか。」の質問に対して、肯定的な回答割合は、全国平均と比べ、小学校は低く、中学校は高い。昨年度と比べると、小学校、中学校ともに増加している。

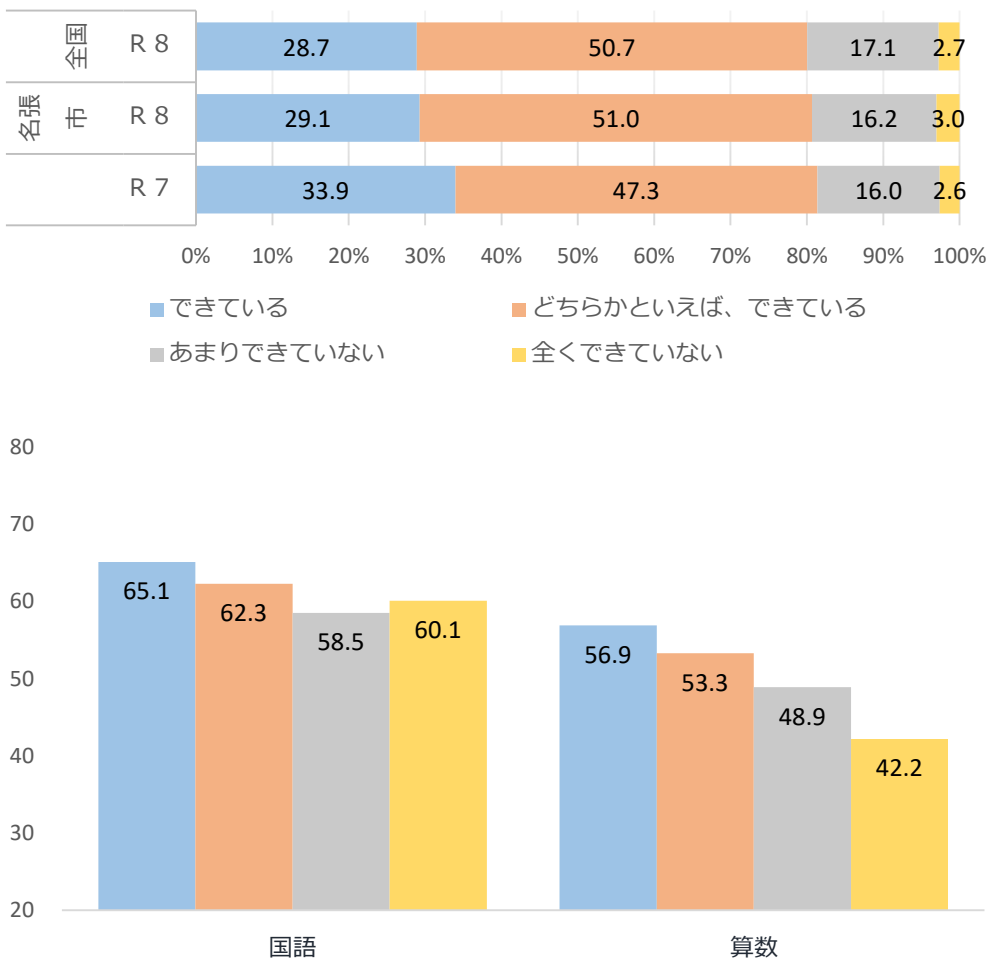
・「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。」という質問に対する肯定的な回答割合は、小学校、中学校ともに全国平均より高い。昨年度と比べると小学校、中学校ともに増加している。

☞ 「朝食の摂取」及び「同じくらいの時刻に寝ていますか。起きていますか。」のクロス集計をみると、「している」と回答した児童生徒と、「全くしていない」と回答した児童生徒との各教科の平均正答率を比較すると、小中学校と差が見られると捉えることができます。児童生徒の健やかな成長のためには、適切な運動、調和のとれた食事、十分な休養・睡眠が大切です。こうした生活習慣を身に付けていくためには家庭の果たすべき役割は大きいところです。学校と家庭がこれまで以上に連携を強化し、生活習慣の確立や生活リズムの向上を学習意欲の向上につなげる必要があります。

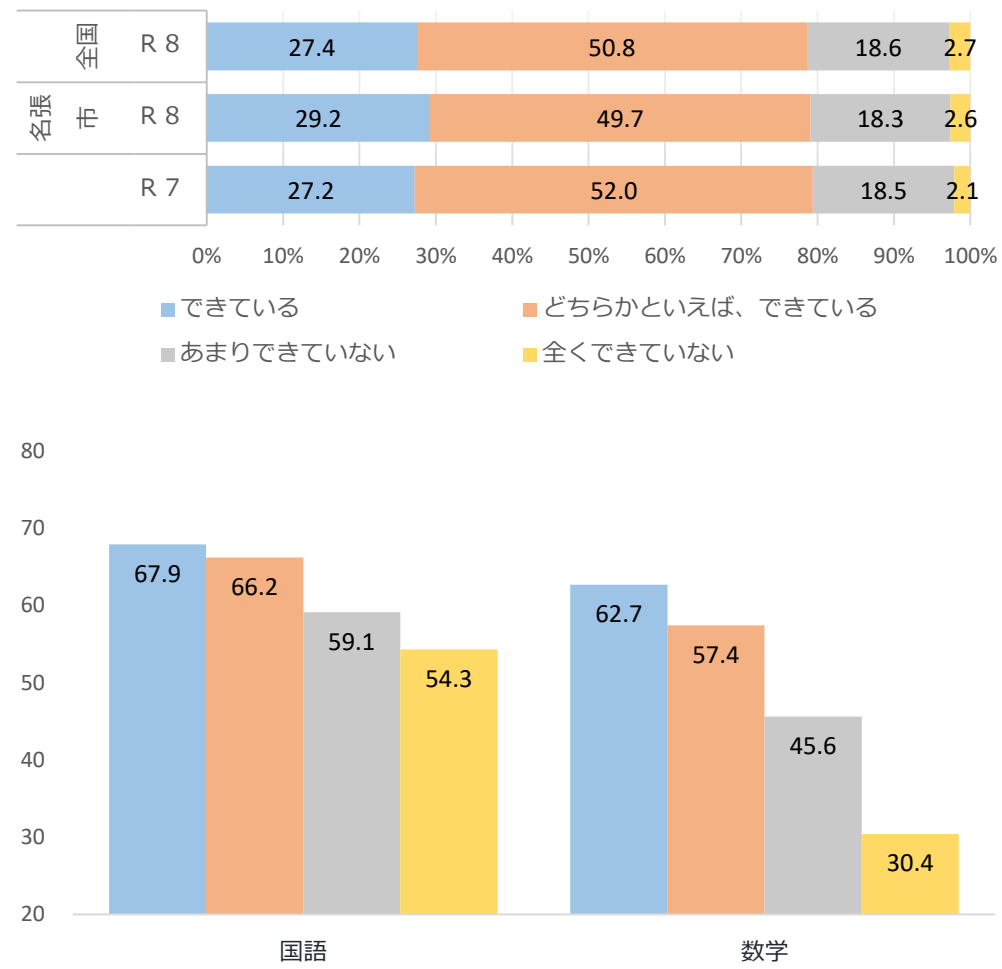
（３）学習習慣等に関すること

①分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。

小学校

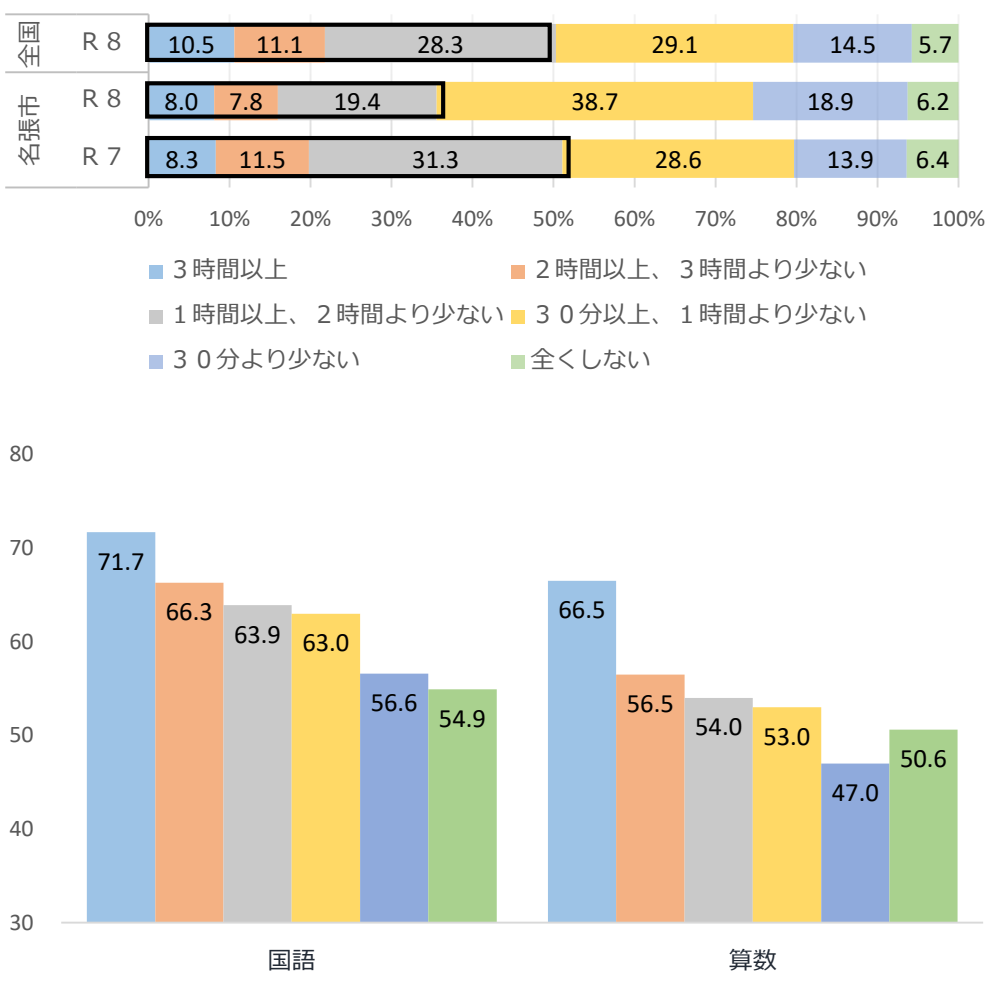


中学校

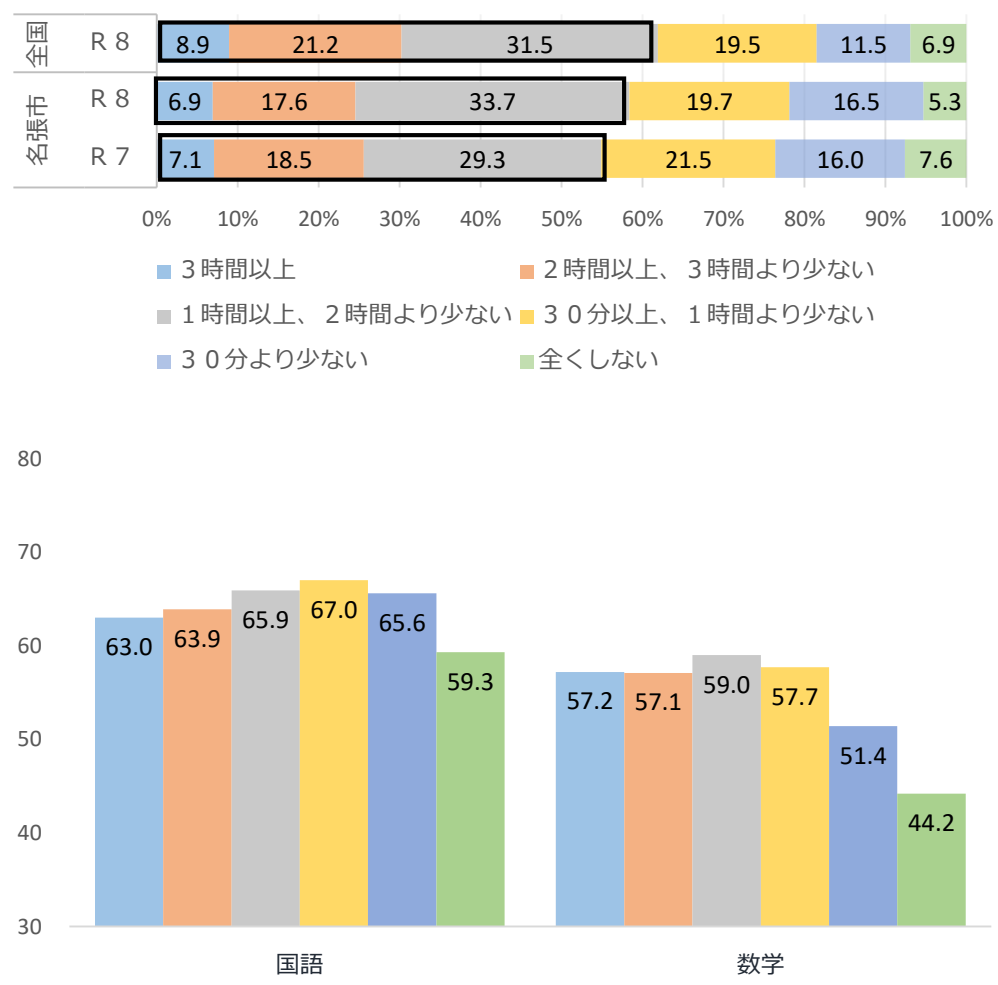


②学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む…黒い枠が１時間以上）

小学校

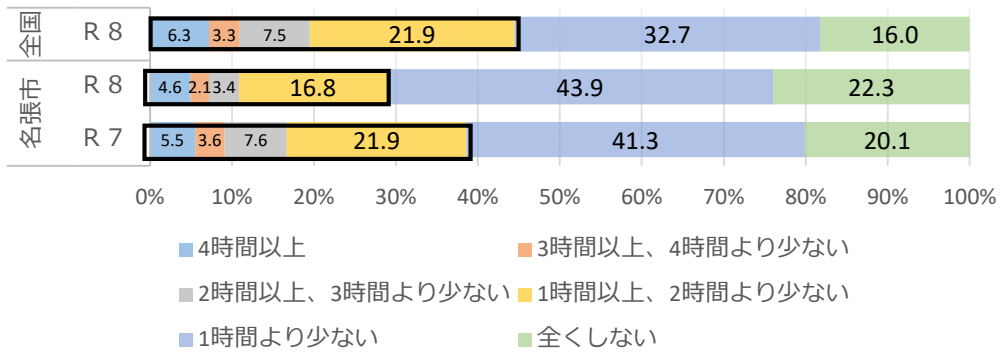


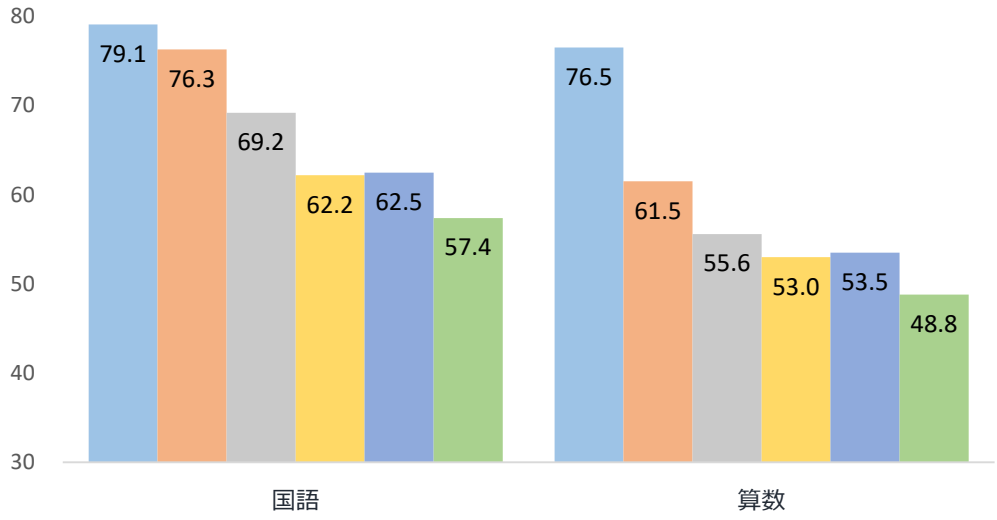
中学校



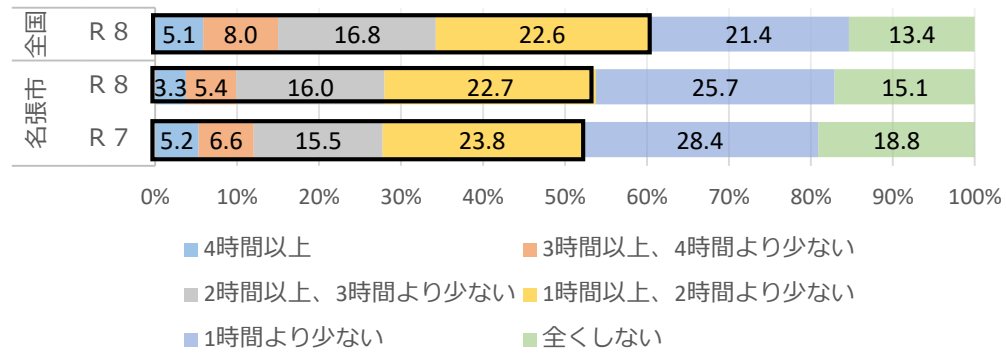
③土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

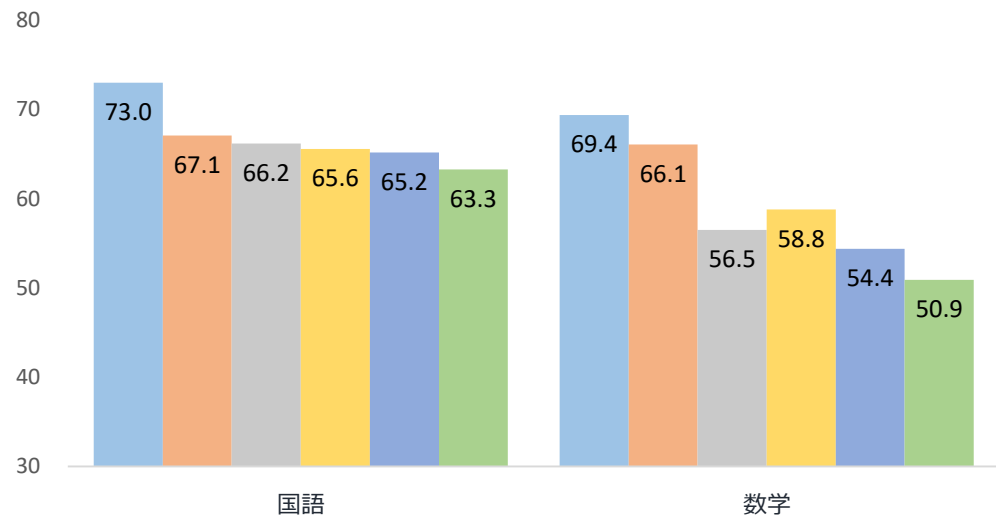
小学校





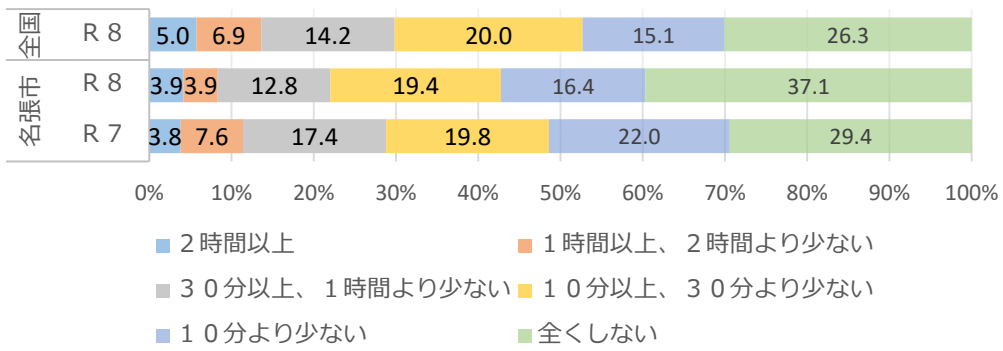
中学校

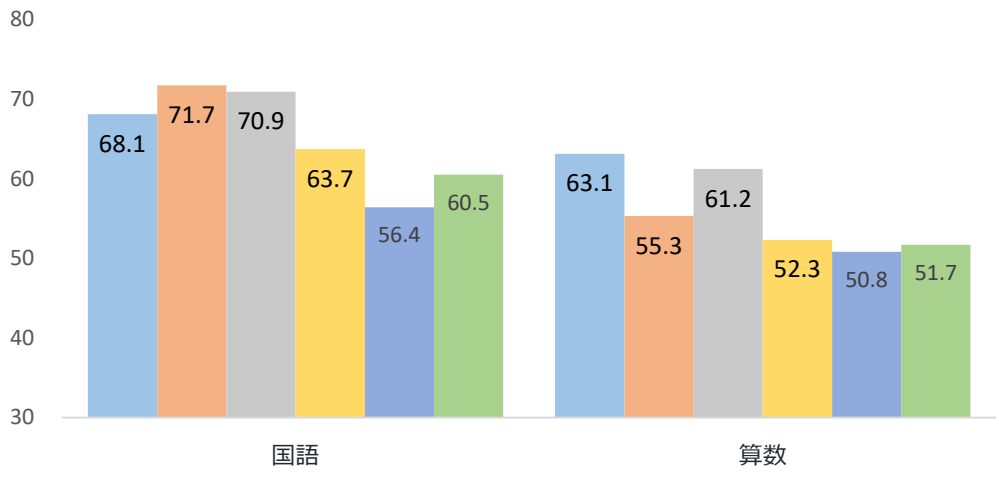




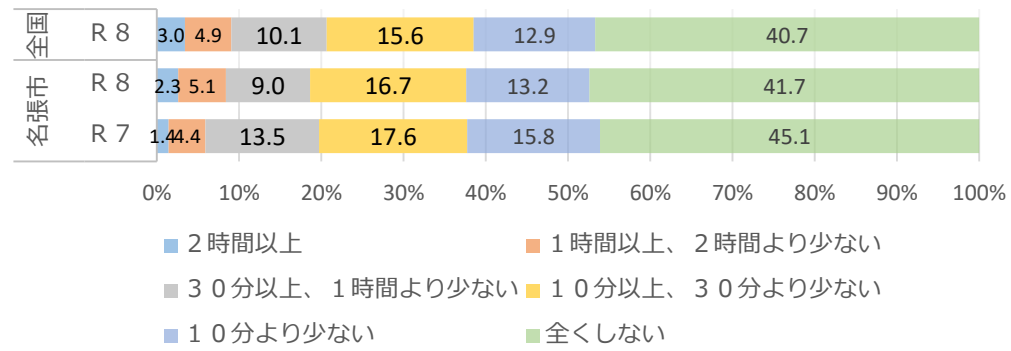
④学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの読書をしますか

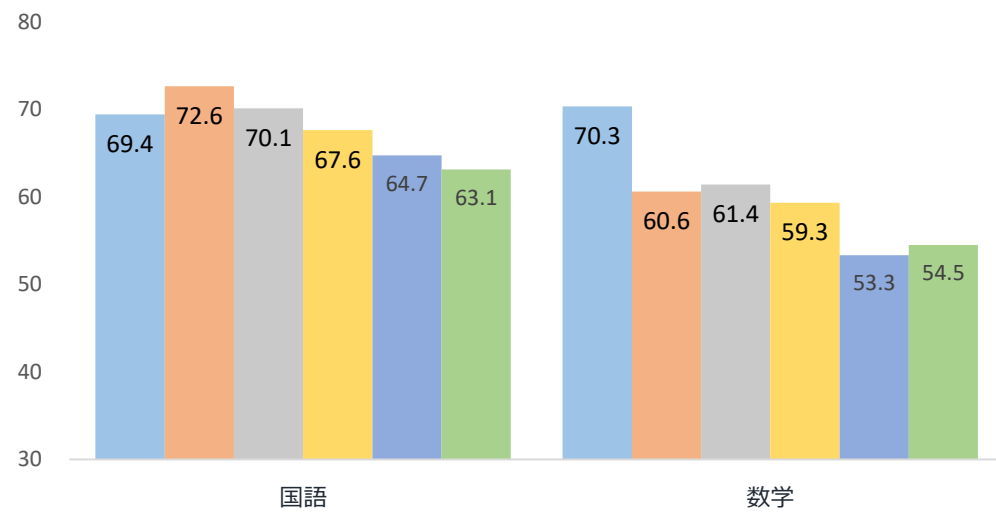
小学校





中学校





【学習習慣等について特徴的なこと】

・小学校、中学校ともに家庭学習、読書時間は全国平均より低い傾向がある。

本市の児童生徒の家庭における学習時間が、平日や休日とも全国平均に比べて短いという結果がみられます。特に小学校における平日の学習時間（１時間以上）の割合が低くなっています。また、１日あたりの読書時間も減少傾向が見られます。学習や読書の習慣化を図るため、家庭学習の出し方の工夫や、読書の楽しさを実感し、家での読書につなげる等、学校での取組と家庭への啓発等、小中学校で共通した取組を展開し、学校と家庭が協働した取組となるよう、さらに連携を深めていく必要があります。

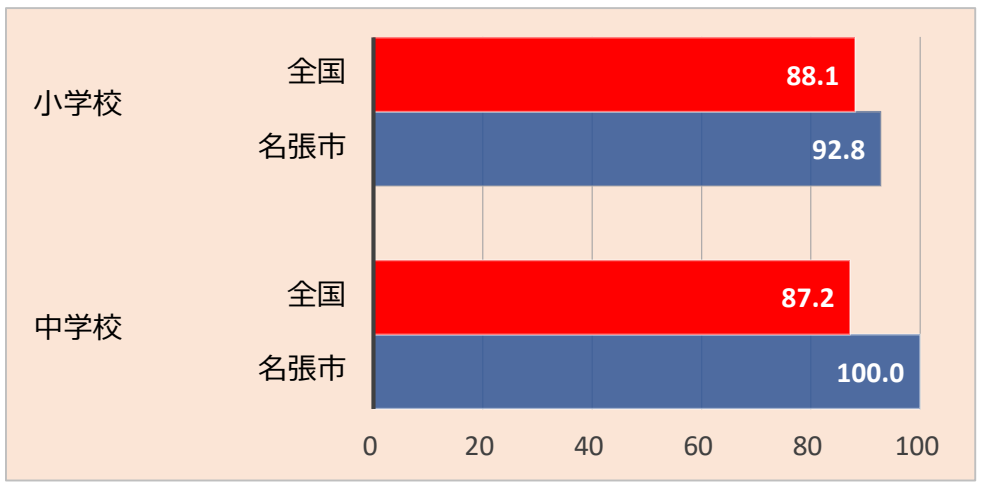
４　学校質問調査結果の特徴的な傾向と分析

「学校質問調査」とは、学校における指導方法に関する取組や、学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査です。

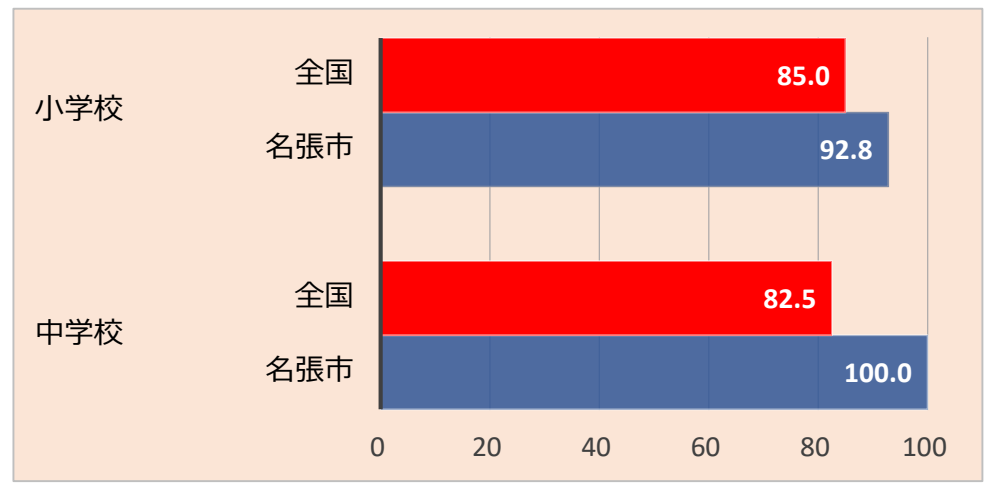
ここでは、「学校質問調査」のうち、特徴的な資料をいくつか示し、その傾向と分析を記載しています。

※質問項目の後に（　）のない場合、グラフの数値は、学校が「よく行った」「どちらかといえば行った」と回答した割合（%）

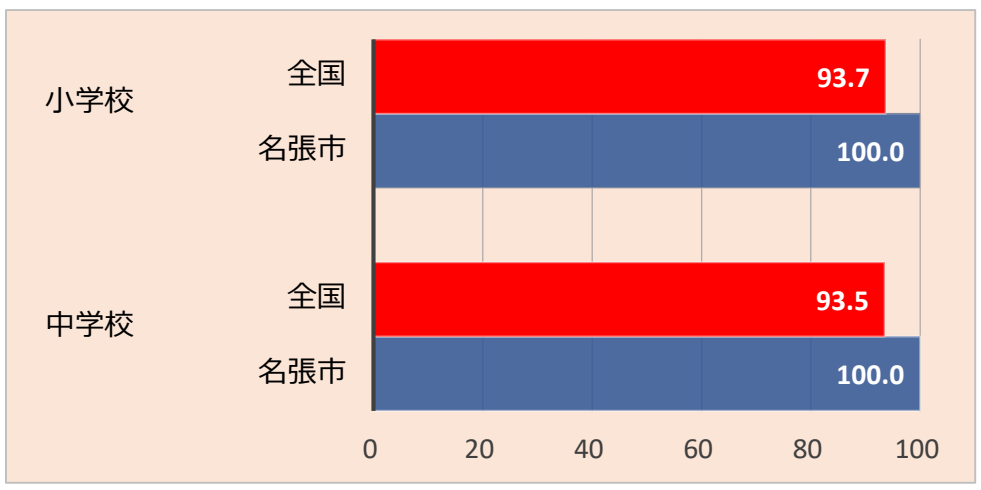
①調査対象学年の児童（生徒）は授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか



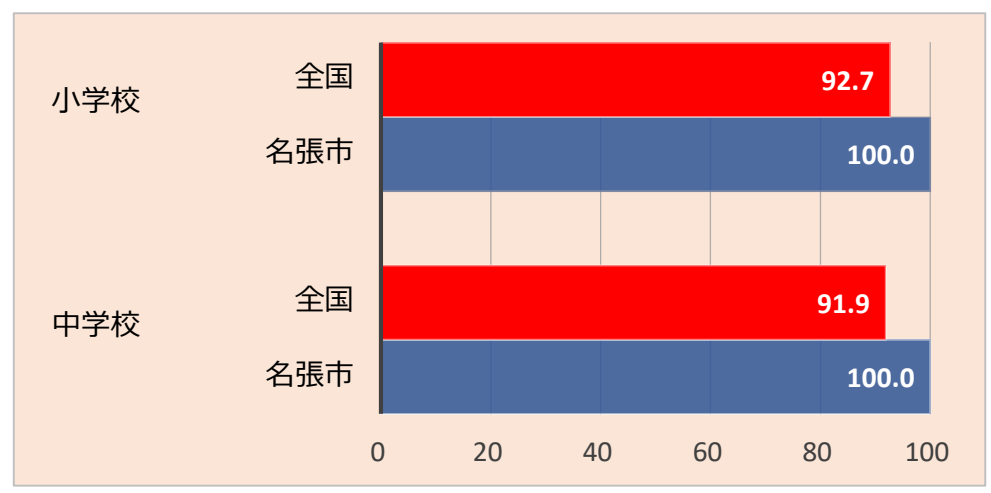
②調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、教科書等の指導に当たって、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか



③調査対象学年の児童（生徒）に対して、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか



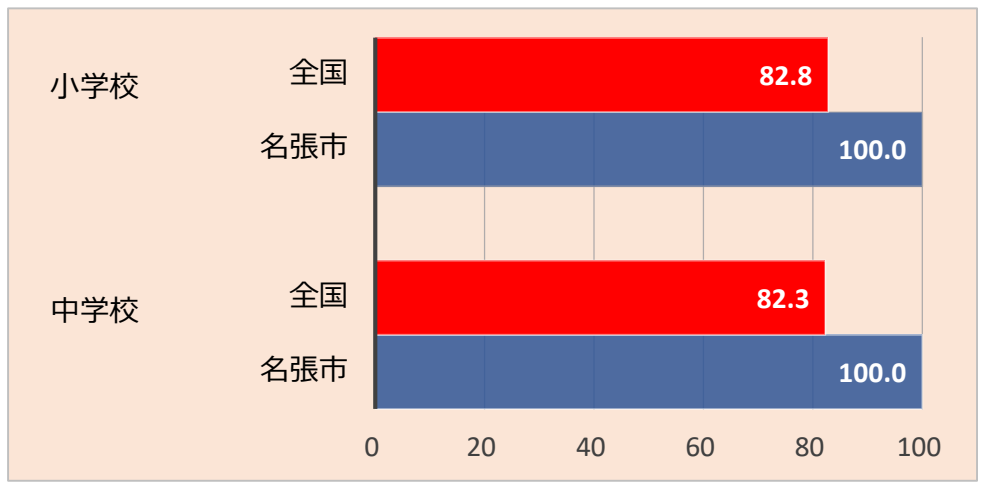
④調査対象学年の児童（生徒）に対して、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話合いを生かして、一人一人の児童が意思決定できるような指導を行っていますか



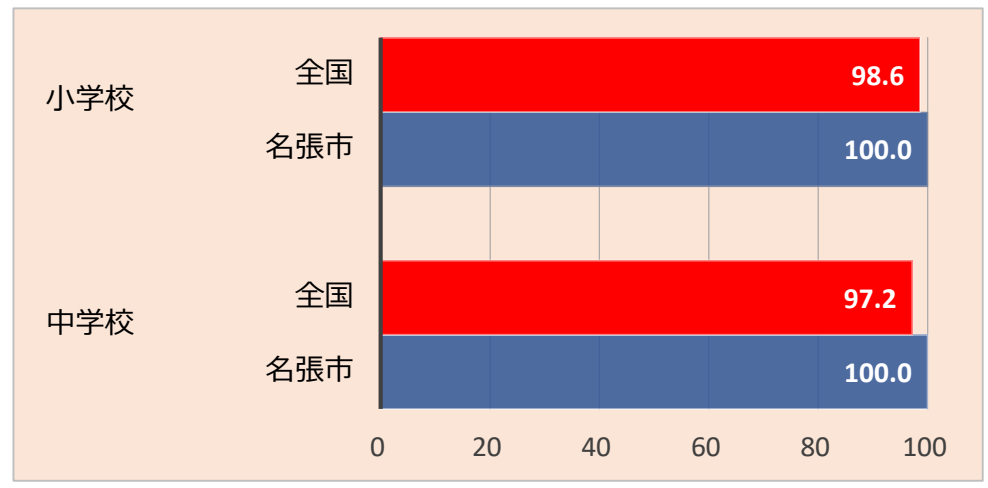
小学校

中学校

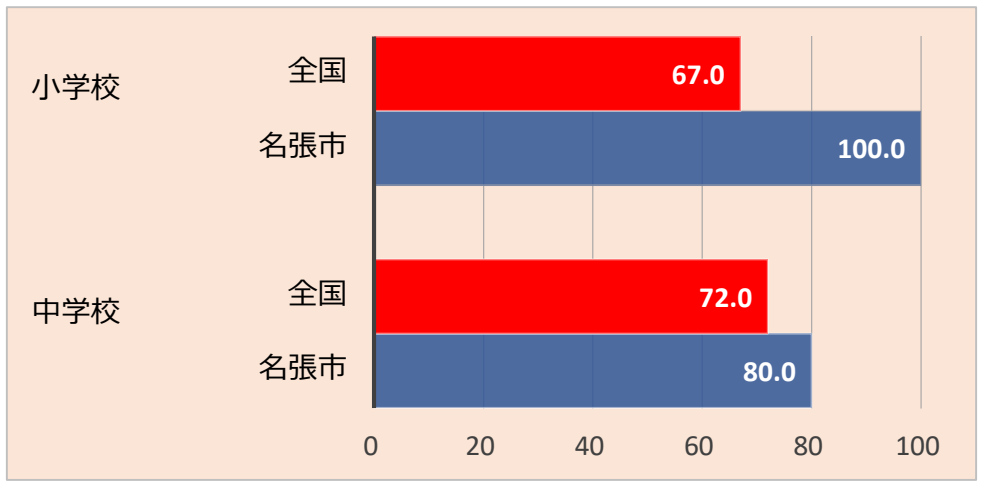
⑤調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか（ほぼ毎日）



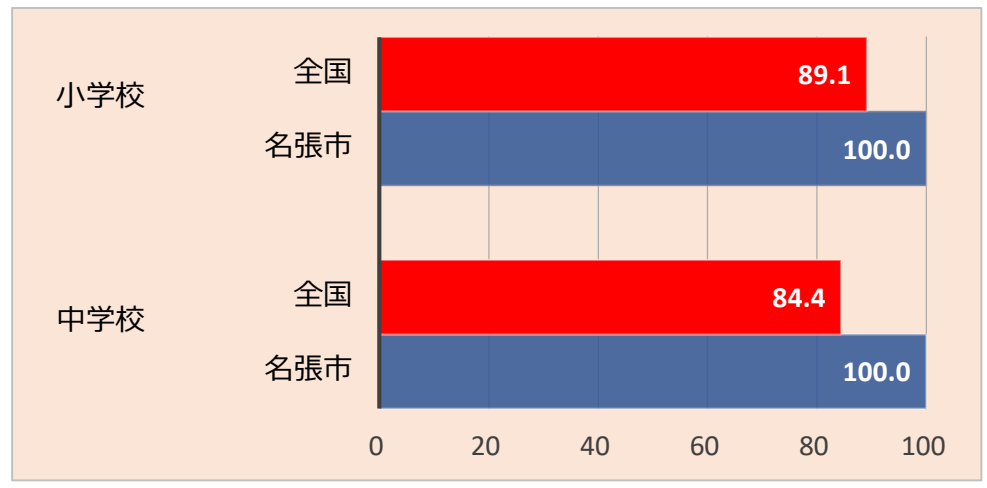
⑥ICT機器やインターネットの利活用について、目的や場面に応じた適切な使い方や、利活用にあたってのルールやマナー（長時間利用防止や情報の取扱いも含む）に関する指導を行いましたか



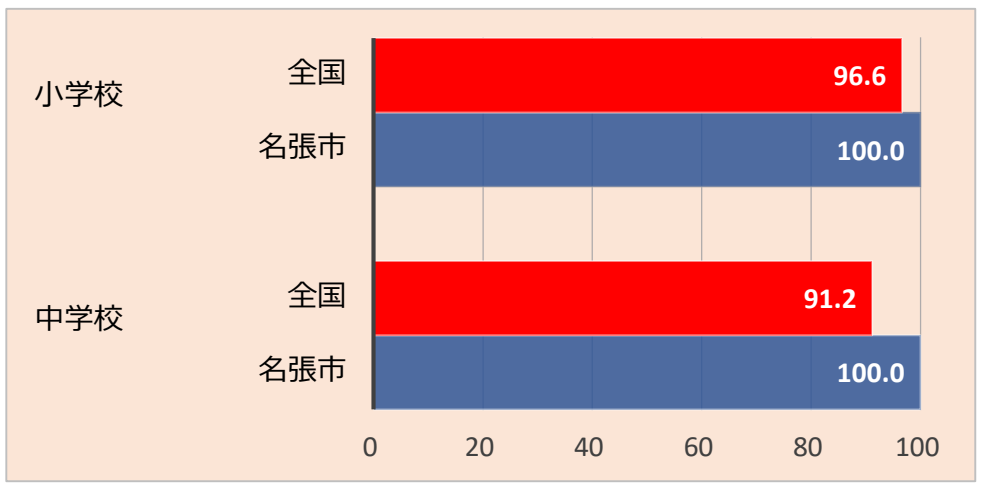
⑦前年度までに、近隣等の中学校〔小学校〕と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか



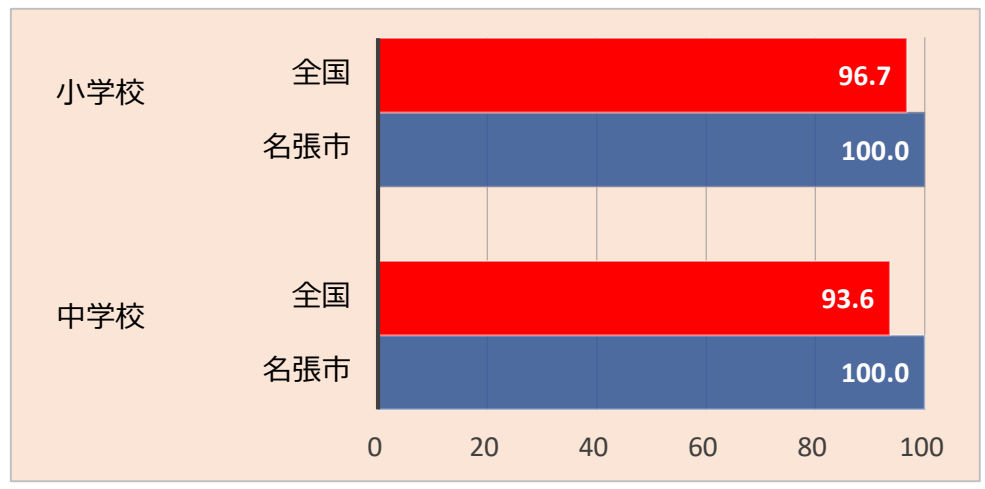
⑧コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか



⑨調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか



⑩令和７年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか



【学校質問調査について特徴的なこと】

・自ら考え、自ら取り組む主体性を育み取組、合意形成を図る、話し合いを生かして意思決定をするなどの場づくりを意識的にしていることがわかる。

・タブレットは小学校、中学校ともに、ほぼ毎日使用している。併せて、適切な使用やマナーについて等に関する指導もしていることがわかる。

・すべての中学校区において小中一貫教育が実施されていることもあり、近隣の小学校（中学校）と教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、共通した取組については、全国より進んでいる。

・コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まっている。

・家庭学習の働きかけについては、「学習の手引」や自主学習のモデルを示すなど、様々な工夫を行っている。昨年度までは100パーセントには至っていなかったが、今年度は小中学校共に100%だった。しかし、児童生徒の質問調査では家庭学習の時間は、小中学校とも全国を下回っている。実効性のある取組となるよう、引き続き、分析・検証し、改善を図る必要がある。

５　成果と、課題と今後の取組について

名張市教育委員会では、令和３年度から「第二次名張市子ども教育ビジョン後期計画（令和３年３月策定）に基づき、「夢をはぐくみ　心豊かで　元気な　『ばりっ子』」をめざす子ども像に、さまざまな取組を進めてきました。今年度からは「第三次名張市子ども教育ビジョン」（令和７年度３月策定）がスタートしています。

子どもたちの確かな学力の育成をめざし、子どもの心理的・身体的な発達段階に応じたきめ細やかな指導・支援を行うことにより、基礎的・基本的な「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の資質・能力を育む取組を行っています。

全国学力・学習状況調査（以下、全国学調）は、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する」ことを目的としています。

本教育委員会や各学校では、本調査結果から子どもたちの学力や学習状況を把握・分析、検証し、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に取り組み、子どもたちにとってわかる授業づくりを進めることにより、子どもたちの学習意欲と学力の向上をめざすとともに、子どもたちの生きる力を育て、中学卒業時には充分な学力を培うことをめざしています。これまでの本市の小中学校の取組の結果、本年度の調査で以下のような成果が現われています。

〇国語において、小学校、中学校ともに漢字の書き取りや単語の活用等の「言葉の特徴や使い方に関する事項」や、自分の考えが伝わるように表現を工夫したり、必要に応じて話の内容を捉えることができるかどうかをみる等の「話すこと・聞くこと」の領域について強みがみられました。
　数学において、与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取る等の「関数」の領域で強みがみられました。
　英語において、日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を読み取ることができるかどうか等の「読むこと」、日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうか等の「書くこと」の領域に強みがみられました。
〇児童生徒質問調査において、「将来の夢や目標をもっていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問に対しての肯定的な回答が昨年度より小学校、中学校ともに割合が高くなっています。

しかし、同時に以下のような課題もあります。

〇国語において、小学校では、引用して自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうか等の「書くこと」の領域について正答率が低く課題がみられます。中学校では、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができるかどうか等の「読むこと」の領域について正答率が低く課題がみられます。
〇算数において、直方体の箱の形を構成する面について理解しているかどうか等の「図形」の領域や、基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうか等の「変化と関係」の領域について正答率が低く課題がみられます。
〇数学において、データの傾向を的確に捉え、判断の理由を説明することができるかどうか等の「データの活用」の領域について正答率が低く課題がみられます。
〇英語において、日常的な話題について、話を聞き、概要を捉えることができるかどうか等の「聞くこと」の領域について正答率が低く課題がみられます。
〇児童生徒質問調査において、学校の授業以外の学習時間が少ない傾向が続いています。中学校では平日の学習時間が増えましたが、小学校は減少しています、学習習慣の確立に向けて家庭への啓発に加えて家庭学習の出し方の工夫、それぞれの時間の使い方について考えて自己の学びを調整する機会の確保をしていきます。また、読書時間についても小学校、中学校ともに減少傾向が見られます。

小学校、中学校９年間の学びを学校、地域、家庭と連携して進めていっていくことが今後も大切です。また、各教科での強み・弱みを主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげていきます。

このような課題克服のため、「第三次名張市子ども教育ビジョン」の方針に基づき、さらなる学力の向上に向けた以下の取組を進めます。

＜学習指導要領を踏まえた授業改善＞

全国学調の調査問題は、学習指導要領が求める育成を目指す資質・能力を踏まえ、具体的なメッセージとして示すものとなるよう検討され、作成されています。結果を分析することで、今求められている力がどれだけ定着し、また、どのような課題があるかがみえてきます。すべての教員による指導方法の改善や、児童生徒の学習改善・学習意欲の向上につながる授業改善につなげていくことが重要です。

昨年度より、教科ごとの悉皆研修として実施していた「学力向上教科研修会」の対象を中学校だけでなく、小学校にも広げ、授業力の向上につなげました。今年度も市教育委員会の指導主事が学校を訪問し、学校での研修への参加、学力向上に向けた各学校の今後の取組の聞き取りや視点を持った授業参観等を実施し、具体的な指導・助言をするなどの学校支援を行います。また、学校を越えたモデルとなる授業参観の機会を確保し、自身の授業を振り返ったり、他の人の授業から学んだりする場を大切にしていきます。

さらに、県教育委員会とも連携を図りながら、指導主事を招聘した研修や授業参観を行うなど、学習指導要領を踏まえた授業改善を進めていきます。

加えて、昨年度作成したポンチ絵の３つの取組

①自己肯定感を涵養し、主体的な学びにつながる取組

②主体的、対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の取組

③家庭学習の取組について

の中でも「対話的な学びの実現」を中心に据えて、同じ方向をめざしながら、各校での改善を進めていきます。

＜小中一貫教育の推進＞

全国学調の学校質問調査での、「近隣等の学校と教科の教育課程の接続や教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組をどの程度行いましたか」の質問項目について、「よく行った」「どちらかといえば、行った」の回答が小中学校とも全国平均よりも高い割合となりました。今後もさらに、中学校区のすべての教職員が９年間の学習等について具体的なイメージをもち、当該学年における指導の充実や指導方法の改善を図るとともに、校種の枠を越えた指導・教育を行うことにより、子どもたちの学びと育ちを保障し、「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の資質・能力を育んでいきます。同時に、自己有用感や人間関係を形成する力等の育成についても、キャリア教育等をはじめ、学校の教育活動全体を通じて育てるとともに、９年間の子どもの育ちと学びの系統性・連続性のある指導を一層進めていきます。

＜コミュニティ・スクールの推進・充実＞

各学校の学校運営協議会では、児童生徒や教職員と懇談をする機会を設けるなどの工夫がみられます。全国学調の学校質問調査において、「コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まりましたか」の質問項目への肯定的な回答が小中学校とも全国平均よりも高い割合となっており、充実に向けた取組が進められています。

一方で、同調査では、家庭学習の定着、読書の習慣化等に課題がみられます。課題の改善に向けて、学校と家庭が課題を共有する中で、学校とＰＴＡや学校運営協議会等の学校関係組織が意図を持って、具体的な行動プランを進めていけるよう、一層の連携・協働に努めていきます。